

新しい総合計画策定に向けた アンケート調査報告書

平成 25 年 12 月
盛 岡 市

目 次

I	市民の声アンケート	1
1	調査の概要	2
2	調査回答者の属性	
	(1) 性別	4
	(2) 年齢	4
	(3) 居住地区	5
	(4) 職業	6
	(5) 通算居住年数	6
	(6) 盛岡市の20歳以上の人口との比較	7
3	調査結果	
	(1) 調査結果から見る傾向	8
	(2) 盛岡市の将来像について(問1)	12
	(3) 盛岡市のまちづくりについて(問3~10)	18
	(4) 理想の盛岡、まちづくりについて(問2 記述式)	50
II	まちづくりアンケート	89
1	調査の概要	90
2	調査回答者	92
3	調査結果	
	(1) 盛岡市の現況について(問1、2)	93
	(2) 盛岡市の将来像について(問3)	97
	(3) 考慮すべき社会の動向について(問4)	99
	(4) まちづくりへの提言について(問5 記述式)	101
III	ふるさとまちづくりアンケート	131
1	調査の概要	132
2	調査回答者	134
3	調査結果	
	(1) 盛岡市の現況について(問1、2)	135
	(2) 盛岡市の将来像について(問3)	139
	(3) 考慮すべき社会の動向について(問4)	141
	(4) まちづくりへの提言について(問5 記述式)	143

I 市民の声アンケート

I 市民の声アンケート

1 調査の概要

(1) 調査の目的

市民のこれからの盛岡市のまちづくりや将来像などに関する意見を把握し、その結果を新しい盛岡市総合計画に反映させることを目的としています。

(2) 調査の設計

- ① 調査対象 盛岡市に住民登録のある満 20 歳以上の市民
(平成 25 年 7 月 1 日現在の住民基本台帳から無作為抽出)
- ② 標本数 3,000 人
- ③ 調査方法 無記名式の質問紙調査。郵送による配布・回収
- ④ 調査期間 平成 25 年 8 月 30 日から 9 月 20 日まで (集計対象 9 月 30 日)

(3) 調査の内容

設問	調査項目
問 1	盛岡市の将来像
問 2	理想の盛岡、まちづくり (記述式)
問 3	まちづくり
問 4	産業・観光の振興
問 5	教育・文化活動の充実
問 6	保健・福祉・医療の充実
問 7	少子化への対応
問 8	高齢化への対応
問 9	環境への対応
問 10	都市の魅力創造

(4) 回収結果

対象者数	有効回収数	回収不能数	有効回収率
3,000 人	1,223 人	1,777 人	40.8%

(5) 報告書の見方

- ① 比率（％）は、各設問の回答者数を基数として算出しています。
- ② 集計結果はすべて、小数点第2位を四捨五入しています。
- ③ 設問は全て複数回答を依頼していますので、比率の合計は100.0%を超えます。
- ④ 依頼回答数を超える回答など、設問の依頼形式に沿わない回答は無効としています。
- ⑤ 無回答・無効は合わせて不明として表示しています。
- ⑥ 前回調査比較の図表は、平成15年7月に実施したアンケート調査との比較です。
前回調査と今回の調査では、調査対象者数、回収率は異なりますが、設問内容は同様にしています。

(参考 平成15年7月に実施したアンケート調査結果)

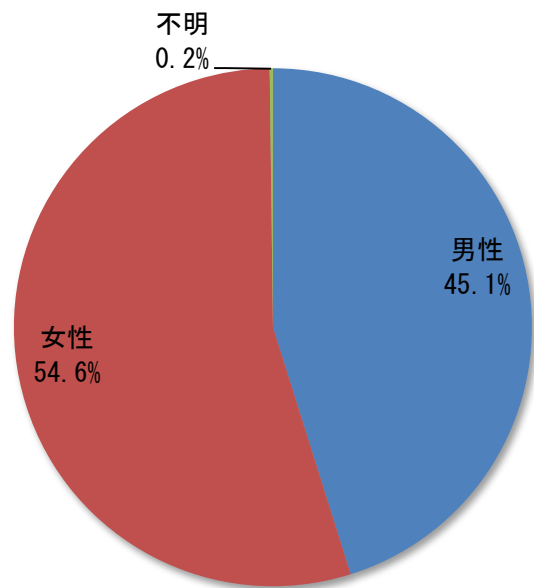
対象者数	有効回収率
1,400 人	40.2%

2 調査回答者の属性

(1) 性別（回答者数 1,223 人）

「女性」が多くなっています。

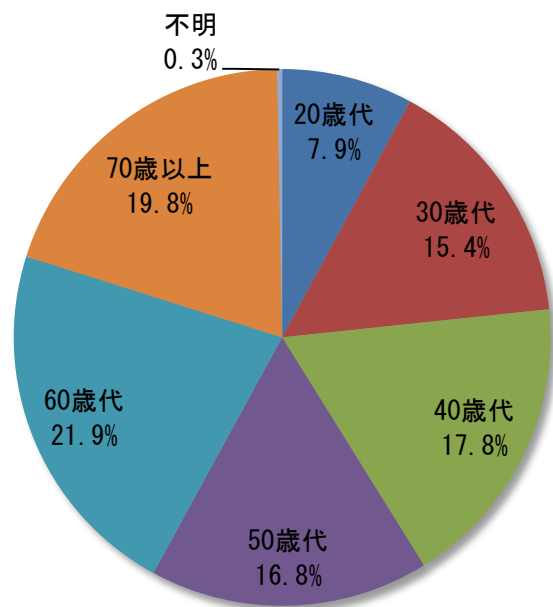
性別	回答者数(人)	構成比(%)
男性	552	45.1
女性	668	54.6
不明	3	0.2



(2) 年齢（回答者数 1,223 人）

「60 歳代」が最も多く、「20 歳代」が最も少なくなっています。

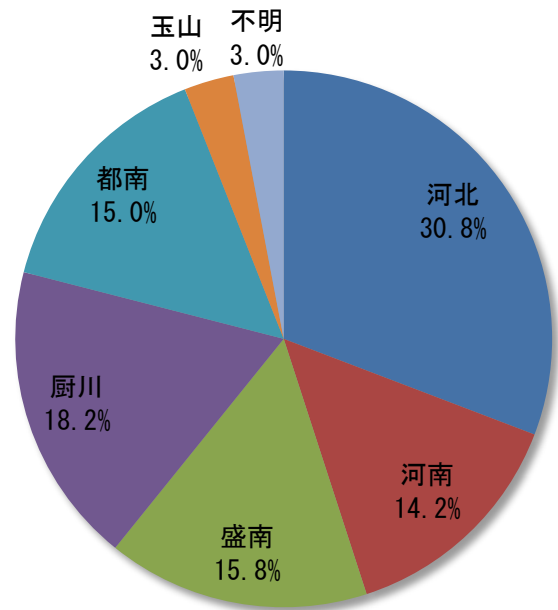
年齢	回答者数(人)	構成比(%)
20 歳代	97	7.9
30 歳代	188	15.4
40 歳代	218	17.8
50 歳代	206	16.8
60 歳代	268	21.9
70 歳以上	242	19.8
不明	4	0.3



(3) 居住地区（回答者数 1,223 人）

「河北地区」が最も多く、「玉山地区」が最も少なくなっています。

居住地区	回答者数 (人)	構成比 (%)
河北	377	30.8
河南	174	14.2
盛南	193	15.8
厨川	222	18.2
都南	183	15.0
玉山	37	3.0
不明	37	3.0



■ 居住地区の区分

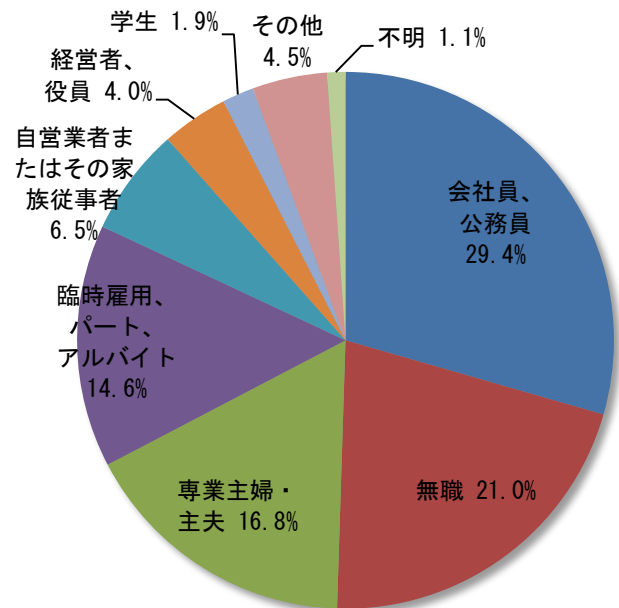
居住地区については、現行コミュニティ区分を基本単位とし、市域を次の6地区に区分して集計しています。

河北	桜城	仁王	上田	緑が丘	松園	山岸	上米内
河南	城南	加賀野	中野	杜陵	大慈寺	築川	
盛南	仙北	本宮	太田	繫			
厨川	西厨川	土淵	東厨川	青山	みたけ	北厨川	
都南	見前	飯岡	乙部				
玉山	好摩	巻堀姫神	渋民	玉山藪川			

(4) 職業（回答者数 1,223 人）

「会社員、公務員」が最も多くなっています。

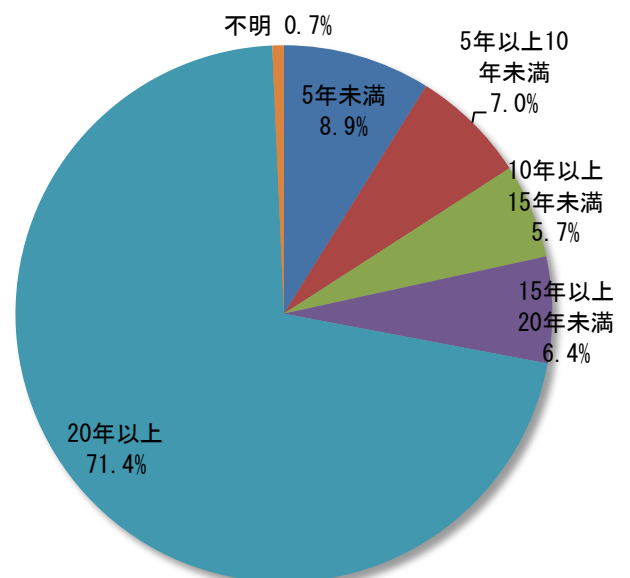
性別	回答者数 (人)	構成比 (%)
会社員、公務員	360	29.4
無職	257	21.0
専業主婦・主夫	206	16.8
臨時雇用、パート、アルバイト	179	14.6
自営業者またはその家族従事者	80	6.5
経営者、役員	49	4.0
学生	23	1.9
その他	55	4.5
不明	14	1.1



(5) 盛岡市における通算居住年数（回答者数 1,223 人）

「20 年以上」が最も多くなっています。

性別	回答者数 (人)	構成比 (%)
5 年未満	109	8.9
5 年以上 10 年未満	85	7.0
10 年以上 15 年未満	70	5.7
15 年以上 20 年未満	78	6.4
20 年以上	873	71.4
不明	8	0.7



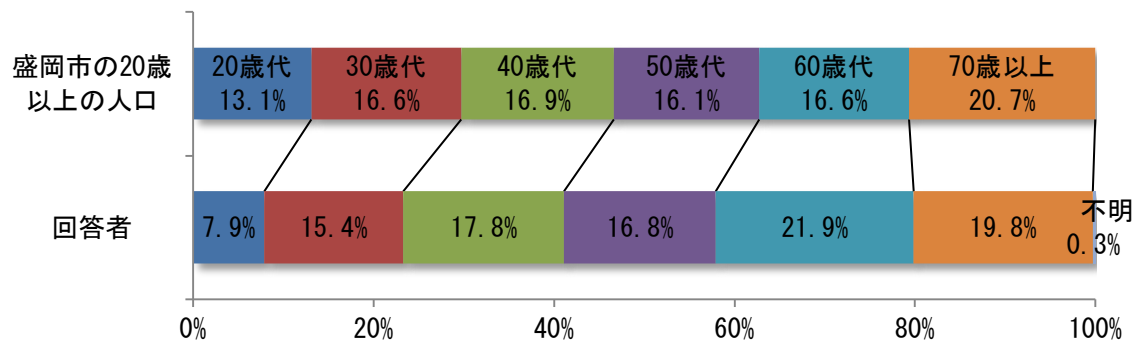
(6) 盛岡市の20歳以上の人口との比較

		盛岡市の20歳以上の人口(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)
① 年齢	20歳代	31,678	13.1	97	7.9
	30歳代	40,142	16.6	188	15.4
	40歳代	40,899	16.9	218	17.8
	50歳代	39,014	16.1	206	16.8
	60歳代	40,187	16.6	268	21.9
	70歳以上	49,930	20.7	242	19.8
	不明			4	0.3
	計	241,850	100.0	1,223	100.0
② 性別	男性	112,319	46.4	552	45.1
	女性	129,531	53.6	668	54.6
	不明			3	0.2
	計	241,850	100.0	1,223	100.0

※盛岡市の20歳以上の人口は、平成25年6月30日現在の住民基本台帳人口です。

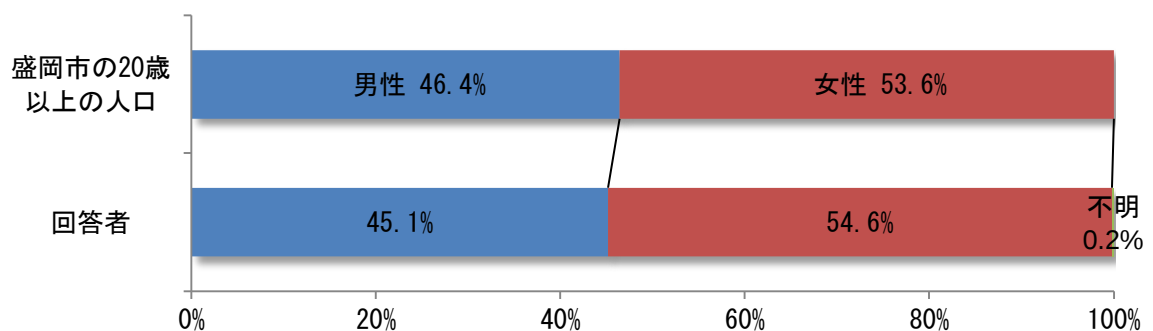
① 年齢

「20歳代」が少なく、「60歳代」が多くなっていますが、ほぼ一致しています。



② 性別

ほぼ一致しています。



3 調査結果

(1) 調査結果から見る傾向

● 盛岡市の将来像（問1）

「盛岡市が10年後、どのようなまちであってほしいか」の問に対して、50%を超える市民が「保健、福祉、医療が充実した地域で支え合うまち」を選んでおり、どの属性においても高い割合となっています。また、20歳、30歳代では、「子育て支援が充実したまち」が高い割合で選ばれています。

人口減少時代に入り、少子高齢化に伴う様々な課題を抱える中で、保健、福祉、医療分野へ将来的な不安を抱いている市民が多いと考えられ、人口減少、少子高齢化の社会潮流の中でも、多くの市民が健康で安心して幸せに暮らせるまちであることを強く望んでいるものと推測されます。

「災害に強い安全に安心して暮らせるまち」については、今回新たに選択肢に追加した項目ですが、27.9%の市民が選んでおり、これは、平成23年3月に発生した東日本大震災や今年8月の大雨災害の経験が大きく影響していると考えられ、災害の教訓を活かした安全に安心して暮らせるまちであることを望んでいるものと推測されます。

「自然環境とまち並みが調和したまち」については、各年代とも多くの人が選んでおり、全体で26.5%の市民が選んでいます。「自然環境とまち並みの調和」は、本市の特徴であり、各世代が、水と緑に象徴される自然の豊かさ、歴史と伝統に支えられた特徴のあるまち並みの高度な調和を高く評価していると考えられ、本市の特徴を将来に活かすまちづくりの継続を望んでいるものと推測されます。

● まちづくり（問3）

「これからのまちづくりに当たり、どのようなことに力をいれていくべきか」の問に対しては、43.8%の市民が「保健・福祉・医療の充実」を選んでおり、特に女性において高い割合となっています。10年後の盛岡市の将来像の実現に向けた更なる施策展開が望まれているものと推測されます。

「住環境の整備」、「産業・観光の振興」、「中心市街地の活性化」については、20%を超える市民が選んでおり、当該分野の更なる充実が望まれている一方で、玉山地区では、「中山間地域の活性化」が「保健・福祉・医療の充実」よりも高い割合で選ばれており、地域特性を活かしたまちづくりが望まれているものと推測されます。

● 産業・観光の振興（問４）

これからのまちづくりに当たり、20%を超える市民が「産業・環境の振興」に力を入れるべきと答えていますが、具体的に「活力ある産業活動を促進するために、何に積極的に取り組むべきか」の問に対しては、約40%の市民が「人材の育成や担い手の確保」を選んでい

ます。
農林業、商工業の新たな担い手や、新産業を支える基盤技術を担う人材、観光を担う地域の人材などの「盛岡の産業の基礎となる部分を支える人材の育成、担い手の確保」が重要視されており、その実現に向けた施策展開が望まれているものと推測されます。

● 教育・文化活動の充実（問５）

「教育・文化に対する意識が多様化している中で、どのようなことに力をいれていくべきか」の問に対しては、45%を超える市民が「学校、家庭、地域社会の連携による学校教育の充実」と「児童・青少年の健全育成」を選んでおり、「学校教育の充実」、「青少年の健全育成」など、子どもたちの学力向上や心身の育成に向けた更なる施策展開が望まれているものと推測されます。

一方で、高齢化が進展する中で、生涯にわたって学習できる環境の整備も望まれています。

● 保健・福祉・医療の充実（問６）

これからのまちづくりに当たり、43.8%の市民が「保健・福祉・医療の充実」に力を入れるべきと答えていますが、具体的に「どのようなことに力を入れていくべきか」の問に対しては、56.9%の市民が「子育て環境施策の充実」を選んでおり、特に20歳代で70.1%、30歳代では80.9%と選んだ割合が非常に高くなっています。

子育て世代においては、ライフスタイル、ワークスタイルの多様化を背景とした保育ニーズの多様化への対応や、長引く経済の低迷から、更なる子育て支援の充実が望まれているものと推測されます。

「高齢者福祉の推進」については、各年代とも30～45%の市民が選んでおり、人口減少社会において、人口に占める高齢者の割合が高まることが予想されている中で、各世代から高齢者が生き生きとして暮らせる社会を目指す取組みが望まれているものと推測されます。

「医療体制の充実」については、20歳代を除く各年代で30%以上の市民が選んでおり、岩手医科大学付属病院の移転に伴う高度医療機関不足への懸念などから、医療体制の充実を望む声が高まっているものと推測されます。

● 少子化への対応（問 7）

保健・福祉・医療の分野では、56.9%の市民が「子育て環境施策の充実」に力を入れるべきと答えていますが、具体的に「少子化対策として何が必要か」の問に対しては、37.4%の市民が「妊娠、出産の費用や乳幼児の医療費などへの経済的支援」を選んでおり、以下、「保育環境の充実（待機児童の解消、保育園・児童センターなどの整備）」が36.8%、「延長保育、休日保育、一時保育など多様な保育サービスの充実」が27.2%となっています。

出産、子育ての各ステージにおける経済的な支援の充実を望む声が多いほか、保育施設などの施設整備への対応やライフスタイル、ワークスタイルの多様化を背景とした保育ニーズの多様化への対応が望まれているものと推測されます。

● 高齢化への対応（問 8）

保健・福祉・医療の分野では、39.6%の市民が「高齢者福祉の推進」に力を入れるべきと答えていますが、具体的に「高齢化が進む中、どのようなことに積極的に取り組むべきか」の問に対しては、35.4%の市民が「高齢者の働く場所の確保」を選んでおり、人口減少社会において、年金制度の先行きに対する不安や高齢者の生きがいとして「労働」へのニーズが高まっていることが背景にあるものと推測されます。

「一人暮らし老人などへの支援」については、35.1%の市民が選んでおり、都市化に伴う地域コミュニティの希薄化などが背景にあるものと推測されます。

「介護サービスの充実」については、27.0%の市民が選んでおり、特に女性において選択する割合が高くなっています。高齢化社会を迎え、様々な課題が顕在しているなか、介護サービスの充実が老後を安心していきいきと暮らすために重要であると考えているものと推測されます。

● 環境への対応（問 9）

「環境への関心が高まっている中で、どのようなことに積極的に取り組むべきか」の問に対しては、約40%の市民が「豊かな自然環境の保全」を選んでいますが、各年代とも高い割合で選んでおり、水と緑に象徴される、当市の豊かな自然環境を後世まで引き継ぐべきと考えている市民が多いものと推測されます。

「木質バイオマスや太陽光発電などの再生可能エネルギーの普及」については、30.9%の市民が選んでいます。20歳、30歳代では40%を超える市民が選択しており、東日本大震災を契機として、再生可能エネルギーの認識が高まっていることが伺われ、特に子育て世代において高い関心があるものと推測されます。

「環境教育の推進」については19.5%の市民が選んでおり、各年代とも高い割合で選択しています。地球温暖化の防止や自然エネルギーの普及、ごみの削減など、当市の環境を保全するため、全ての世代に対して環境教育が必要だと考えているものと推測されます。

● 都市の魅力創造（問10）

「市内外の人から「住み続けたい」、「訪れたい」、「住んでみたい」、「事業活動したい」などと思われるようなまちとなるために、どのような魅力を市内外にPRしていくべきか」の問に対しては、約40%の市民が「自然環境と都市機能の調和したまち」を選んでおり、以下、「子育てしやすいまち」が27.6%、「住環境が整ったまち」が23.5%となっています。

水と緑に象徴される自然の豊かさと快適な都市機能の高度な調和が本市の魅力であり、市内外にPRすべきと評価していると推測されます。

「子育てしやすいまち」については、医療機関の充実や良好な保育環境、子育て支援制度の充実など、子育てに関する多面的な機能の充実を感じている市民が多いものと推測されます。20歳、30歳代では「子育てしやすいまち」を選んだ割合が「自然環境と都市機能の調和したまち」よりも高くなっており、子育て世代では、「保育環境、子育て支援の充実した住みよいまち」あることを評価しているものと推測されます。

「住環境が整ったまち」については、区画整理事業による基盤整備やコンパクトなまちづくりにより、住環境や公共空間などの都市機能の充実が図られていることに加え、公共交通機関の利便性や豊かな自然環境などを評価しているものと推測されます。

（２）盛岡市の将来像について（問１）

問１ 盛岡市が10年後、どのようなまちであってほしいと思いますか。次の中から２つ以内をお選びください。

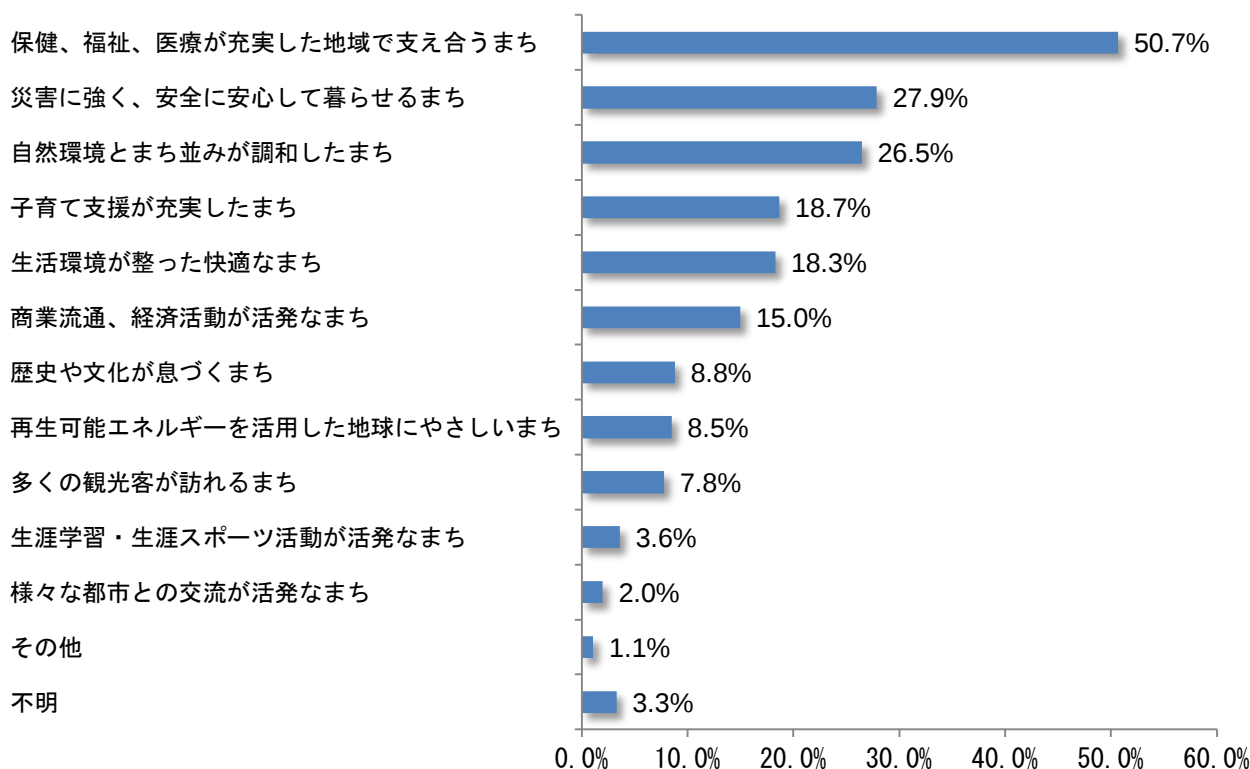
●「保健、福祉、医療が充実した地域で支え合うまち」が最も多い（50.7%）

・「保健、福祉、医療が充実した地域で支え合うまち」を選んだ人が最も多く、次いで「災害に強く、安全に安心して暮らせるまち」、「自然環境とまち並みが調和したまち」となっています（図表Ⅰ-1）。

・前回調査と比較すると、「保健、福祉、医療が充実した（地域で支え合う）まち」、「自然環境とまち並みが調和したまち」は、今回の調査でも多くの人が選んでいます（図表Ⅰ-2）。

・「災害に強く、安全に安心して暮らせるまち」は、今回の調査で新たに設定した選択肢ですが、27.9%と高い割合で選ばれています。

（図表Ⅰ-1 盛岡市の将来像 回答者数 1,223 人）



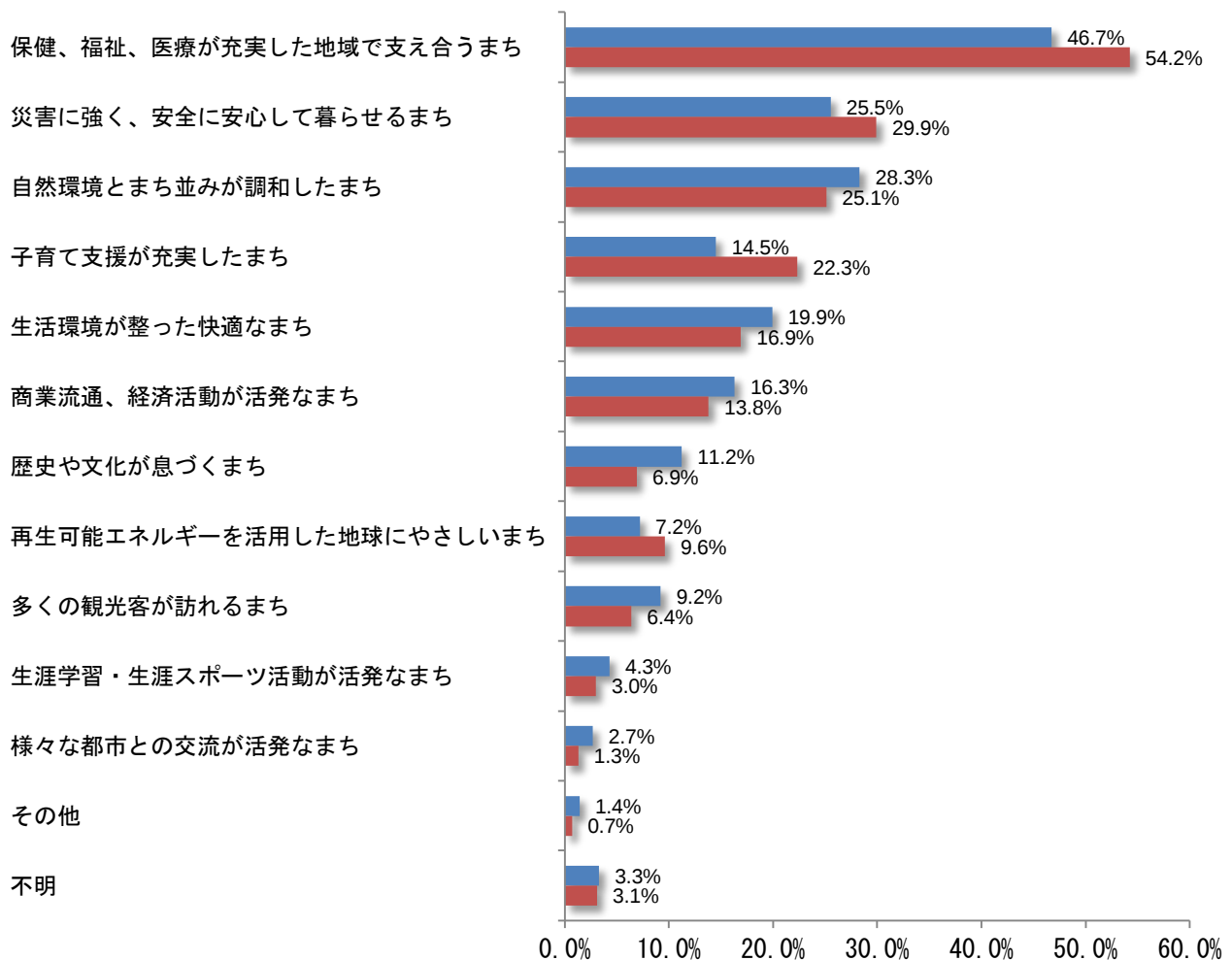
（図表Ⅰ-2 盛岡市の将来像 前回調査比較）

	前回（平成 15 年 7 月調査）		今回	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1 位	保健、福祉、医療施設や制度が充実したまち	56.5	保健、福祉、医療が充実した地域で支え合うまち	50.7
2 位	自然環境とまち並みが調和したまち	43.7	災害に強く、安全に安心して暮らせるまち	27.9
3 位	生活環境が整った快適なまち	33.7	自然環境とまち並みが調和したまち	26.5

■ 性別（図表 I-3）

- ・上位3項目は、男女ともに多くの人が選んでいます。
- ・男性は、女性と比べて「自然環境とまち並みが調和したまち」や「歴史や文化が息づくまち」を選んだ割合が高くなっています。
- ・女性は、男性と比べて「保健、福祉、医療が充実した地域で支え合うまち」や「子育て支援が充実したまち」を選んだ割合が高くなっています。

（図表 I-3 盛岡市の将来像 性別 回答者数 男性 552 人 女性 668 人）



■ 年代別（図表 I -4）

・上位 3 項目は、各年代で多くの人が選んでいます。20 歳代、30 歳代では、他の年代と比べて「災害に強く、安全に安心して暮らせるまち」よりも「子育て支援が充実したまち」を選んだ割合が高くなっています。

（図表 I -4 盛岡市の将来像 年代別）

	回答者数(人)	単位 (%)												
		保健、福祉、医療が充実した地域で支え合うまち	災害に強く、安全に安心して暮らせるまち	自然環境とまち並みが調和したまち	子育て支援が充実したまち	生活環境が整った快適なまち	商業流通、経済活動が活発なまち	歴史や文化が息づくまち	再生可能エネルギーを活用した地球にやさしいまち	多くの観光客が訪れるまち	生涯学習・生涯スポーツ活動が活発なまち	様々な都市との交流が活発なまち	その他	不明
全体	1,223	50.7	27.9	26.5	18.7	18.3	15.0	8.8	8.5	7.8	3.6	2.0	1.1	3.3
20 歳代	97	34.0	20.6	24.7	41.2	13.4	17.5	6.2	4.1	12.4	5.2	2.1	2.1	4.1
30 歳代	188	38.8	22.9	25.5	35.6	16.5	22.3	5.3	6.4	9.6	2.7	4.3	1.1	2.7
40 歳代	218	50.9	22.5	33.0	16.5	19.7	14.2	10.6	7.8	8.3	4.6	1.4	0.0	3.2
50 歳代	206	54.4	25.7	27.2	11.2	21.8	13.1	8.7	12.1	10.2	1.9	1.5	1.5	3.4
60 歳代	268	56.0	33.6	23.5	16.8	16.0	14.2	9.0	8.6	5.6	4.5	0.4	1.1	3.0
70 歳以上	242	57.9	35.1	25.2	7.4	19.8	11.2	11.2	9.5	4.1	3.3	2.9	1.2	3.3

※ 1 全体数は年齢不明分も含んでいます。

※ 2 各年代の上位 3 項目のセルに色づけをしています。

■ 居住地区別（図表 I-5）

・上位3項目は、各地区で多くの人が選んでいます。盛南地区、厨川地区では、他の地区と比べて「子育て支援が充実したまち」を選んだ割合が高くなっています。

（図表 I-5 盛岡市の将来像 居住地区別）

	回答者数(人)	単位 (%)												
		保健、福祉、医療が充実した地域で支え合うまち	災害に強く、安全に安心して暮らせるまち	自然環境とまち並みが調和したまち	子育て支援が充実したまち	生活環境が整った快適なまち	商業流通、経済活動が活発なまち	歴史や文化が息づくまち	再生可能エネルギーを活用した地球にやさしいまち	多くの観光客が訪れるまち	生涯学習・生涯スポーツ活動が活発なまち	様々な都市との交流が活発なまち	その他	不明
全体	1,223	50.7	27.9	26.5	18.7	18.3	15.0	8.8	8.5	7.8	3.6	2.0	1.1	3.3
河北	377	52.8	25.7	28.6	18.3	16.4	15.6	8.2	8.5	7.7	3.7	1.9	0.8	3.2
河南	174	51.7	25.3	31.6	13.8	14.9	17.8	10.3	6.9	8.0	3.4	0.0	2.3	4.6
盛南	193	42.0	33.2	25.4	26.9	18.1	15.5	12.4	7.3	7.8	3.1	2.1	0.5	1.6
厨川	222	58.1	27.9	21.2	21.2	20.7	12.6	7.7	9.5	7.7	4.5	2.3	0.0	1.4
都南	183	47.0	29.0	25.1	15.8	25.1	16.4	7.7	12.6	8.2	3.3	3.8	1.1	1.1
玉山	37	51.4	29.7	27.0	18.9	16.2	8.1	5.4	2.7	5.4	2.7	2.7	2.7	8.1

※1 全体数は居住地区不明分も含んでいます。

※2 各居住地区の上位3項目のセルに色づけをしています。

■ 職業別（図表 I -6）

・上位 3 項目は、各職業で多くの人が選んでいます。学生は「災害に強く、安全に安心して暮らせるまち」を選んだ割合が 8.7%と低くなっており、代わりに「子育て支援が充実したまち」を選んだ割合が高くなっています。

・経営者、役員、自営業者またはその家族従事者では、「商業流通、経済活動が活発なまち」を選んだ割合が高くなっています。

（図表 I -6 盛岡市の将来像 職業別）

	回答者数(人)	単位 (%)												
		保健、福祉、医療が充実した地域で支え合うまち	災害に強く、安全に安心して暮らせるまち	自然環境とまち並みが調和したまち	子育て支援が充実したまち	生活環境が整った快適なまち	商業流通、経済活動が活発なまち	歴史や文化が息づくまち	再生可能エネルギーを活用した地球にやさしいまち	多くの観光客が訪れるまち	生涯学習・生涯スポーツ活動が活発なまち	様々な都市との交流が活発なまち	その他	不明
全体	1,223	50.7	27.9	26.5	18.7	18.3	15.0	8.8	8.5	7.8	3.6	2.0	1.1	3.3
経営者、役員	49	32.7	18.4	28.6	12.2	18.4	24.5	16.3	6.1	14.3	2.0	8.2	2.0	2.0
自営業者またはその家族従事者	80	46.3	30.0	35.0	8.8	20.0	27.5	7.5	5.0	6.3	3.8	0.0	0.0	3.8
会社員、公務員	360	46.9	24.2	29.2	20.6	22.8	14.7	10.0	8.1	8.3	2.8	3.1	1.1	2.5
臨時雇用、パート、アルバイト	179	57.0	25.7	22.3	25.1	15.6	13.4	5.0	8.4	8.9	7.3	0.6	0.6	2.8
専業主婦・主夫	206	53.9	34.0	23.3	24.8	15.5	14.6	7.8	12.1	5.3	2.9	0.5	0.5	2.4
学生	23	30.4	8.7	26.1	39.1	21.7	17.4	8.7	8.7	13.0	0.0	4.3	4.3	4.3
無職	257	56.4	34.2	24.9	11.3	16.3	10.9	10.1	7.8	4.7	3.5	1.9	1.6	4.3
その他	55	50.9	21.8	29.1	12.7	14.5	16.4	7.3	9.1	18.2	1.8	1.8	1.8	1.8

※ 1 全体数は職業不明分も含んでいます。

※ 2 各職業の上位 3 項目のセルに色づけをしています。

■ 居住年数別（図表 I-7）

・上位3項目は、各区分で多くの人を選んでいますが、居住年数が15年未満では、「災害に強く、安全に安心して暮らせるまち」よりも「子育て支援が充実したまち」を選んだ割合が高くなっています。

（図表 I-7 盛岡市の将来像 居住年数別）

	回答者数(人)	単位 (%)												
		域で支え合うまち	保健、福祉、医療が充実したまち	災害に強く、安全に安心して暮らせるまち	自然環境とまち並みが調和したまち	子育て支援が充実したまち	生活環境が整った快適なまち	商業流通、経済活動が活発なまち	歴史や文化が息づくまち	再生可能エネルギーを活用した地球にやさしいまち	多くの観光客が訪れるまち	生涯学習・生涯スポーツ活動が活発なまち	様々な都市との交流が活発なまち	その他
全体	1,223	50.7	27.9	26.5	18.7	18.3	15.0	8.8	8.5	7.8	3.6	2.0	1.1	3.3
5年未満	109	42.2	22.0	33.0	33.0	15.6	14.7	4.6	7.3	8.3	1.8	2.8	1.8	1.8
5年以上 10年未満	85	37.6	15.3	21.2	38.8	18.8	17.6	3.5	11.8	14.1	4.7	7.1	1.2	2.4
10年以上 15年未満	70	50.0	25.7	27.1	30.0	11.4	11.4	11.4	5.7	8.6	4.3	5.7	0.0	2.9
15年以上 20年未満	78	52.6	30.8	28.2	14.1	17.9	15.4	11.5	7.7	9.0	3.8	0.0	1.3	1.3
20年以上	873	53.3	29.9	26.2	14.5	19.2	15.0	9.5	8.7	6.9	3.6	1.3	1.0	3.3

※1 全体数は居住年数不明分も含んでいます。

※2 各居住年数の上位3項目のセルに色づけをしています。

(3) 盛岡市のまちづくりについて（問3～10）

① まちづくり

問3 これからのまちづくりに当たって、盛岡市ではどのようなことに力を入れていくべきだとお考えですか。次の中から2つ以内をお選びください。

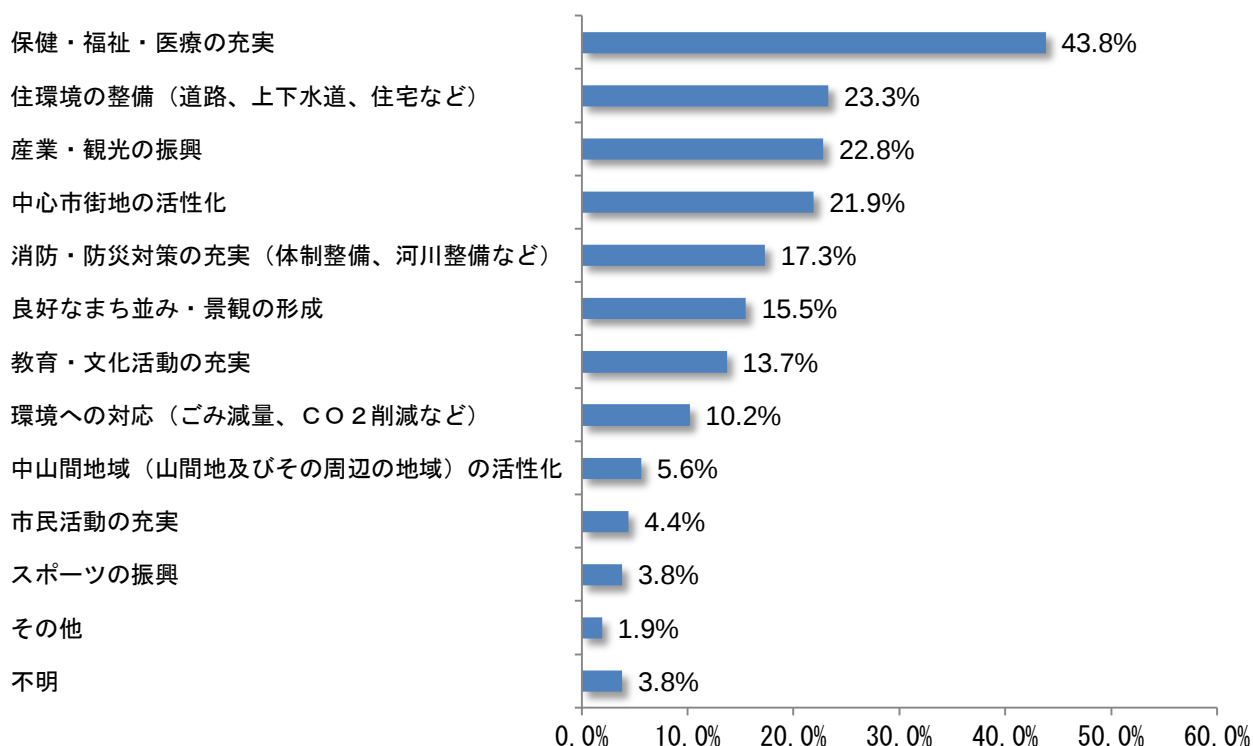
●「保健・福祉・医療の充実」が最も多い（43.8%）

・「保健・福祉・医療の充実」を選んだ人が最も多く、次いで「住環境の整備（道路、上下水道、住宅など）」、「産業・観光の振興」となっています（図表Ⅰ-8）。

・前回調査と比較すると、「保健・福祉・医療の充実」、「住環境の整備（道路、上下水道、住宅など）」は、今回の調査でも多くの人が選んでいます（図表Ⅰ-9）。

・「中心市街地の活性化」は、今回の調査で新たに設定した選択肢ですが、21.9%と高い割合で選ばれています。

（図表Ⅰ-8 まちづくり 回答者数 1,223人）



（図表Ⅰ-9 まちづくり 前回調査比較）

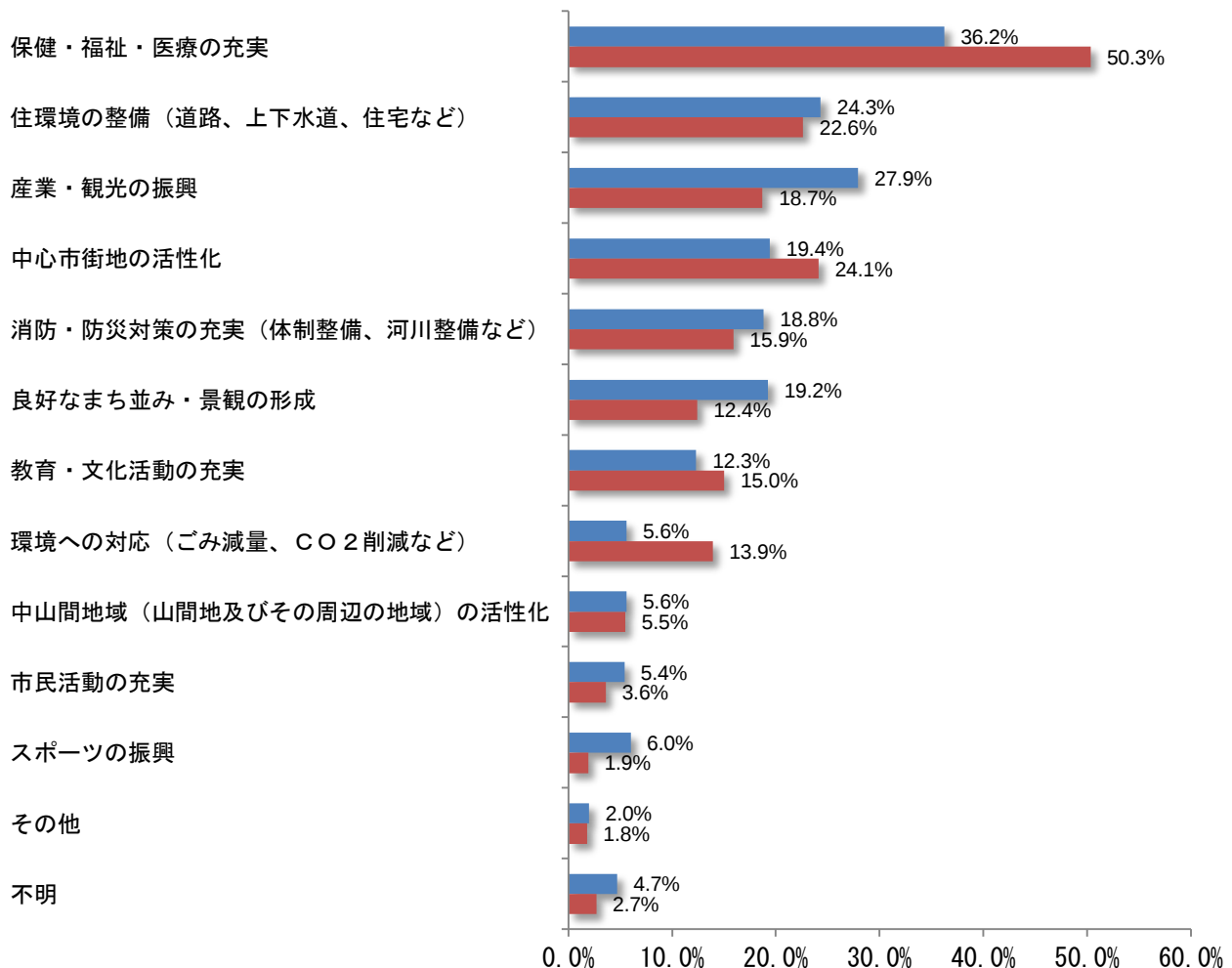
	前回（平成15年7月調査）		今回	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1位	保健・福祉・医療の充実	51.0	保健・福祉・医療の充実	43.8
2位	住環境の整備（道路、上下水道、住宅など）	32.0	住環境の整備（道路、上下水道、住宅など）	23.3
3位	環境保全と循環型社会づくり	22.6	産業・観光の振興	22.8

■ 性別（図表 I -10）

・男性は、女性と比べて「産業・観光の振興」や「良好なまち並み・景観の形成」を選んだ割合が高くなっています。

・女性は、男性と比べて「保健・福祉・医療の充実」や「環境への対応（ごみ減量、ＣＯ２削減など）」を選んだ割合が高くなっています。

（図表 I -10 まちづくり 性別 回答者数 男性 552 人 女性 668 人）



■ 年代別（図表 I -11）

・各年代ではほぼ同様の傾向となっています。

（図表 I -11 まちづくり 年代別）

	回答者数(人)	単位 (%)												
		保健・福祉・医療の充実	住環境の整備（道路、上下水道、住宅など）	産業・観光の振興	中心市街地の活性化	消防・防災対策の充実（体制整備、河川整備など）	良好なまち並み・景観の形成	教育・文化活動の充実	環境への対応（ごみ減量、CO2削減など）	中山間地域（山間地及びその周辺の地域）の活性化	市民活動の充実	スポーツの振興	その他	不明
全体	1,223	43.8	23.3	22.8	21.9	17.3	15.5	13.7	10.2	5.6	4.4	3.8	1.9	3.8
20 歳代	97	41.2	19.6	22.7	22.7	19.6	15.5	9.3	8.2	5.2	2.1	7.2	2.1	5.2
30 歳代	188	40.4	23.4	21.8	25.0	18.6	17.0	19.7	6.9	0.0	3.7	6.4	3.2	2.1
40 歳代	218	39.0	25.2	24.3	22.0	20.2	15.1	17.4	10.1	3.7	0.9	4.1	3.2	1.8
50 歳代	206	43.7	26.7	24.3	15.0	15.0	17.5	13.6	7.8	9.2	2.4	4.4	2.4	4.9
60 歳代	268	48.9	21.3	23.9	25.7	13.8	11.9	9.0	13.4	7.8	5.6	2.2	1.1	4.5
70 歳以上	242	47.1	22.3	20.2	21.1	17.8	16.9	13.2	12.0	6.2	9.5	1.2	0.0	3.7

※1 全体数は年齢不明分も含んでいます。

※2 各年代の上位3項目のセルに色づけをしています。

■ 居住地区別（図表 I-12）

- ・上位3項目は、各地区で多くの人が選んでいます。玉山地区では、他の地区と比べて「住環境の整備（道路、上下水道、住宅など）」を選んだ割合が高くなっています。
- ・河南地区では、他の地区と比べて「中心市街地の活性化」を選んだ割合が高くなっています。
- ・玉山地区では、「中心市街地の活性化」を選んだ割合が2.7%と低くなっており、代わりに「中山間地域（山間地及びその周辺の地域）の活性化」を選んだ割合が高くなっています。

（図表 I-12 まちづくり 居住地区別）

	回答者数(人)	単位 (%)												
		保健・福祉・医療の充実	住環境の整備（道路、上下水道、住宅など）	産業・観光の振興	中心市街地の活性化	消防・防災対策の充実（体制整備、河川整備など）	良好なまち並み・景観の形成	教育・文化活動の充実	環境への対応（ごみ減量、CO2削減など）	中山間地域（山間地及びその周辺の地域）の活性化	市民活動の充実	スポーツの振興	その他	不明
全体	1,223	43.8	23.3	22.8	21.9	17.3	15.5	13.7	10.2	5.6	4.4	3.8	1.9	3.8
河北	377	46.2	19.9	22.3	23.3	14.6	17.2	13.8	9.8	5.6	5.0	2.9	2.1	3.7
河南	174	35.6	19.0	25.3	32.2	17.8	19.5	14.4	10.9	3.4	4.6	5.2	1.1	2.3
盛南	193	44.0	21.2	19.2	21.8	21.2	13.5	15.0	9.8	4.7	4.7	5.7	1.6	4.1
厨川	222	52.7	26.1	24.8	20.3	14.0	14.0	13.1	11.3	5.0	2.7	3.6	1.8	1.8
都南	183	41.5	30.6	24.0	18.0	21.9	13.1	14.2	11.5	5.5	5.5	3.3	1.6	2.2
玉山	37	21.6	40.5	27.0	2.7	13.5	18.9	8.1	2.7	24.3	2.7	2.7	8.1	8.1

※1 全体数は居住地区不明分も含んでいます。

※2 各居住地区の上位3項目のセルに色づけをしています。

② 産業・観光の振興

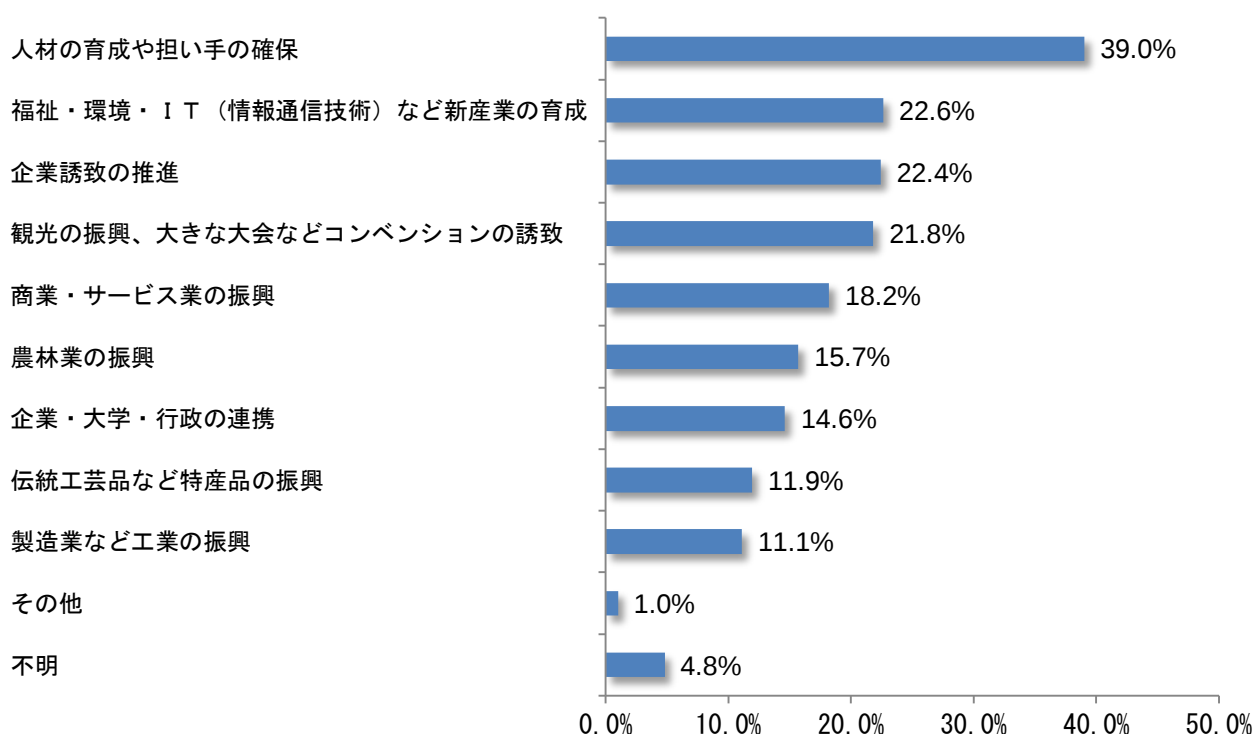
問4 活力ある産業活動を促進するために、積極的に取り組むべきことは何だとお考えですか。
次の中から2つ以内をお選びください。

●「人材の育成や担い手の確保」が最も多い（39.0%）

・「人材の育成や担い手の確保」を選んだ人が最も多く、次いで「福祉・環境・IT（情報通信技術）など新産業の育成」、「企業誘致の推進」となっています（図表I-13）。

・「人材の育成や担い手の確保」は、今回の調査で新たに設定した選択肢ですが、39.0%と高い割合で選ばれています（図表I-14）。

（図表I-13 産業・観光の振興 回答者数 1,223人）



（図表I-14 産業・観光の振興 前回調査比較）

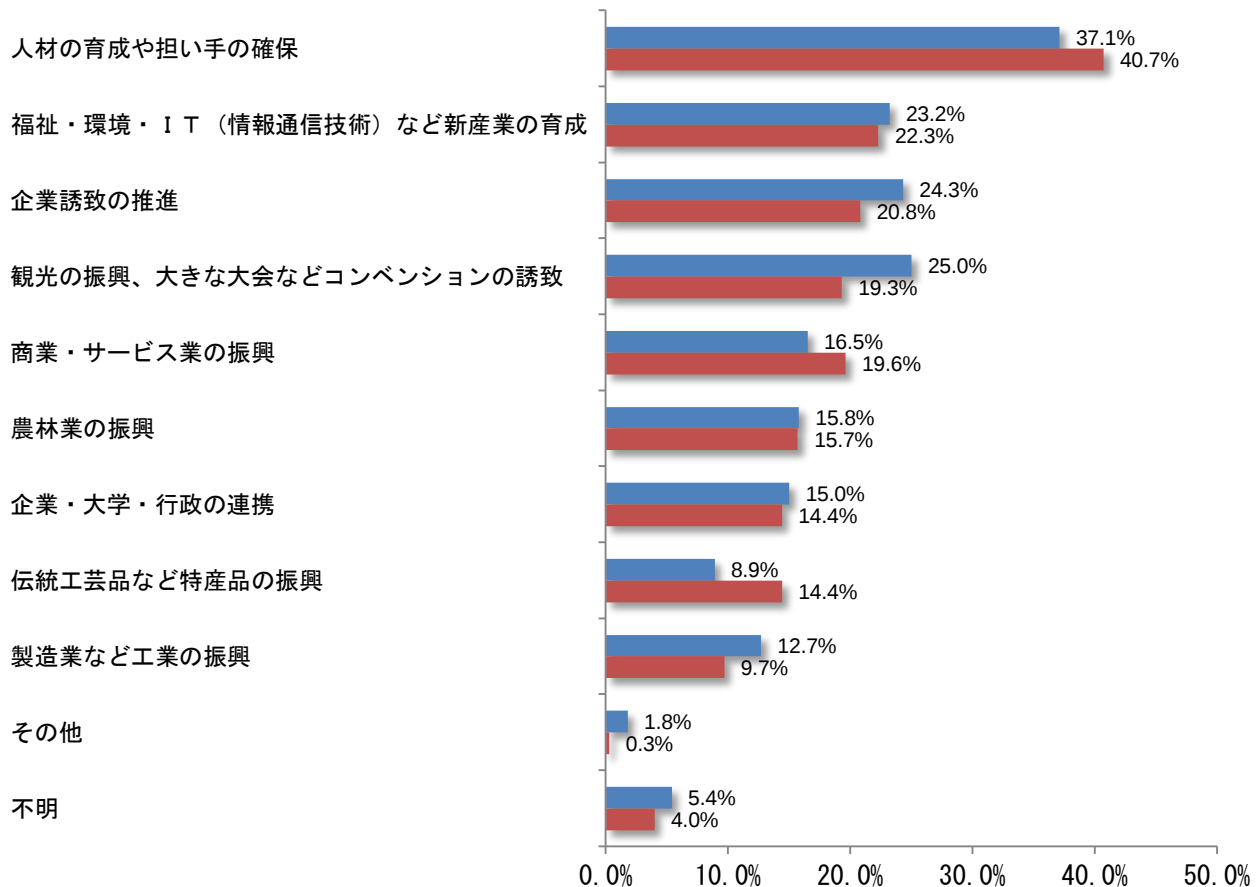
	前回（平成15年7月調査）		今回	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1位	福祉・環境・IT（情報通信技術）など新産業の育成	38.0	人材の育成や担い手の確保	39.0
2位	商業・サービス業の活性化	35.5	福祉・環境・IT（情報通信技術）など新産業の育成	22.6
3位	農業の活性化	31.3	企業誘致の推進	22.4

■ 性別（図表 I -15）

・男性は、女性と比べて「企業誘致の推進」や「観光の振興、大きな大会などコンベンションの誘致」を選んだ割合が高くなっています。

・女性は、男性と比べて「人材の育成や担い手の確保」や「商業・サービス業の振興」、「伝統工芸品などの特産品の振興」を選んだ割合が高くなっています。

（図表 I -15 産業・観光の振興 性別 回答者数 男性 552 人 女性 668 人）



■ 年代別（図表 I -16）

- ・「人材の育成や担い手の確保」は、各年代で多くの人が選んでいます。
- ・20 歳代～40 歳代では、他の年代と比べて「観光の振興、大きな大会などコンベンションの誘致」、「商業・サービス業の振興」を選んだ割合が高くなっています。

（図表 I -16 産業・観光の振興 年代別）

	回答者数（人）	単位（％）										
		人材の育成や担い手の確保	福祉・環境・IT（情報通信技術）など新産業の育成	企業誘致の推進	観光の振興、大きな大会などコンベンションの誘致	商業・サービス業の振興	農林業の振興	企業・大学・行政の連携	伝統工芸品など特産品の振興	製造業など工業の振興	その他	不明
全体	1,223	39.0	22.6	22.4	21.8	18.2	15.7	14.6	11.9	11.1	1.0	4.8
20 歳代	97	28.9	18.6	23.7	29.9	24.7	11.3	22.7	8.2	6.2	1.0	6.2
30 歳代	188	35.1	19.7	21.3	26.1	20.7	9.6	21.8	12.2	8.5	1.6	5.3
40 歳代	218	39.4	19.7	17.4	22.5	24.3	14.2	17.9	11.5	9.6	0.9	2.8
50 歳代	206	38.3	24.3	21.4	20.4	13.6	23.3	14.6	11.7	10.7	0.5	5.8
60 歳代	268	39.6	23.1	25.4	19.4	12.3	19.0	8.2	12.7	16.0	1.5	5.6
70 歳以上	242	46.3	27.7	24.8	18.6	18.2	13.6	10.3	12.8	11.2	0.4	3.3

※1 全体数は年齢不明分も含んでいます。

※2 各年代の上位3項目のセルに色づけをしています。

■ 居住地区別（図表 I-17）

- ・「人材の育成や担い手の確保」は、各地区で多くの人が選んでいます。
- ・河北地区、河南地区では、他の地区と比べて「商業・サービス業の振興」を選んだ割合が高くなっています。
- ・都南地区、玉山地区では、他の地区と比べて「農林業の振興」を選んだ割合が高くなっています。

（図表 I-17 産業・観光の振興 居住地区別）

	回答者数(人)	単位 (%)										
		人材の育成や担い手の確保	福祉・環境・IT（情報通信技術）など新産業の育成	企業誘致の推進	観光の振興、大きな大会などコンベンションの誘致	商業・サービス業の振興	農林業の振興	企業・大学・行政の連携	伝統工芸品など特産品の振興	製造業など工業の振興	その他	不明
全体	1,223	39.0	22.6	22.4	21.8	18.2	15.7	14.6	11.9	11.1	1.0	4.8
河北	377	34.2	24.1	18.8	20.7	20.7	14.9	15.9	14.6	12.5	0.8	4.5
河南	174	42.0	17.8	20.1	25.9	23.6	13.8	13.2	12.1	8.6	1.7	5.2
盛南	193	42.0	28.5	19.2	23.3	14.5	14.5	18.1	8.8	10.9	0.5	3.6
厨川	222	36.9	21.2	32.0	25.2	18.5	12.6	17.1	9.5	10.8	0.5	2.3
都南	183	45.9	21.9	26.8	19.1	14.2	21.3	10.4	13.7	10.9	1.1	3.3
玉山	37	45.9	18.9	24.3	16.2	8.1	32.4	2.7	8.1	8.1	5.4	10.8

※1 全体数は居住地区不明分も含んでいます。

※2 各居住地区の上位3項目のセルに色づけをしています。

③ 教育・文化活動の充実

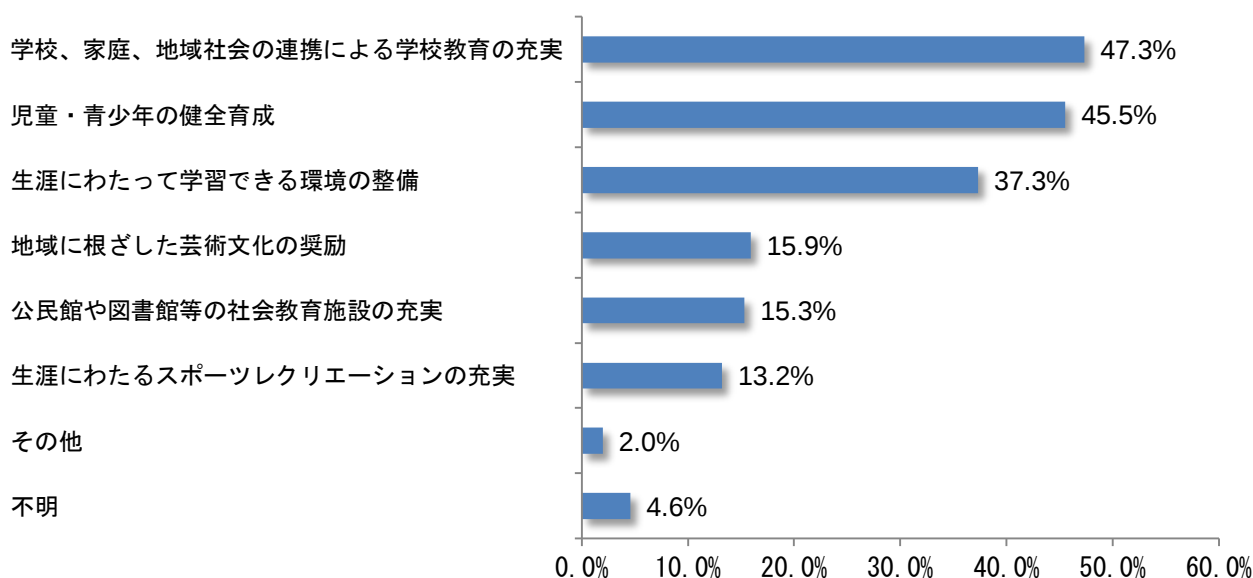
問5 教育・文化に対する意識が多様化している中で、どのようなことに力を入れていくべきだ
とお考えですか。次の中から2つ以内をお選びください。

●「学校、家庭、地域社会の連携による学校教育の充実」が最も多い（47.3%）

・「学校、家庭、地域社会の連携による学校教育の充実」を選んだ人が最も多く、次いで「児童・青少年の健全育成」、「生涯にわたって学習できる環境の整備」となっています（図表 I-18）。

・前回調査と比較すると、「学校、家庭、地域社会の連携による学校教育の充実」は、4.5%上昇し、47.3%と高い割合で選ばれていますが、上位3項目は、ほぼ同様の傾向となっています（図表 I-19）。

（図表 I-18 教育・文化活動の充実 回答者数 1,223 人）



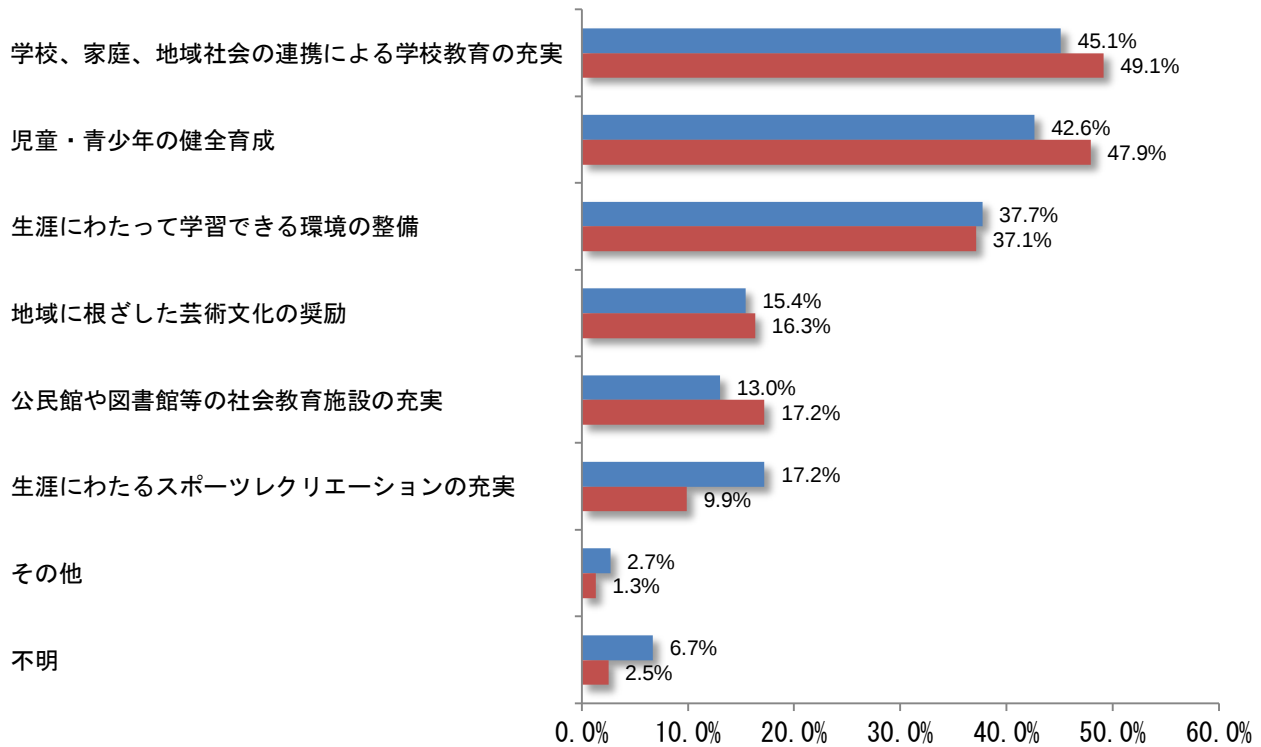
（図表 I-19 教育・文化活動の充実 前回調査比較）

	前回（平成 15 年 7 月調査）		今回	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1 位	児童・青少年の健全育成	46.5	学校、家庭、地域社会の連携による学校教育の充実	47.3
2 位	学校、家庭、地域社会の連携による学校教育の充実	42.8	児童・青少年の健全育成	45.5
3 位	生涯にわたって学習できる環境の整備	40.9	生涯にわたって学習できる環境の整備	37.3

■ 性別（図表 I -20）

- ・男性は、女性と比べて「生涯にわたるスポーツレクリエーションの充実」を選んだ割合が高くなっています。
- ・女性は、男性と比べて「学校、家庭、地域社会の連携による学校教育の充実」や「児童・青少年の健全育成」を選んだ割合が高くなっています。

（図表 I -20 教育・文化活動の充実 性別 回答者数 男性 552 人 女性 668 人）



■ 年代別（図表 I -21）

・各年代で大きな違いはなく、ほぼ同様の傾向となっていますが、20 歳代では、他の年代と比べて「公民館や図書館等の社会教育施設の充実」を選んだ割合が高くなっています。

（図表 I -21 教育・文化活動の充実 年代別）

	回答者数(人)	単位 (%)							
		学校、家庭、地域社会の連携による学校教育の充実	児童・青少年の健全育成	生涯にわたって学習できる環境の整備	地域に根ざした芸術文化の奨励	公民館や図書館等の社会教育施設の充実	生涯にわたるスポーツレクリエーションの充実	その他	不明
全体	1,223	47.3	45.5	37.3	15.9	15.3	13.2	2.0	4.6
20 歳代	97	46.4	33.0	27.8	11.3	24.7	17.5	2.1	5.2
30 歳代	188	51.1	39.4	35.6	13.8	18.1	14.9	0.5	4.8
40 歳代	218	45.0	37.2	42.7	15.6	16.5	12.8	2.8	2.3
50 歳代	206	47.6	43.2	38.3	13.6	13.6	13.6	4.9	5.8
60 歳代	268	48.9	56.7	35.4	17.9	10.4	12.7	1.1	4.9
70 歳以上	242	45.0	52.1	39.3	19.4	15.3	10.3	0.8	4.1

※1 全体数は年齢不明分も含んでいます。

※2 各年代の上位3項目のセルに色づけをしています。

■ 居住地区別（図表 I-22）

・各地区で大きな違いはなく、ほぼ同様の傾向となっています。

（図表 I-22 教育・文化活動の充実 居住地区別）

	回答者数（人）	単位（％）							
		学校、家庭、地域社会の連携による学校教育の充実	児童・青少年の健全育成	生涯にわたって学習できる環境の整備	地域に根ざした芸術文化の奨励	公民館や図書館等の社会教育施設の充実	生涯にわたるスポーツレクリエーションの充実	その他	不明
全体	1,223	47.3	45.5	37.3	15.9	15.3	13.2	2.0	4.6
河北	377	47.2	46.7	36.1	14.6	14.6	12.5	2.7	5.3
河南	174	47.7	45.4	36.2	17.8	14.9	13.8	1.7	3.4
盛南	193	46.6	47.2	35.2	14.0	18.7	15.0	1.0	3.6
厨川	222	49.5	45.5	39.2	17.1	16.2	12.2	2.7	1.4
都南	183	51.4	44.3	43.2	17.5	13.1	14.2	1.6	1.6
玉山	37	40.5	35.1	32.4	18.9	16.2	16.2	0.0	16.2

※1 全体数は居住地区不明分も含んでいます。

※2 各居住地区の上位3項目のセルに色づけをしています。

④ 保健・福祉・医療の充実

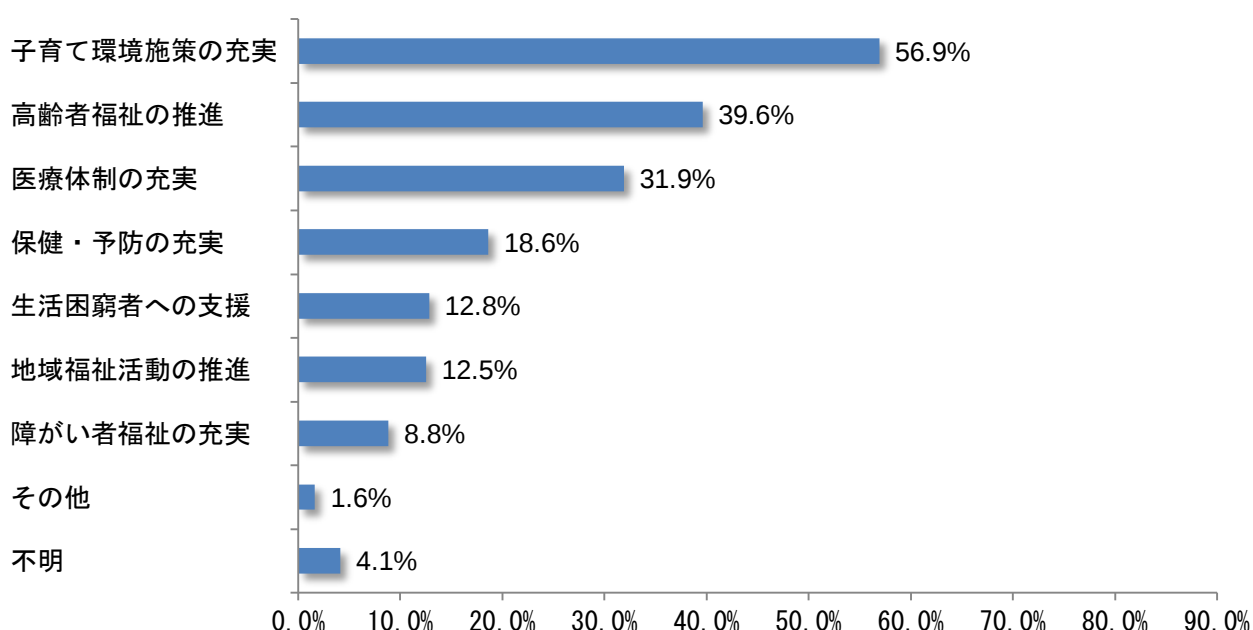
問6 近年、少子高齢化が進んでいますが、保健・福祉・医療の分野で、どのようなことに力を入れていくべきだとお考えですか。次の中から2つ以内をお選びください。

●「子育て環境施策の充実」が最も多い（56.9%）

・「子育て環境施策の充実」を選んだ人が最も多く、次いで「高齢者福祉の推進」、「医療体制の充実」となっています（図表 I-23）。

・前回調査と比較すると、「子育て環境施策の充実」は、6.5%上昇し、56.9%と高い割合で選ばれていますが、上位3項目は同様の傾向となっています（図表 I-24）。

（図表 I-23 保健・福祉・医療の充実 回答者数 1,223 人）



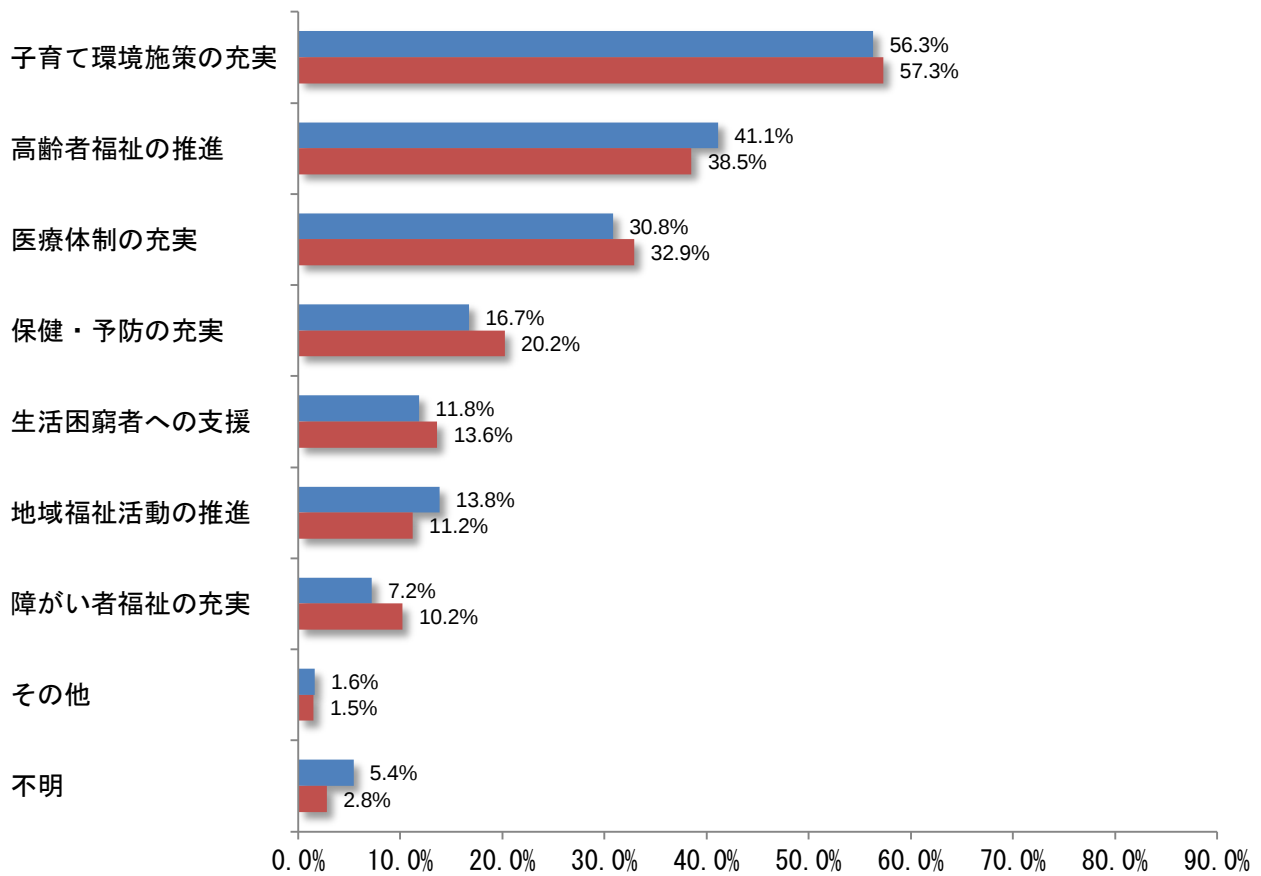
（図表 I-24 保健・福祉・医療の充実 前回調査比較）

	前回（平成 15 年 7 月調査）		今回	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1 位	子育て環境施策の充実	50.4	子育て環境施策の充実	56.9
2 位	医療体制の充実	41.4	高齢者福祉の推進	39.6
3 位	高齢者福祉の推進	40.1	医療体制の充実	31.9

■ 性別（図表 I -25）

・性別により大きな違いはなく、ほぼ同様の傾向となっています。

（図表 I -25 保健・福祉・医療の充実 性別 回答者数 男性 552 人 女性 668 人）



■ 年代別（図表 I -26）

・各年代でほぼ同様の傾向になっていますが、「子育て環境施策の充実」は 20 歳代で 70.1%、30 歳代で 80.9%と非常に高い割合で選ばれています。

（図表 I -26 保健・福祉・医療の充実 年代別）

	回答者数（人）	単位（％）								
		子育て環境施策の充実	高齢者福祉の推進	医療体制の充実	保健・予防の充実	生活困窮者への支援	地域福祉活動の推進	障がい者福祉の充実	その他	不明
全体	1,223	56.9	39.6	31.9	18.6	12.8	12.5	8.8	1.6	4.1
20 歳代	97	70.1	33.0	24.7	23.7	14.4	10.3	3.1	1.0	3.1
30 歳代	188	80.9	29.8	32.4	19.7	8.0	6.9	5.9	2.7	2.1
40 歳代	218	55.0	46.8	31.2	19.3	12.8	7.3	9.2	2.3	1.4
50 歳代	206	53.4	42.7	33.0	16.0	12.1	10.7	10.2	1.5	6.3
60 歳代	268	53.7	35.8	32.1	19.8	11.6	18.3	9.3	1.1	5.2
70 歳以上	242	40.9	45.0	34.3	16.1	17.8	16.9	11.6	0.8	5.0

※ 1 全体数は年齢不明分も含んでいます。

※ 2 各年代の上位 3 項目のセルに色づけをしています。

■ 居住地区別（図表 I-27）

・各地区で大きな違いはなく、ほぼ同様の傾向となっています。

（図表 I-27 保健・福祉・医療の充実 居住地区別）

	回答者数（人）	単位（％）								
		子育て環境施策の充実	高齢者福祉の推進	医療体制の充実	保健・予防の充実	生活困窮者への支援	地域福祉活動の推進	障がい者福祉の充実	その他	不明
全体	1,223	56.9	39.6	31.9	18.6	12.8	12.5	8.8	1.6	4.1
河北	377	61.0	39.3	30.8	18.8	11.9	11.1	7.4	2.1	4.2
河南	174	55.2	43.7	32.2	16.7	13.2	10.9	11.5	1.1	3.4
盛南	193	57.0	35.2	36.3	17.6	11.4	13.0	10.9	1.6	3.1
厨川	222	59.0	36.9	36.9	21.2	12.6	12.6	9.0	1.4	0.9
都南	183	54.1	44.8	26.8	18.6	16.4	16.9	7.7	1.6	2.2
玉山	37	45.9	40.5	35.1	21.6	10.8	10.8	8.1	0.0	8.1

※1 全体数は居住地区不明分も含んでいます。

※2 各居住地区の上位3項目のセルに色づけをしています。

⑤ 少子化への対応

問7 少子化対策として何が必要だと思いますか。次の中から2つ以内をお選びください。

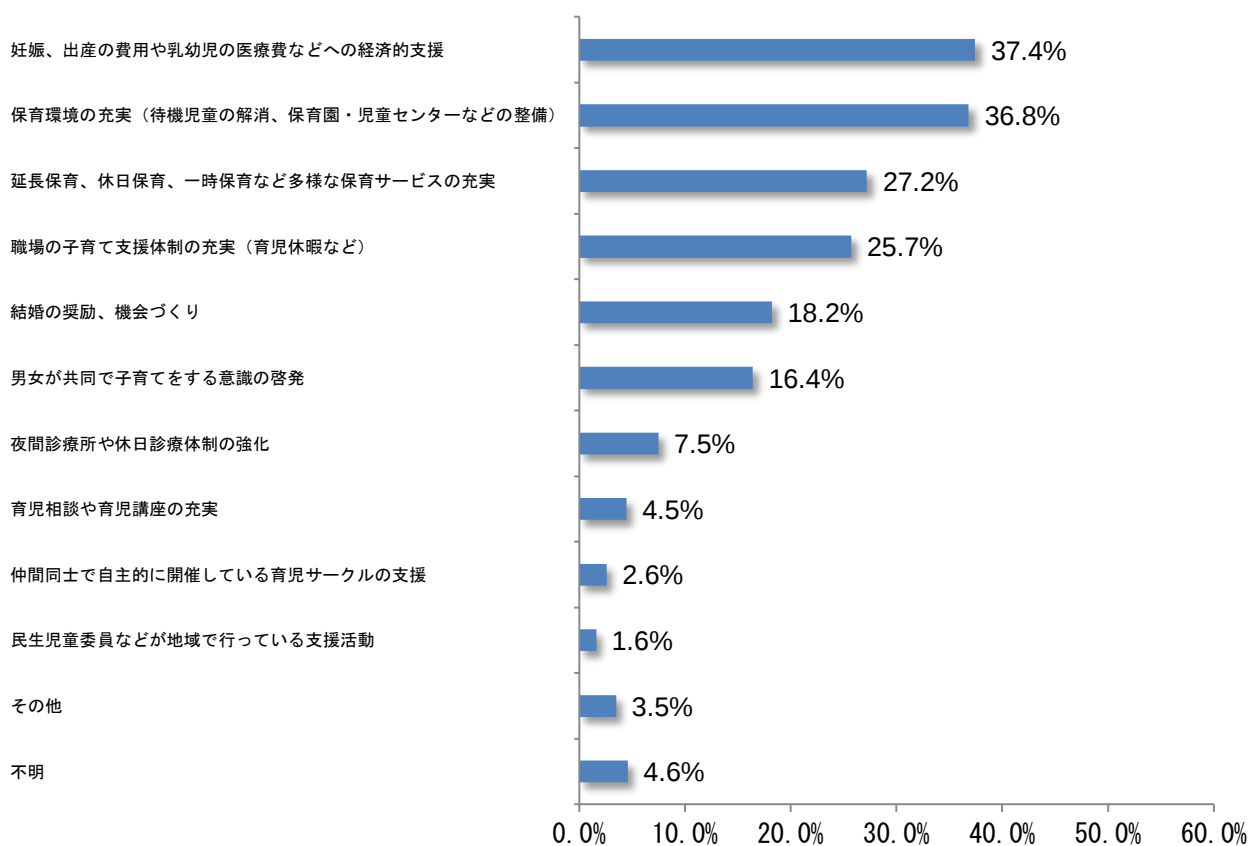
●「妊娠、出産の費用や乳幼児の医療費などへの経済的支援」が最も多い（37.4%）

・「妊娠、出産の費用や乳幼児の医療費などへの経済的支援」を選んだ人が最も多く、次いで「保育環境の充実（待機児童の解消、保育園・児童センターなどの整備）」、「延長保育、休日保育、一時保育など多様な保育サービスの充実」となっています（図表 I-28）。

・前回調査と比較すると、「妊娠、出産の費用や乳幼児の医療費などへの経済的支援」、「延長保育、休日保育、一時保育など多様な保育サービスの充実」は、今回の調査でも多くの人が選んでいます（図表 I-29）。

・「保育環境の充実（待機児童の解消、保育園・児童センターなどの整備）」が、8.7%上昇し、36.8%と高い割合で選ばれています。

（図表 I-28 少子化への対応 回答者数 1,223 人）



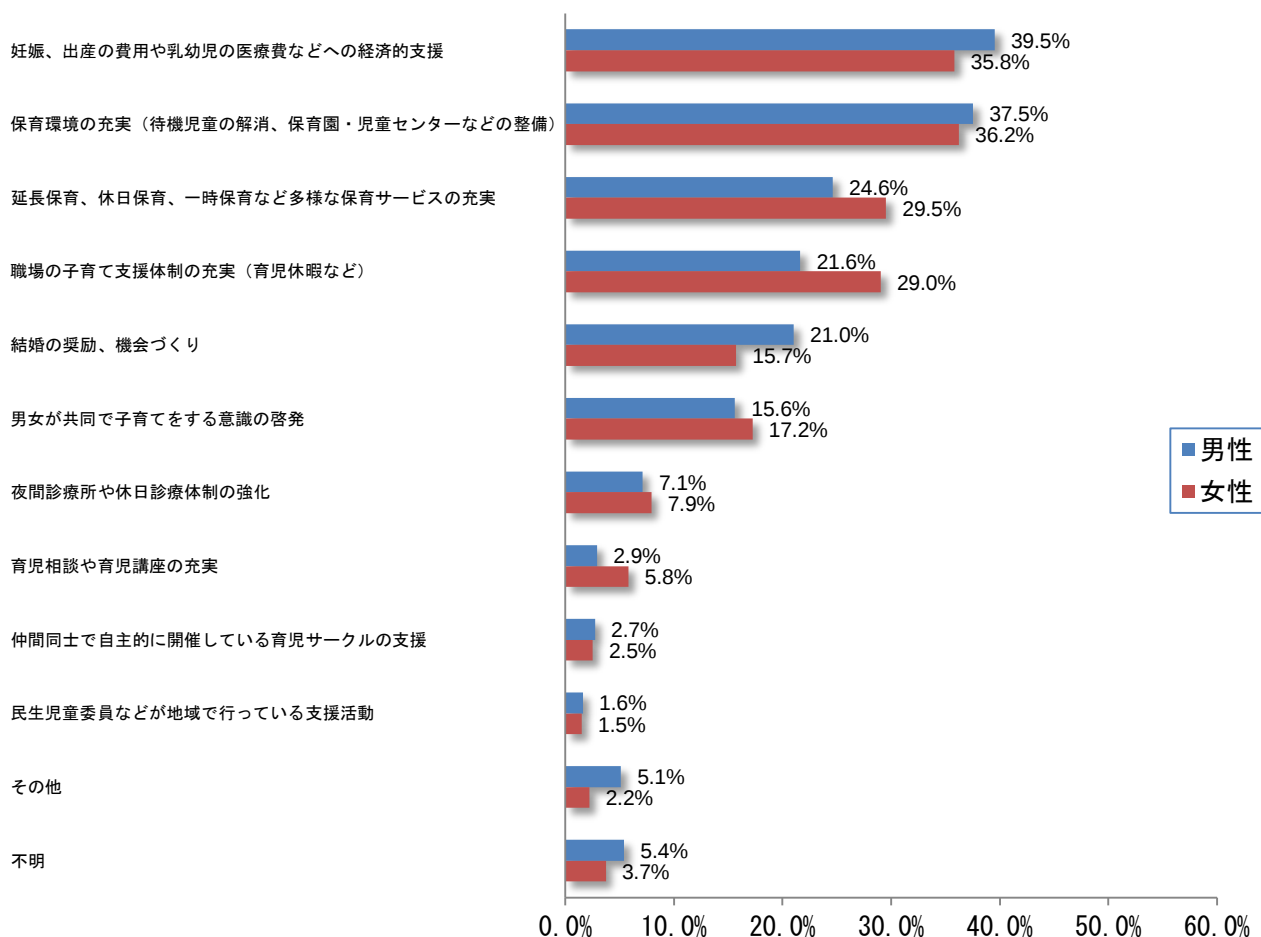
（図表 I-29 少子化への対応 前回調査比較）

	前回（平成 15 年 7 月調査）		今回	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1 位	妊娠、出産の費用や乳幼児の医療費などへの経済的支援	42.3	妊娠、出産の費用や乳幼児の医療費などへの経済的支援	37.4
2 位	職場の子育て支援体制の充実（育児休暇など）	34.6	保育環境の充実（待機児童の解消、保育園・児童センターなどの整備）	36.8
3 位	延長保育、休日保育、一時保育など多様な保育サービスの充実	34.1	延長保育、休日保育、一時保育など多様な保育サービスの充実	27.2

■ 性別（図表 I-30）

- ・男性は、女性と比べて「結婚の奨励、機会づくり」を選んだ割合が高くなっています。
- ・女性は、男性と比べて「延長保育、休日保育、一時保育など多様な保育サービスの充実」や「職場の子育て支援体制の充実（育児休暇など）」を選んだ割合が高くなっています。

（図表 I-30 少子化への対応 性別 回答者数 男性 552 人 女性 668 人）



■ 年代別（図表 I -31）

・各年代ではほぼ同様の傾向となっていますが、20 歳代では、他の年代と比べて「延長保育、休日保育、一時保育など多様な保育サービスの充実」よりも「職場の子育て支援体制の充実（育児休暇など）」を選んだ割合が高くなっています。

（図表 I -31 少子化への対応 年代別）

	回答者数(人)	単位 (%)											
		妊娠、出産の費用や乳幼児の医療費 などへの経済的支援	保育環境の充実（待機児童の解消、 保育園・児童センターなどの整備）	延長保育、休日保育、一時保育など 多様な保育サービスの充実	職場の子育て支援体制の充実（育児 休暇など）	結婚の奨励、機会づくり	男女が共同で子育てをする意識の啓 発	夜間診療所や休日診療体制の強化	育児相談や育児講座の充実	仲間同士で自主的に開催している育 児サークルの支援	民生児童委員などが地域で行ってい る支援活動	その他	不明
全体	1,223	37.4	36.8	27.2	25.7	18.2	16.4	7.5	4.5	2.6	1.6	3.5	4.6
20 歳代	97	51.5	28.9	17.5	35.1	16.5	16.5	3.1	7.2	2.1	1.0	3.1	4.1
30 歳代	188	45.7	37.8	32.4	27.7	9.6	19.1	4.3	3.2	0.5	0.5	5.3	3.2
40 歳代	218	33.5	39.4	31.2	25.7	18.3	15.6	8.3	4.1	2.3	0.5	5.5	1.4
50 歳代	206	35.4	39.8	25.7	24.8	17.0	12.6	6.3	5.3	3.9	1.0	3.4	7.8
60 歳代	268	34.0	38.8	28.0	24.6	20.1	17.2	8.6	5.6	2.6	1.1	3.4	4.1
70 歳以上	242	34.3	31.8	24.4	22.3	24.0	17.8	11.2	2.9	3.7	4.5	0.8	6.2

※1 全体数は年齢不明分も含んでいます。

※2 各年代の上位3項目のセルに色づけをしています。

■ 居住地区別（図表 I-32）

・上位4項目は、各地区で多くの人を選んでいますが、玉山地区では、「職場の子育て支援体制の充実（育児休暇など）」を選んだ割合が8.1%と低くなっており、代わりに「結婚の奨励、機会づくり」を選んだ割合が高くなっています。

（図表 I-32 少子化への対応 居住地区別）

	回答者数(人)	単位（％）											
		妊娠、出産の費用や乳幼児の医療費などへの経済的支援	保育環境の充実（待機児童の解消、保育園・児童センターなどの整備）	延長保育、休日保育、一時保育など多様な保育サービスの充実	職場の子育て支援体制の充実（育児休暇など）	結婚の奨励、機会づくり	男女が共同で子育てをする意識の啓発	夜間診療所や休日診療体制の強化	育児相談や育児講座の充実	仲間同士で自主的に開催している育児サークルの支援	民生児童委員などが地域で行っている支援活動	その他	不明
全体	1,223	37.4	36.8	27.2	25.7	18.2	16.4	7.5	4.5	2.6	1.6	3.5	4.6
河北	377	36.6	38.5	30.0	25.7	18.3	15.1	5.8	4.8	2.1	2.1	3.2	4.2
河南	174	35.6	33.9	29.3	27.0	16.7	16.7	8.0	2.9	2.3	1.7	4.0	5.2
盛南	193	35.2	41.5	25.4	27.5	13.0	20.2	10.4	5.7	2.1	2.1	2.6	3.1
厨川	222	45.0	39.6	23.0	28.4	19.4	17.1	6.8	3.2	3.2	0.5	3.6	1.4
都南	183	32.8	35.5	29.0	26.8	21.3	14.2	9.3	7.1	4.9	1.1	4.4	2.7
玉山	37	45.9	24.3	27.0	8.1	35.1	18.9	2.7	2.7	0.0	0.0	2.7	10.8

※1 全体数は居住地区不明分も含んでいます。

※2 各居住地区の上位3項目のセルに色づけをしています。

⑥ 高齢化への対応

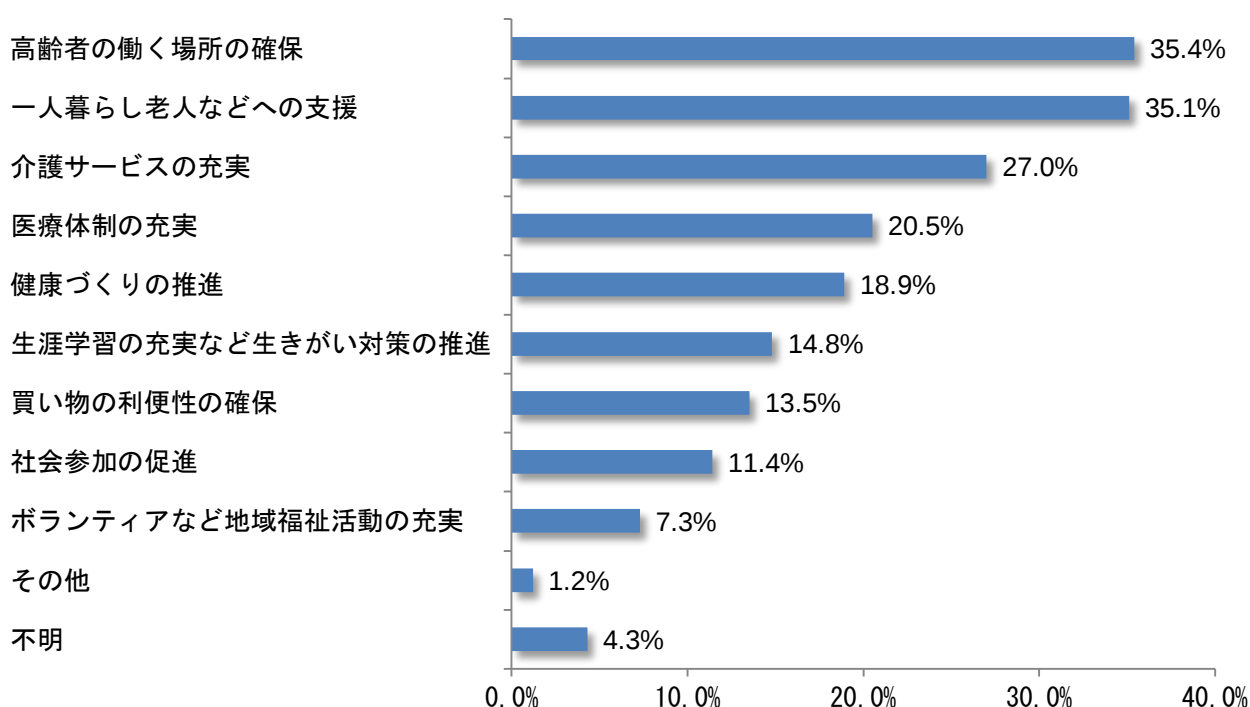
問 8 高齢化が進んでいますが、どのようなことに積極的に取り組むべきだとお考えですか。次の中から2つ以内をお選びください。

●「高齢者の働く場所の確保」が最も多い（35.4%）

・「高齢者の働く場所の確保」を選んだ人が最も多く、次いで「一人暮らし老人などへの支援」、「介護サービスの充実」となっています（図表 I-33）。

・「一人暮らし老人などへの支援」は、今回の調査で新たに設定した選択肢ですが、35.1%と高い割合で選ばれています（図表 I-34）。

（図表 I-33 高齢化への対応 回答者数 1,223 人）



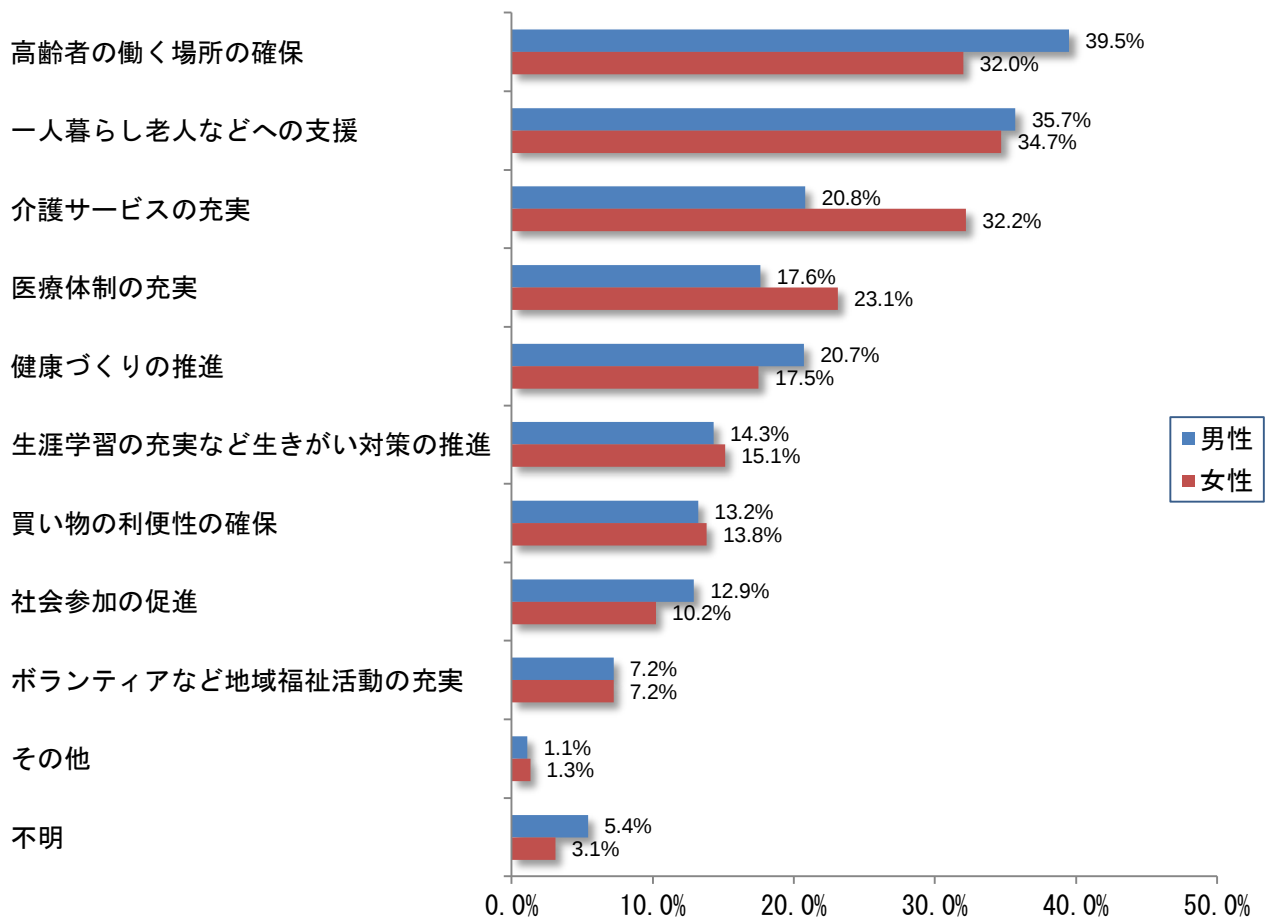
（図表 I-34 高齢化への対応 前回調査比較）

	前回（平成 15 年 7 月調査）		今回	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1 位	年金や生活保護制度の充実	39.3	高齢者の働く場所の確保	35.4
2 位	介護保健施設など老人福祉施設の整備促進	38.2	一人暮らし老人などへの支援	35.1
3 位	高齢者の働く場所の確保	30.7	介護サービスの充実	27.0

■ 性別（図表 I -35）

- ・男性は、女性と比べて「高齢者の働く場所の確保」や「健康づくりの推進」を選んだ割合が高くなっています。
- ・女性は、男性と比べて「介護サービスの充実」や「医療体制の充実」を選んだ割合が高くなっています。

（図表 I -35 高齢化への対応 性別 回答者数 男性 552 人 女性 668 人）



■ 年代別（図表 I -36）

- ・各年代ではほぼ同様の傾向となっていますが、20 歳代では、他の年代と比べて「買物の利便性の確保」を選んだ割合が高くなっています。
- ・70 歳以上では、他の年代と比べて「高齢者の働く場所の確保」よりも「医療体制の充実」や「健康づくりの推進」を選んだ割合が高くなっています。

（図表 I -36 高齢化への対応 年代別）

	回答者数（人）	単位（％）										
		高齢者の働く場所の確保	一人暮らし老人などへの支援	介護サービスの充実	医療体制の充実	健康づくりの推進	生涯学習の充実など生きがい対策の推進	買い物の利便性の確保	社会参加の促進	ボランティアなど地域福祉活動の充実	その他	不明
全体	1, 223	35. 4	35. 1	27. 0	20. 5	18. 9	14. 8	13. 5	11. 4	7. 3	1. 2	4. 3
20 歳代	97	37. 1	35. 1	26. 8	11. 3	12. 4	12. 4	25. 8	10. 3	9. 3	2. 1	6. 2
30 歳代	188	43. 6	37. 2	25. 0	14. 9	18. 6	15. 4	15. 4	11. 2	2. 1	1. 6	2. 7
40 歳代	218	46. 3	40. 8	25. 7	19. 7	17. 4	8. 3	14. 2	9. 6	5. 0	1. 4	1. 4
50 歳代	206	38. 8	32. 0	28. 6	22. 8	16. 0	14. 6	13. 1	7. 8	6. 8	1. 5	6. 3
60 歳代	268	30. 6	32. 1	24. 6	23. 1	20. 1	18. 3	9. 3	15. 3	10. 4	1. 1	4. 5
70 歳以上	242	21. 1	34. 3	31. 0	24. 8	24. 4	17. 4	11. 6	12. 4	9. 1	0. 4	5. 0

※ 1 全体数は年齢不明分も含んでいます。

※ 2 各年代の上位 3 項目のセルに色づけをしています。

■ 居住地区別（図表 I-37）

・上位3項目は、各地区で多くの人が選んでいます。玉山地区では、他の地区と比べて「高齢者の働く場所の確保」を選んだ割合が低くなっており、代わりに「買い物の利便性の確保」を選んだ割合が高くなっています。

（図表 I-37 高齢化への対応 居住地区別）

	回答者数(人)	単位 (%)										
		高齢者の働く場所の確保	一人暮らし老人などへの支援	介護サービスの充実	医療体制の充実	健康づくりの推進	生涯学習の充実など生きがい対策の推進	買い物の利便性の確保	社会参加の促進	ボランティアなど地域福祉活動の充実	その他	不明
全体	1,223	35.4	35.1	27.0	20.5	18.9	14.8	13.5	11.4	7.3	1.2	4.3
河北	377	36.3	35.0	25.7	21.8	19.4	12.7	14.1	9.8	7.2	2.1	4.8
河南	174	33.9	37.4	28.7	21.3	19.0	15.5	11.5	13.2	6.3	1.1	3.4
盛南	193	34.7	43.0	28.0	18.1	17.6	14.0	14.0	14.5	4.1	0.5	2.6
厨川	222	36.0	35.6	29.7	23.4	20.3	15.3	13.5	10.4	7.7	0.9	0.9
都南	183	39.3	27.3	28.4	20.2	18.6	19.1	12.0	12.0	9.8	1.1	2.2
玉山	37	18.9	35.1	16.2	18.9	16.2	18.9	24.3	5.4	13.5	0.0	10.8

※1 全体数は居住地区不明分も含んでいます。

※2 各居住地区の上位3項目のセルに色づけをしています。

⑦ 環境への対応

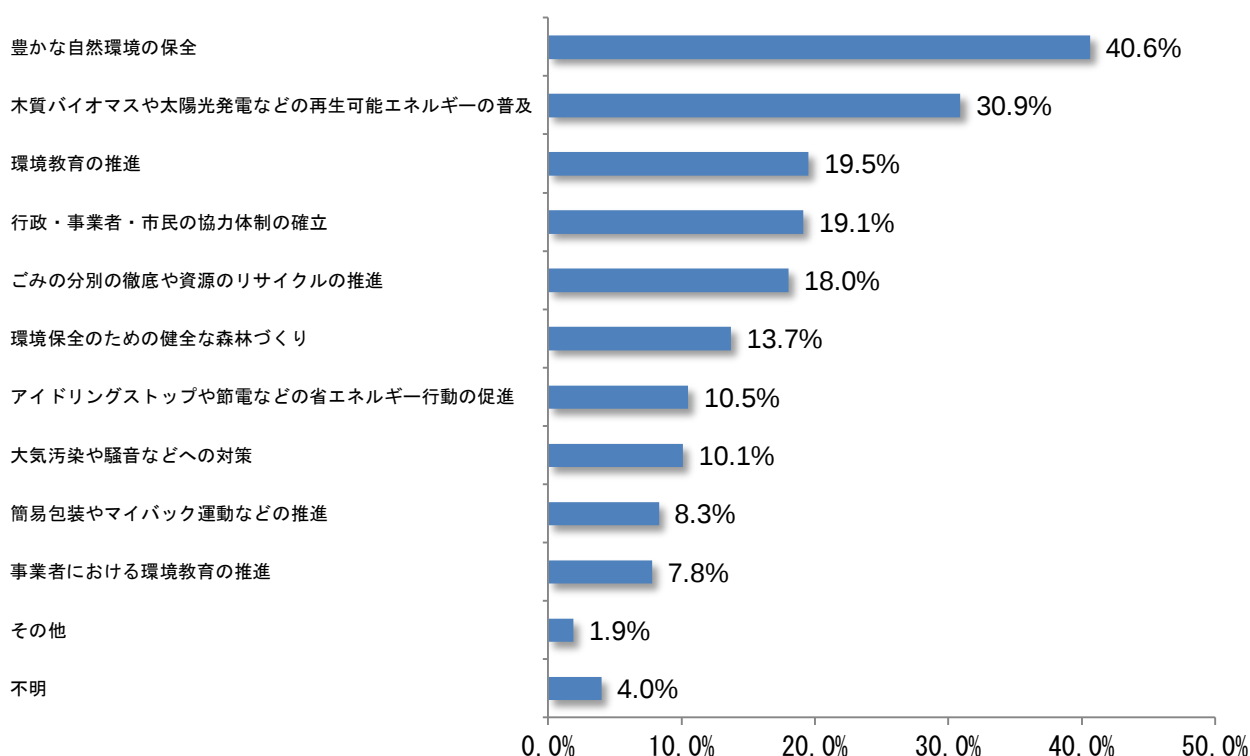
問9 近年、環境への関心が高まっていますが、どのようなことに積極的に取り組むべきだとお考えですか。次の中から2つ以内をお選びください。

●「豊かな自然環境の保全」が最も多い（40.6%）

・「豊かな自然環境の保全」を選んだ人が最も多く、次いで「木質バイオマスや太陽光発電などの再生可能エネルギーの普及」、「環境教育の推進」となっています（図表 I -38）。

・前回調査と比較すると「行政・事業者・市民の協力体制の確立」、「環境保全のための健全な森林づくりと地域木材の利用促進」を選んだ割合が減少し、代わりに「豊かな自然環境の保全」、「木質バイオマスや太陽光発電などの再生可能エネルギーの普及」を選んだ割合が上昇しています（図表 I -39）。

（図表 I -38 環境への対応 回答者数 1,223 人）



（図表 I -39 環境への対応 前回調査比較）

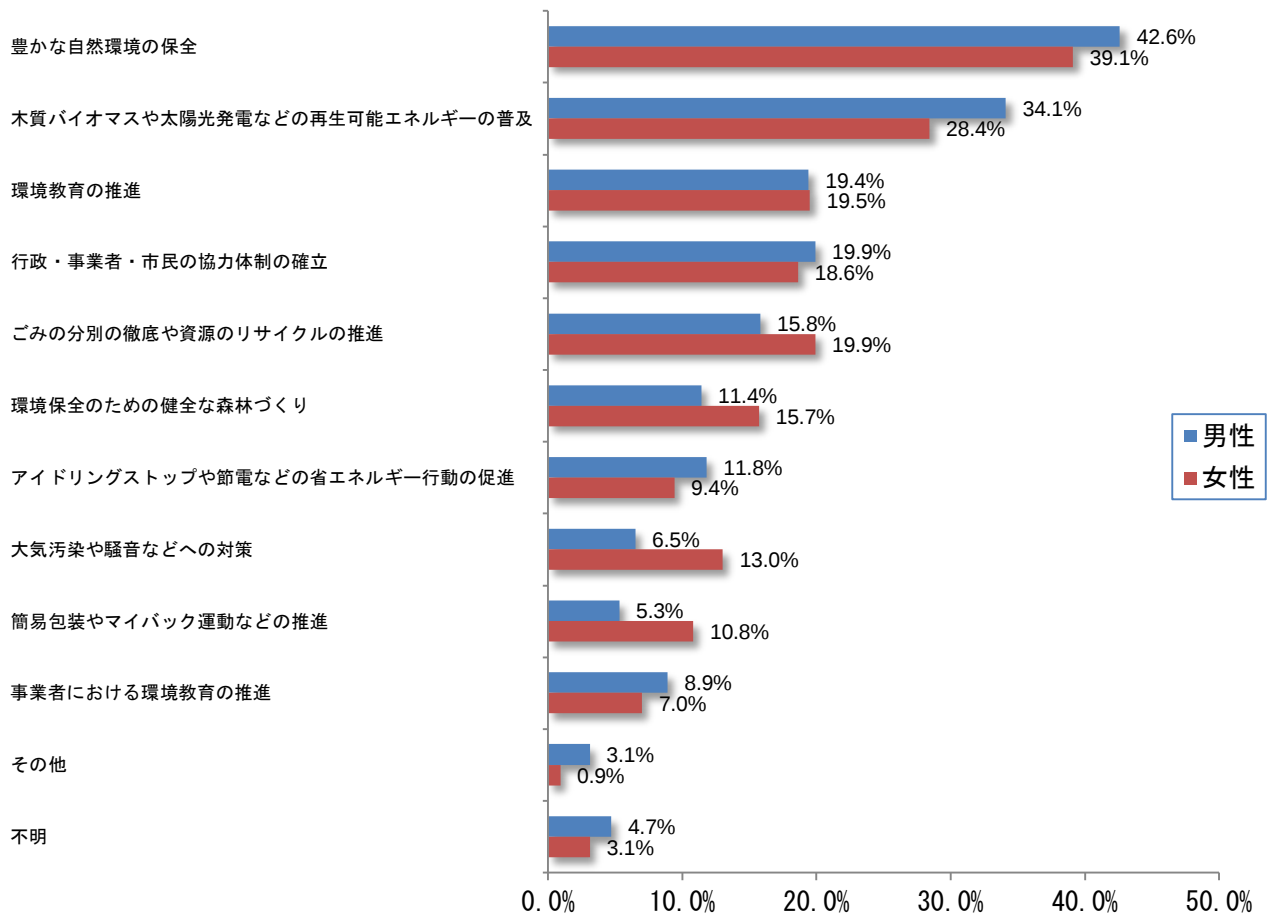
	前回（平成 15 年 7 月調査）		今回	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1 位	行政・事業者・市民の協力体制の確立	32.5	豊かな自然環境の保全	40.6
2 位	豊かな自然環境の保全	25.4	木質バイオマスや太陽光発電などの再生可能エネルギーの普及	30.9
3 位	環境保全のための健全な森林づくりと地域木材の利用促進	24.3	環境教育の推進	19.5

■ 性別（図表 I -40）

・男性は、女性と比べて「木質バイオマスや太陽光発電などの再生可能エネルギーの普及」を選んだ割合が高くなっています。

・女性は、男性と比べて「大気汚染や騒音などへの対策」や「簡易包装やマイバック運動などの推進」を選んだ割合が高くなっています。

（図表 I -40 環境への対応 性別 回答者数 男性 552 人 女性 668 人）



■ 年代別（図表 I -41）

・20 歳代と 30 歳代では、他の年代と比べて「木質バイオマスや太陽光発電などの再生可能エネルギーの普及」を選んだ割合が高くなっています。

・60 歳以上では、「環境教育の推進」よりも「行政・事業者・市民の協力体制の確立」や「ごみの分別の徹底や資源にリサイクルの推進」を選んだ割合が高くなっています。

（図表 I -41 環境への対応 年代別）

	回答者数（人）	単位（％）											
		豊かな自然環境の保全	木質バイオマスや太陽光発電などの再生可能エネルギーの普及	環境教育の推進	行政・事業者・市民の協力体制の確立	ごみの分別の徹底や資源のリサイクルの推進	環境保全のための健全な森林づくり	アイドリングストップや節電などの省エネルギー行動の促進	大気汚染や騒音などへの対策	簡易包装やマイバック運動などの推進	事業者における環境教育の推進	その他	不明
全体	1,223	40.6	30.9	19.5	19.1	18.0	13.7	10.5	10.1	8.3	7.8	1.9	4.0
20 歳代	97	35.1	39.2	16.5	9.3	14.4	8.2	15.5	16.5	15.5	7.2	2.1	5.2
30 歳代	188	35.6	44.1	23.9	12.8	15.4	9.6	11.2	8.5	8.0	8.5	2.1	1.6
40 歳代	218	41.3	33.0	21.1	13.3	17.0	11.5	11.9	11.9	8.3	7.8	1.8	2.3
50 歳代	206	40.8	34.0	19.9	16.5	16.0	18.0	10.7	6.8	9.7	7.8	2.4	4.9
60 歳代	268	41.0	25.7	19.0	26.1	19.8	15.7	9.7	9.3	6.0	8.2	1.1	4.5
70 歳以上	242	45.5	19.0	15.3	28.1	22.3	15.7	7.4	10.7	7.0	7.4	2.1	5.0

※ 1 全体数は年齢不明分も含んでいます。

※ 2 各年代の上位 3 項目のセルに色づけをしています。

■ 居住地区別（図表 I-42）

・ 厨川地区、都南地区では、他の地区と比べて「行政・事業者・市民の協力体制の確立」を選んだ割合が高くなっています。

・ 玉山地区では、他の地区と比べて「木質バイオマスや太陽光発電などの再生可能エネルギーの普及」を選んだ割合が 16.2%と低くなっており、代わりに「環境保全のための健全な森林づくり」が 35.1%と選んだ割合が高くなっています。

（図表 I-42 環境への対応 居住地区別）

	回答者数（人）	単位（％）											
		豊かな自然環境の保全	木質バイオマスや太陽光発電などの再生可能エネルギーの普及	環境教育の推進	行政・事業者・市民の協力体制の確立	ごみの分別の徹底や資源のリサイクルの推進	環境保全のための健全な森林づくり	アイドリングストップや節電などの省エネルギー行動の促進	大気汚染や騒音などへの対策	簡易包装やマイバック運動などの推進	事業者における環境教育の推進	その他	不明
全体	1,223	40.6	30.9	19.5	19.1	18.0	13.7	10.5	10.1	8.3	7.8	1.9	4.0
河北	377	41.4	33.2	17.2	17.0	19.6	10.3	11.7	10.6	8.8	6.1	2.1	4.5
河南	174	42.5	20.1	23.0	19.5	15.5	17.2	12.1	10.9	8.0	8.0	2.9	4.0
盛南	193	38.3	39.4	16.6	17.6	18.1	15.5	8.3	9.3	8.8	8.3	1.6	2.1
厨川	222	37.4	32.4	23.4	24.8	20.7	11.3	9.5	9.0	9.0	12.2	1.4	0.0
都南	183	42.1	33.3	19.7	21.3	16.4	14.2	11.5	12.0	7.1	8.7	1.1	1.6
玉山	37	43.2	16.2	16.2	10.8	16.2	35.1	10.8	5.4	8.1	0.0	2.7	10.8

※1 全体数は居住地区不明分も含んでいます。

※2 各居住地区の上位3項目のセルに色づけをしています。

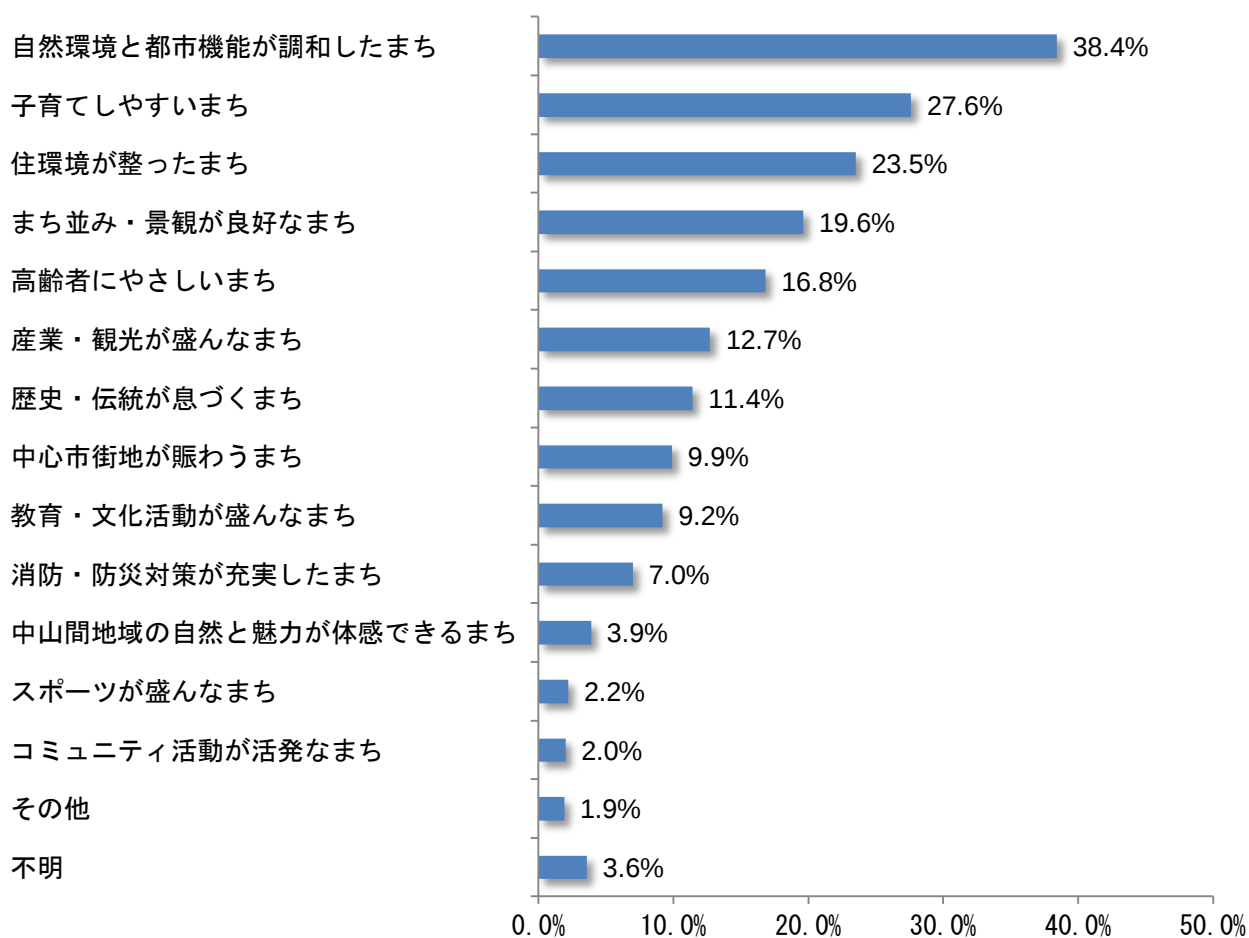
⑧ 都市の魅力創造 ※今回の調査で新たに設定した設問です。

問10 市内外の人から「住み続けたい」、「訪れたい」、「住んでみたい」、「事業活動したい」などと思われるようなまちとなるには、どのような魅力を市内外にPRしていくべきだとお考えですか。次の中から2つ以内をお選びください。

●「自然環境と都市機能が調和したまち」が最も多い（38.4%）

- ・「自然環境と都市機能が調和したまち」を選んだ人が最も多く、次いで「子育てしやすいまち」、「住環境が整ったまち」となっています（図表 I-43）。

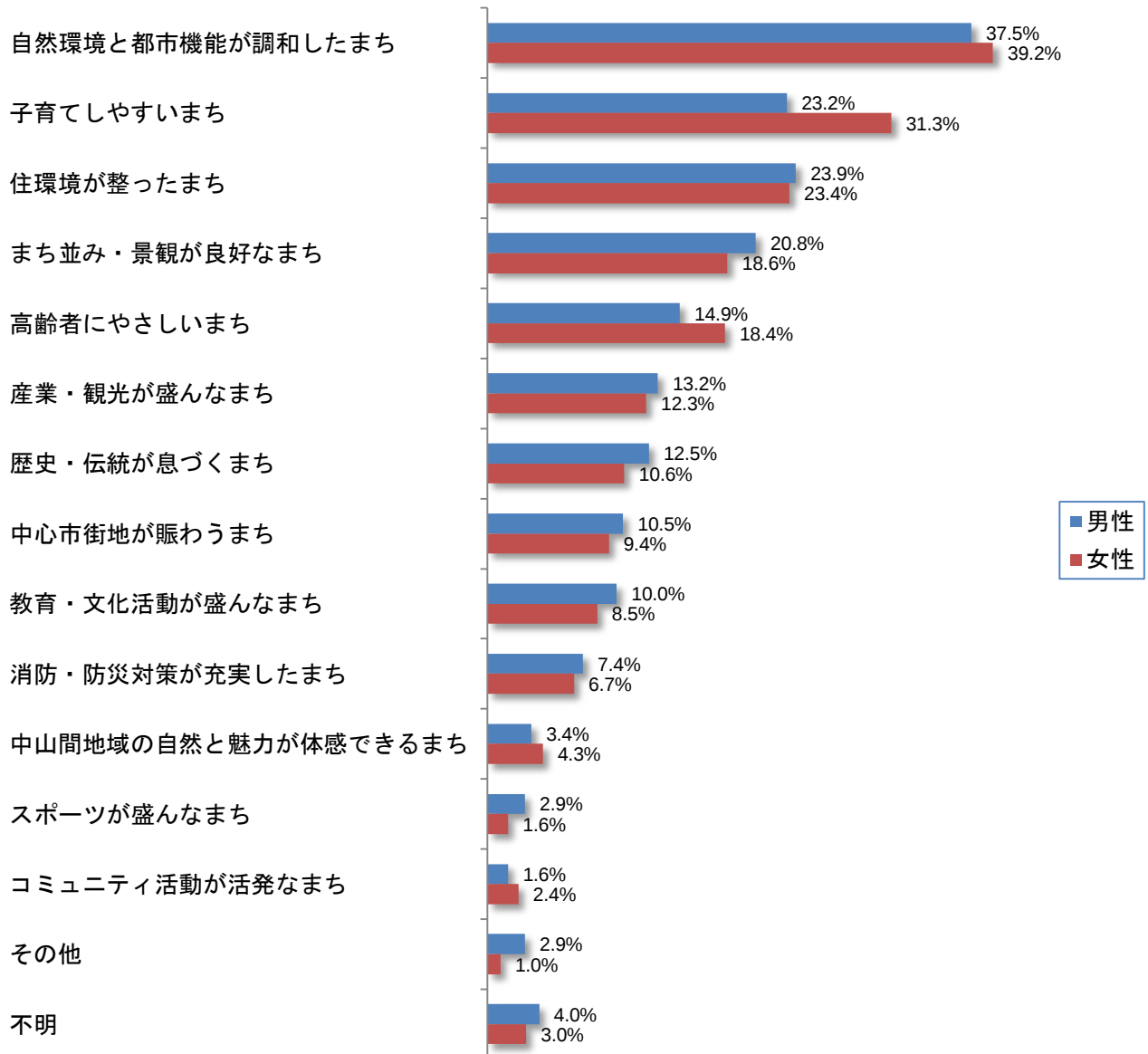
（図表 I-43 都市の魅力創造 回答者数 1,223 人）



■ 性別（図表 I -44）

・女性は、男性と比べて「子育てしやすいまち」、「高齢者にやさしいまち」を選んだ割合が高くなっています。

（図表 I -44 都市の魅力創造 性別 回答者数 男性 552 人 女性 668 人）



■ 年代別（図表 I -45）

・各年代ではほぼ同様の傾向になっていますが、20 歳代と 30 歳代では「子育てしやすいまち」を選んだ割合が「自然環境と都市機能が調和したまち」よりも高くなっています。

・70 歳以上では、「子育てしやすいまち」よりも「高齢者にやさしいまち」を選んだ割合が高くなっています。

（図表 I -45 都市の魅力創造 年代別）

	回答者数（人）	単位（％）														
		自然環境と都市機能が調和したまち	子育てしやすいまち	住環境が整ったまち	まち並み・景観が良好なまち	高齢者にやさしいまち	産業・観光が盛んなまち	歴史・伝統が息づくまち	中心市街地が賑わうまち	教育・文化活動が盛んなまち	消防・防災対策が充実したまち	中山間地域の自然と魅力が体感できるまち	スポーツが盛んなまち	コミュニティ活動が活発なまち	その他	不明
全体	1,223	38.4	27.6	23.5	19.6	16.8	12.7	11.4	9.9	9.2	7.0	3.9	2.2	2.0	1.9	3.6
20 歳代	97	30.9	44.3	20.6	27.8	8.2	14.4	7.2	11.3	5.2	4.1	3.1	2.1	3.1	1.0	4.1
30 歳代	188	33.0	45.7	25.5	17.6	9.6	13.8	9.6	9.6	7.4	5.9	0.0	2.7	2.1	2.7	3.2
40 歳代	218	38.1	25.7	27.5	22.9	16.1	11.9	11.0	10.1	9.6	5.0	2.3	3.7	1.4	2.3	2.3
50 歳代	206	44.7	23.3	24.8	17.0	19.4	10.2	10.7	4.9	10.7	9.7	4.9	1.0	1.5	3.4	3.9
60 歳代	268	41.0	27.6	22.8	18.3	17.5	11.9	13.4	10.4	7.8	7.5	6.3	1.1	1.9	1.1	3.0
70 歳以上	242	37.6	12.4	19.8	18.6	23.6	14.5	13.6	13.2	12.0	8.3	5.4	2.9	2.9	0.8	4.5

※ 1 全体数は年齢不明分も含んでいます。

※ 2 各年代の上位 3 項目のセルに色づけをしています。

■ 居住地区別（図表 I-46）

・上位4項目は、各地区で多くの人を選んでいますが、玉山地区では、「住環境が整ったまち」を選んだ割合が10.8%と低くなっており、代わりに「まち並み・景観が良好なまち」、「中山間地域の自然と魅力が体感できるまち」を選んだ割合が高くなっています。

（図表 I-46 都市の魅力創造 居住地区別）

	回答者数(人)	単位 (%)														
		自然環境と都市機能が調和したまち	子育てしやすいまち	住環境が整ったまち	まち並み・景観が良好なまち	高齢者にやさしいまち	産業・観光が盛んなまち	歴史・伝統が息づくまち	中心市街地が賑わうまち	教育・文化活動が盛んなまち	消防・防災対策が充実したまち	中山間地域の自然と魅力が体感できるまち	スポーツが盛んなまち	コミュニティ活動が活発なまち	その他	不明
全体	1,223	38.4	27.6	23.5	19.6	16.8	12.7	11.4	9.9	9.2	7.0	3.9	2.2	2.0	1.9	3.6
河北	377	37.9	29.4	23.6	18.8	17.8	13.0	9.3	11.7	9.3	5.6	4.0	1.3	2.4	2.9	3.4
河南	174	42.5	21.8	21.3	20.1	13.2	12.6	17.8	14.4	9.2	5.7	2.9	4.6	0.6	1.7	2.3
盛南	193	36.8	34.7	23.3	19.7	14.0	15.0	11.9	7.8	8.8	8.3	1.6	1.6	1.6	1.6	3.6
厨川	222	38.7	28.4	24.8	21.2	18.0	12.2	11.7	6.8	9.0	9.9	3.6	2.7	2.3	1.8	0.9
都南	183	37.2	26.8	26.2	18.6	19.1	12.6	11.5	10.4	10.4	7.1	4.9	2.2	2.7	0.5	2.2
玉山	37	45.9	18.9	10.8	24.3	16.2	8.1	8.1	0.0	8.1	8.1	18.9	2.7	5.4	0.0	8.1

※1 全体数は居住地区不明分も含んでいます。

※2 各居住地区の上位3項目のセルに色づけをしています。

(4) 理想の盛岡、まちづくりについて(問2 記述式)

問2 問1で掲げた項目のほかに、あなたが思う「理想の盛岡」や「盛岡のまちづくり」について、自由にご提案してください。

① 提案件数

819件(回答者数493人)

提案の件数は複数回答の取扱いとしています。

② 提案の概要

提案の内容を整理するため、現在の盛岡市総合計画の施策の柱(8)と施策(41)ごとに分類したところ、以下のようになりました。

■ 施策の柱

「7 快適な都市機能」に関する提案が最も多く、次いで「5 活力ある産業の振興」、「1 いきいきとして安心できる暮らし」に関する提案が多くなっています。

施策の柱	件数(件)	割合(%)
1 いきいきとして安心できる暮らし	127	15.5
2 安全な暮らし	34	4.2
3 心がつながる相互理解	29	3.5
4 共に生き未来を創る教育・文化	69	8.4
5 活力ある産業の振興	164	20.0
6 環境との共生	60	7.3
7 快適な都市機能	223	27.2
8 信頼される質の高い行政	42	5.1
9 その他(市政関連、アンケートに関する意見など)	71	8.7
合 計	819	100.0

■ 施策

施策の柱	施策	件数(件)
きる 1 いき 暮らし いき として 安心で	1 健やかに暮らせる健康づくりの推進	5
	2 地域をリードする医療体制の確立	17
	3 共に歩む障がい者福祉の実現	6
	4 高齢社会に適応した高齢者福祉の充実	49
	5 暮らしを支える制度の充実と自立支援	4
	6 みんなで支える子育て支援の展開	39
	7 ふれあいが広がる地域福祉の実現	7
	小 計	127
ら 2 安全 な 暮	1 自然災害対策の推進	11
	2 火災に強い消防体制の構築	0
	3 市民生活を守る安全対策の充実	23
	小 計	34

施策の柱	施策	件数（件）
3 相互理解 心が つなが る	1 元気な地域コミュニティ活動の推進	20
	2 人権を尊重する地域社会の形成	0
	3 多様な国際交流・地域間交流の推進	9
	4 快適な情報ネットワークの実現	0
	小 計	29
4 共に 教育・文 化を 創る	1 将来を担う次世代の育成	31
	2 いつでもどこでも学ぶことができる環境の構築	8
	3 生涯にわたり楽しめるスポーツ・レクリエーションライフの実現	17
	4 豊かな心を育む芸術文化活動の支援	6
	5 歴史を受け継ぐ文化遺産の保護・活用	7
	小 計	69
5 振興 活 力ある 産業の	1 活力ある農林業の振興	6
	2 まちに活力を与える工業の振興	4
	3 多様で活発な商業・サービス業の振興	49
	4 地域資源をいかした観光・物産の振興	53
	5 安定した雇用の創出と良好な労働環境の促進	52
	小 計	164
6 共生 環 境との	1 生活環境の保全	17
	2 かけがえのない自然との共生	29
	3 地球環境への貢献	14
	小 計	60
7 快 適な 都市機 能	1 適正な土地利用計画の推進	15
	2 魅力ある都市景観の形成	62
	3 快適な居住環境の実現	39
	4 うるおいのある公園・街路樹の確保	43
	5 いつでも信頼される上水道事業の推進	0
	6 健全な水環境・良好な水循環の創出	0
	7 にぎわいのある市街地の形成	12
	8 都市活動を支える交通環境の構築	52
	小 計	223
8 行政 信 頼さ れる 質の 高い	1 健全な財政運営の実現	9
	2 計画的で効率的な行政運営の推進	6
	3 市民とともに作る行政の実現	23
	4 市民の負託に応える組織の構築・人材の育成	0
	5 より便利な行政サービスの構築	1
	6 自治の確立を目指す取組みの強化	3
	小 計	42
9	その他（市政関連、アンケートに関する意見など）	71
合 計		819

■ 施策の柱ごとの主な内容

個々の提案については、「施策ごとの内容（P54～）」に掲載しています。

1 いきいきとして安心できる暮らし

高齢者福祉や子育て支援に関する提案が多くありました。高齢者福祉については、高齢者が住みやすく、健康で元気な高齢者が活躍できるまちづくりをしてほしいなどの提案が、子育て支援については、子育てしやすい保育環境を整えてほしいなどの提案がありました。

2 安全な暮らし

自然災害及び交通安全への対策に関する提案が多くありました。自然災害の対策については、災害に強いまちづくり、体制づくりが必要であるなどの提案が、交通安全への対策については、通学路等の歩道を拡張し、子どもたちが安全に通学できるまちづくりを行ってほしいなどの提案がありました。

3 心がつながる相互理解

コミュニティ活動や地域間交流の活性化に関する提案が多くありました。コミュニティ活動については、コミュニティの活動がしやすく人とのつながりが持てるまちづくりをしてほしいなどの提案が、地域間交流の活性化については、人口増は望めない中で交流人口が増えるような取組に期待するなどの提案がありました。

4 共に生き未来を創る教育・文化

教育環境の充実や生涯スポーツの推進に関する提案が多くありました。教育環境の充実については、子どもたちが安心して才能や個性を発揮できる環境整備や教育関連予算の拡充を求める提案がありました。生涯スポーツの推進については、スポーツ施設の整備や指導者育成に力を入れてほしいなどの提案がありました。

5 活力ある産業の振興

商店街の活性化や企業誘致・雇用に関する提案が多くありました。商店街の活性化については、中心市街地の商店街が活力を維持できる環境を作り出していくべきなどの提案が、企業誘致・雇用については、製造業を中心とした産業の誘致に力を入れてほしい、若者が働ける場所を確保してほしいなどの提案がありました。

6 環境との共生

自然との共生や再生可能エネルギーに関する提案が多くありました。自然との共生については、自然とまちが共存しあう今の環境を維持してほしいなどの提案が、再生可能エネルギーについては、太陽光発電などの再生可能エネルギーを活用した地球にやさしいまちづくりしてほしいなどの提案がありました。

7 快適な都市機能

景観形成や交通環境の整備に関する提案が多くありました。景観形成については、盛岡らしいまち並みを残してほしいなどの提案が、交通環境の整備については、自転車専用道の整備を更に拡大してほしい、バスなどの公共交通の利便性の向上を図ってほしいなどの提案がありました。

8 信頼される質の高い行政

行政運営やまちづくりに関する提案が多くありました。行政運営については、将来の予測をしっかりとしてほしいなどの提案が、まちづくりについては、「盛岡ならではのまちづくり」を市民が協力し合い、様々な分野で発展したまちになってほしいなどの提案がありました。

9 その他

I L C誘致に目を向けるべき、盛岡弁や旧町名を残してほしいなど、様々な提案・意見がありました。

■ 施策ごとの内容

- ・現在の盛岡市総合計画の施策ごとにまとめて掲載しています。
- ・施策番号に対応する施策名については、P 50, 51を参照してください。
- ・趣旨を変えない程度に要約したものもあります。
- ・同趣旨と思われ、割愛したものもあります。

●施策の柱 I いきいきとして安心できる暮らし

施策	内容
1	健康で明るく元気に生活できるまちに。
	元気に一人で暮らしていける健康を保てるようなまちづくり，施策の展開（ウォーキングなど）。
	誰もが健康で安心して暮らせるまちづくり。例えば，医療生協といわて生協の共同による「ふれあいお茶っこ会」。
2	健康あつての快適な生活。それを支える医療体制の充実を図る。
	岩手医大が矢巾町に移転した後，岩手医大の分院として高度医療施設を残してほしい。
	病院の移転が相次ぎ，待ち時間が長く患者が困っています。力をいれてはどうでしょうか。
	医療体制の充実したまちに。盛岡市立病院の医師不足解消・市立病院に産婦人科がない市は考えられない。
	玉山エリアに小児科，公園がほしい。病院が「わざわざいくところ」ではなくもう少し身近にあると助かる。
	岩手医大，県立中央病院の混み方は患者には相当な負担。矢巾への移転は救急医療も含め，年老いていく私たちにとって相当不安です。
	医療設備が乏しすぎる。専門的病院がない。先進医療を盛岡の地に。
3	「人にやさしいまち」をコンセプトとしたまちづくり。市民をはじめ来訪者全ての人にやさしいまちであってほしい。ハードの充実としては，病院老健施設等の医療・福祉施設の充実，公共施設の内容の充実，道路の整備等。ソフトの充実としては，ハードを運営するための人材の確保・育成，市民意識の醸成（市民一人ひとりが「人にやさしいまちにするんだ」という意識の共有）。
	うつ病患者や精神疾患のある方たちが働ける場所がたくさんあると良い。
	老いも若いも障がいがあっても無くても自由に生活できるまちづくりを目指してほしい。
	障がい者にやさしいまち。障がい者が一人でも歩けるまち。
	ノーマライゼーションの成熟したまち。
	障がい者等の就労困難者も活躍できる機会や場所がもっとあると良い。
4	体が不自由な方と同様に精神的な障がいを持つ人にもう少し理解がほしい。
	老人施設のスタッフの質に不安を覚える。待遇面の考慮，健全な若者育成に力を注いでほしい。
	定期的に一人暮らし老人の見守りができる状況になること。
	高齢者が効率良く暮らせるまち（生活面）。
	老人が孤独死することの無い市政・福祉をお願いします。
	高齢者が多く，貧富の差が大きい。社会保障の充実を。平和な日本で老後も安心して暮らせるまちづくりが大切。税金を人の命と暮らしを守るために使ってほしい。

●施策の柱 Ⅰ いきいきとして安心できる暮らし

施策	内容
4	現在、介護保険で様々なサービスが受けられるが、実際の利用方法など分かりにくい部分が沢山ある。まして一人暮らしのお年寄りには分からない事だらけではないか。理解して皆が利用できる説明会が必要。
	高齢者の福祉や医療への依存度を軽減。生産性ある生活できるまちに。まちで行っている事業をできるだけ高齢者に委託，お小遣いなどまかなえるように。
	高齢化は避けられないので高齢者が安心して生活できるまちづくりや，それを売りに高齢者を集め，高齢者が税金を生むシステムを考える。様々な面で高齢者が貢献できたら素晴らしいと思う。
	老後に生き生き健やかに過ごせるまちになってほしい。幸福に第二の人生を送れる環境がハード，ソフトの両面で充実してほしい。
	定年退職等で職場を離れた人の多くはまだ体力，気力とも充実している。それらの人達に経験を活かした社会参加できる制度を作してほしい。参加したくとも窓口が分からない人が大勢いるのではないだろうか。私も含めて。
	高齢者が安心して過ごせるまちづくりを希望します（金銭補助も含む）。
	高齢者にも働く場所があり，子育て中の若者たちと交流，触れ合う場が常にあること。
	子どもと年寄りが交流しながら自然に親しめるまちになってほしい。
	今の盛岡は安心して働けるシステムが不足している。少子高齢化が進む今こそ，子育てや介護を担っている世代が安心して働けるように環境を整えなければ理想のまちになる前に破綻すると思います。
	高齢者にやさしいまち（一人暮らしの老人への支援）。
	高齢者の方々には色々な事を楽しめる生活を送ってほしい。誰か特別な人が潤うのではなく，市民全体が気持ちに余裕が持てる毎日を楽しく送っていけるまちを目指してほしい。
	低所得者でも入れる老人ホームを作してほしい。
	老人の一人暮らしが増えている。老人が集ってお茶飲みでもできるような場所があったらよいと思う。会話ができれば痴呆も減少すると思う。
	外観に力を入れているように思われるが，元来災害の少ないまちである。それを利用しながら老若男女が快適に過ごせるほっとするまちになるとよいと思う。
	高齢年齢層が幅広く働けること。税金の減。
	老若男女問わずにどの世代にも平等なまちづくりを行うことが「理想の盛岡」へ繋がると思う。さまざまな面での支援が私たちにあって生きがいとなり，長く住み続けたいと願う糧にもなると思う。その分，若い世代が社会や盛岡の人々に貢献できるよう努力したい。
	「優先席がないまち」。バスにお年寄りが乗ってきたら気軽にどうぞと声をかけ，席をゆずる人がいっぱいいるまち。皆で練習体験をできる機会があればいいと思う。このことを市民の多くが体験すれば，困っている人がいれば声をかける（保健福祉に通じる），道に迷っている人がいれば声をかける（観光ビジネスに通じる）など，とても素敵なまちになると思う。
	安心して老後を過ごせるまち。
	高齢者が楽しく遊べる場所づくり。
	幼老一環の施設がまちにできれば良い（老人にとっても子どもにとっても）。
	少子高齢化が加速するので，高齢者が技能や体力に合わせ働き続けられるボランティアや仕事の拡大（賃金は安くても）を図る。

●施策の柱 Ⅰ いきいきとして安心できる暮らし

施策	内容
4	一人暮らしの高齢者が安心して暮らせるようなまちであってほしいと思う。買い物等の代行や医療機関への車での送迎等を充実させてほしい。
	中心商店街の活性化。そこを取り囲むまちにも商業の流通があり、その中に老人ホームをつくる。
	まだまだ多くの有効地（農地等）があります。市及び民間企業が協力し、福祉施設をもっと多く建設していただきたい。
	子育て世代は仕事家事育児で時間とお金のやりくりが大変。時間と比較的お金に余裕がある60代が増加しているので地域や学校行事にシルバー世代を参加させる。シルバー世代にとっても活躍する場、貢献できる場が増えれば健康で長生きになり、福祉サービス費や医療費の削減に繋がると思う。そういった意識が一般的になれば良いと思います。
	心配事は病気等で自活が困難になった場合、老人ホームにスムーズに入れるかということ。安心できる施設の充実を希望します。
	高齢になっても元気なうちは働きたい人に仕事が提供できるまち。
	高齢者が低料金で気軽に参加できる歌や楽器、軽運動、朗読等を、市が企画して各地区公民館でやれば健康と楽しみの増強につながる。
	年寄りにも出来る農業（作物）などを推進して年寄りでも働ける場所があればいいと思います。
5	子育て世代、熟年老後世代（年金収入の少ない世代）に対して支援が充実しているまちにしてほしい。盛岡は老後に住みたいまちと他県の人は言う。古きよき街並みに新しいものを取り入れてほしい。
	子ども、妊婦、障がい者は人生の先輩の声を沢山聞いてほしい。
	生活の格差のないまち。
	生活保護受給者等の就労困難者も活躍できる機会や場所がもっとあると良いと思う。
6	弱い立場や困っている人の救いになる何かが充実するとよい。特に公務員の方にはそういう人を大切にしてほしい。
	生命を大事にする市政が忘れられていませんか。社会的弱者、高齢者が安心して暮らせるまちづくりを進めてください。市民が必要とするもの重要なものにお金をかけるよう、市民の生の声を吸い上げてほしい。
	子どもと遊ぶ公園の整備。共働きの親が時間を有効に使える環境をたくさんつくる。
	老人や子どもたちが大事にされる都市になってほしい。市立の保育園をもっと増やしてほしい。結婚して子どもが生まれてからも安心して保育してもらえる施設を増やしてほしい。
	子育ての優遇制度等、表面に現れない努力が必要。
	公立の保育園がたくさんあり、待機なしで預けられる。妻が妊娠・出産・育児で働けない間は助成金で生活に困らない収入が確保できる。
	子どもたちが明るく楽しく遊べるまち。
	子どもを安心して育てられる環境づくり。
	東北の中でも行政サービス、地域活動が遅れている。市民間でのサークル活動での市からの支援の少なさに驚きました。子育てしやすいまちを是非押していただきたい。
	次の世代を担う子どもたちがたくさんいるまち。

●施策の柱 Ⅰ いきいきとして安心できる暮らし

施策	内容
6	子どもや弱者にやさしいまち。
	若者が結婚して子どもを育てていけるようなまちづくりを国を巻き込んで進めていってほしい。盛岡市から発信を。
	希望の保育園にすぐ入れるように。
	子どもの病院の会計の度、医療費助成給付申請書を提出するのを忘れてしまい、市役所に提出するのがとても面倒。仙台市はとても楽で便利。盛岡に来てから子どもを連れての通院も電車移動も億劫で仕方ない。
	子どもと高齢者が住みやすい安心安全なまちづくりを最優先に。
	保育料の値下げ。延長保育の充実。
	子育て支援が手薄。お母さんが本当に望んでいる支援をお願いしたい。以前住んでいた市町村ではおもちゃ図書館、一時託児所（ボランティアの中高年が数時間預かってくれる）、支援センターが全て集まった建物があり、若いお母さん達の集まりやすい所を一箇所に作っていた。広報に様子が載っていて初めての人でも行ってみたくなる場所だった。税金を還元しているのを目の当たりにすると若い納税者はうれしく思い、住みやすいと感じることに繋がると思った。
	待機児童が無くなり、女性も仕事や子育てに努力できる保育園等の施設の充実。受入枠を広げ住みやすいまちづくりができると良いなと思う。
	子どもの医療費助成金の期間延長（中3くらいまで）。
	母子家庭の支援を充実してほしい。
	子どもたちの明るい声がいつまでも続くように。生活環境がどの家庭にも平等にである盛岡市であってほしい。
	子育てを安心して行うためには、生活環境が整い、経済や商業流通が活発である必要がある。活発であれば若い世代が集まり、出会いや結婚の奨励にもつながり、少子化対策になる。そして人口も増加し、盛岡市近郊の活性にも繋がり、岩手県を中心都市になるのではないだろうか。
	10年後と言わずに今すぐにでも子育てと仕事が両立できるように保育施設を増やしてほしい。女性が元気に働いて出産・子育てしても会社に戻れるようにしてほしい。どこかの県のように「待機児童0のまち」が今の理想。
	子育てしやすいまち。幼稚園と保育園が一体になった子どもを預かってくれて教育もしてくれるところが増えてほしい。
	雇用の場を増やし、共働きの親が安心して働けるように子育て支援の環境を整える。保育園増設や高齢者の社会参加等、地域に密接したあたたかいまち・支え合うまちであってほしいと願う。
	若い人が生き生きと働き、子どもの声があふれるまち。
	他県から移住してきて、親兄弟親戚のいない中で働きながらの子育ては大変でした。そのことが要因で仕事をやめる訳にはいかず、子どもは一人っ子です。「盛岡＝働くお母さんに優しいまち」になってほしいと切に願います。
	子どもの医療費を小学生くらいまで無料に。
	他の市町村には無い子育てや福祉に対する施策を立て、盛岡市内外どちらの人にも魅力的なまちづくりをしてほしい。

●施策の柱 Ⅰ いきいきとして安心できる暮らし

施策	内容
7	少子高齢化が進んでいる。地域で福祉と医療の連携がうまくとれることが大事だと思う。
	地域住民がお互いに協力し合うまち。
	災害が起きた時、行政や地域が共に支え合っていけるまちづくりをしてほしい。
	温故知新のもと、地域の皆が安全で支え合って暮らせるまち。
	市民が協力し支え合えるまちに。

●施策の柱 II 安全な暮らし

施策	内容
1	災害に強いまちづくりと早急に対策できる体制作りが必要（市役所を中心に）。
	災害時の対応（素早い報道と確実な情報，飲料水問題，他県と連携できる体制作り）。子どもや高齢者の安全な生活を守れるまち。
	9月の大雨で道路などを隅々まで点検する必要があると思う。
	東日本大震災の教訓からそれぞれの地域単位と各町内会ごとに防災計画を立て，それに沿った防災訓練を実施して，防災意識を高め，「災害に強い盛岡」を作っていくことを希望します。
	安心安全で人が優しいまちが理想の盛岡です。
	自然災害に対する対応のまずさが多すぎる。岩手の中心都市としての対応や発信をすべき。今後の盛岡を培う子どもたちに夢を与えること。
2	
3	4号線沿いの歩道が狭く凸凹が多い。交差点は十字路ではなく三叉路で道に入る際に車も大変な様です。住宅の周りは袋小路が多く，災害時に大型車が通れるか心配。
	事故・事件のない安全で楽しい町。若い人がいっぱい暮らせるまちになってほしい。
	今の盛岡は交通量が多い割に人や自転車が安心して通行できる道が少ない。安心して歩ける道路を，特に狭い道には歩道を整備してほしい。「狭いからできない」ではなく「狭いからこそ必要」だと思う。困難な場合は一方通行にする等，人と自動車が共存できるまちを作るべき。そのためには運転側に多少の犠牲を求めても良いと思う。
	道路や街灯の無い場所の整備。
	道路整備の充実。自動車・自転車・歩行者専用の道路の区別。子どもたちが安全に通学できるまちづくりを。
	道路は車であふれている現状。歩行者に道を譲るという意識の醸成とゆとりのあるルールの制定。他都市の模範となるようなまちになればと思う。
	歩く人にやさしい道。道幅を広くしてウォーキングやランニングができれば外を歩いてみようと思う。歩道は平らで歩きやすいのが第一。やさしい道作りをしてもらい，外をゆっくり楽しんで歩きたい。
	八幡通りがゆったり歩行できて参拝が年中可能な状態に（出店の拡大）。若者がいつでも行けるような安全な町に整えてほしい。
	車，自転車，歩行者が通りやすい道路にしてほしい。
	子どもと高齢者が住みやすい安心安全なまちづくりを最優先に。
	「安心安全・犯罪の少ないまち」日本一を目指す。
	治安の良さと道徳心の高さがあると良いと思う。
	交通面の改善，公共施設（特に小中学校）の通学路の安全確保などの「安全面」が強化されてほしい。
	高齢者が横断歩道を渡りきるのに余裕のあるまちであってほしい。若い人でも小走りしなければ渡りきれないのが現状です。
	道路を広げ，自動車・自転車・歩行者の全ての人が安全に通行できるように。かつ自動車や自転車のマナー向上ができるまちにならないでしょうか。

●施策の柱 II 安全な暮らし

施策	内容
3	交通事故や犯罪が少なく，安全な暮らしのできるまち。子どもたちがのびのびと外で自由に遊ぶことのできるまち。
	車道と歩道を広げてほしい。
	防犯及び人的防犯の見直しが必要ではないか。
	居住区において交通事故が発生しやすい道路へのホームミラー設置，停止線の新設。国道・県道へ自転車専用通路の設置を希望します。
	「私の住んでいるところはきれいで治安が良いところだよ」と自慢と言えるようなまちになってほしい。

●施策の柱 III 心がつながる相互理解

施策	内容
1	挨拶も活発な町内会があるまち。
	一人ひとりが自立できるコミュニティがあるまち。
	近所付き合いが活発なまち。
	文化活動やコミュニティ活動がしやすく、人とのつながりが持てるまちづくり。
	コミュニティ施設の充実。
	自然な形で地域とのコミュニケーションが取れるまち。
	区画整理後、区域を再度見直して新しい区域で地域のまとまりができるようにしてほしい。地域の体制がまとまっていけば良い。
	のんびりした中にも粘り強さがある人柄を大切にした良好な人間関係が多く残るまちを残してほしい。
	全ての面で中途半端、平凡で埋没しそうな県庁所在地である。例えば各町内ごとに花を決め、家庭や街路に咲かせて「マリーゴールドロード」、「サルビアロード」等、華やかに彩るのはどうでしょうか。さらに中津川両側に綺麗で歩きやすい遊歩道を整備し、木陰にベンチを設置する。「喫茶店通り」、「かき氷通り」、「醤油だんごお茶餅通り」等。盛岡らしい食材も活かしてほしい。
	集合住宅が増えて地域活動が希薄化。町内会は年齢で区分されて行政にはフィットしているだろうが老若男女多種多様なニーズには非対応である。地域活動の方向性と行政の組織機能がうまくかみ合う仕組み作りに期待しています。
	訪れたいまちナンバーワンになることが目標。その上で定着人口を支える福祉や市民の自発的な活動の活性化が図られたら良い。
	地域住民が心にゆとりを持ちながら、地域活動へ参加できるようなまちづくり。
	「ゴーストタウン化」が進行しているが、新たな開発だけでなく、世代の異なる住民が触れ合いながら恒久的に住める工夫が必要。
2	転勤者やその家族が地域に溶け込みやすい取り組み。子どもが安心して遊べる場所がある。
	学校だけでなく様々なところで老若男女活動できる場所づくり。困った時に助け合えるまち。
3	地域活動が盛んなまちづくり。
	人と人との交流が盛んな思いやりにあふれたまち。
	トレンドが遅く若者向けのものが足りない。外国の方が来て住みやすい環境になればグローバルな岩手になるのでは。
	10年後の人口が心配。滝沢市への流出を懸念する。人口増加に繋がる工夫、施策展開を。
	人口増は望めない。交流人口増を期待する。
	地域交流・イベントでまちの活性化を。高齢化が一段と進む。一人暮らしや家を出たがらない人々が興味を持って他の人と交わる機会がたくさんあったら良いと思う。
	他県・市町村から転入したいと思わせるようなまちづくり。
	県外から人が集まってくるまち。

●施策の柱 III 心がつながる相互理解

施策	内容
4	

●施策の柱 IV 共に生き未来を創る教育・文化

施策	内容
1	教育環境が充実したまち。若い人の育成。
	挨拶できる人間、いじめの無い教育現場，老人を労わる心，社会活動に参加奉仕，人間形成。幼児から学生までの教育の充実。
	大学や専門学校の誘致。
	教育委員会の役割が不明。児童の大部分が学習塾に通わなければ受験についていけない。塾の費用，学校行事による学習時間の問題，指導方法，教員のサラリーマン意識等，岩手の学習能力の低さをお互い責任転嫁していないか。
	学校の体育館の屋根が錆びている。
	秋田県の教育を学んで子どもたちの学力の向上に努めてほしい。また心の成長にも役立つものがあってほしい。
	I L C 誘致も現実的になった今，世界レベルの文化教養を誇るまちづくり・ひとづくり・人材育成が必要である。
	宮沢賢治や石川啄木の世界観を感じる街並み，空間づくり。
	盛岡は考えが少し古い。堅すぎる。盛岡の名前に入る有名なものを考えて伝えてほしい。外国人講師を増やし，英語の普及を。
	学術都市として世界に発信する独自性のある教育の創造（秋田県の国際大学のような）。
	教育環境も整って子どもから大人まで知性のあふれる礼儀正しい人達が増えているようなまちづくりを。
	すべてにおいて人間を養成できる仕組みづくり。
	ずばらしい先人を輩出した土壌を活かしたまちづくり。
	中学校給食導入。
	治安の良さと道徳心の高さがあって良いと思う。
	子どもの教育環境の充実を図ってほしい（学校の施設や人的な環境が他市町村に比べ，遅れている）。未来の人材教育のために，言葉の教室などの特別支援の体制，子どものカウンセリング，プールや校舎整備，教育にもっと予算をかけてほしい。
	今後の盛岡を培う子どもたちに夢を与えること。
	義務教育の充実，教育予算の拡充。
	盛岡独特の小中学校の教育システムを作り，学力の向上を目指すまち。
	子どもが少ない今，子どもをターゲットとする施設や場所を作るべき。学力は秋田を見習うべき。子どもの前にまず教師の育成，昔のように岩教組を恐れてはいけない。
	子どもたちが安心して自分の才能や個性を発揮できる環境を整える。行政・学校・地域・家庭が共通の視点を持ちつつそれぞれの立場から子どもたちを見守り支えていける場となしてほしい。行政や教育現場にもっと市民を活用しても良いのではないかな。
	子どもたちの学力向上を目指し教育に力を入れてほしい。学力やスポーツで有名になると他県からの子どもたちが集まり活気のあるまちになると思う。
	豊かな人材の育成，担い手の確保がとても大切。子どもたちのためには学力向上，そのための教育改革。また学力だけではなく人間として大切な道徳心を養うための教育も必要。まずは「人ありき」。学力向上と道徳心を養うための教育改革をお願いしたい。

●施策の柱 IV 共に生き未来を創る教育・文化

施策	内容
1	情操教育が行き届いた人情味あふれるまち。
	幼小中高大がバランスよく配置された教育。環境が整ったまち。
	秋田県のように子どもたちの学力が高い都市であってほしい。特徴ある教育，専門性に注力した個性ある学校づくりで魅力ある都市に。
	今だから復興に向け，子どもたちには色々な活動が必要。本の読み聞かせを伝えたい。読み聞かせが子育ての全てではないが，一つとして盛岡のまちづくりに繋げていきたい。次世代へのベースになれば。将来は夢の街・ファンタジーの街に。子どもたちに「夢」を。
2	老人が沢山集う高松の図書館はせめて今の三倍くらいに建て増ししてほしい。
	生涯活動を行う上でもっと活動の場所を作ってもらいたい。学校の土日開放，トレーニング設備を作り，高齢者が使いやすい場所を多くしてほしい。
	定年退職した途端に「老化ショック」とならないための生きがい作り（生涯学習，生涯スポーツ，ボランティア）の推進。
	市立図書館を含む市の文化，体育施設の立地の再検討が必要。
	人口に比して多くの作家を輩出してきた盛岡の風土を守るためにも，書店の保護や公立図書館の充実等，子どもから大人まで本に親しむことのできるような施策があればいいと思う。コンビニやスーパーマーケットと連動してコミック本より小説や実用書，ベストセラーを取り扱ってもらえることも考えられると思う。
	子どもの才能を引き出せるまち。興味があることを自ら進んで取り組むきっかけ，機会の充実。子ども科学館の展示イベントの充実。子ども向け美術館や職業体験など。
3	「岩手大シニアカレッジ」の小型版「盛岡の町を知ろう学びましょう」などのものがあれば良い。市内外の人が学習する機会を設けるのも一つの案になると思う。まちづくり市民議会の委員の方々を中心に，長い年月に亘り開催される事を期待したいものです。盛岡のまちを知り，学んだ上に良いアイディアが浮かんできそうな気がします。
	若い世代の見本となるようなスポーツが活発なまち。そのための環境が整っているまち。
	アイスアリーナを中心に大きい大会が開ける宿泊施設と体育館の建設。
	盛岡市立病院周辺に野球場やサッカー場があれば県外からの人も来るし，賑わう。
3	子どもが雨天時に遊べる場所がほしい。自由に泳げるプールの建設。子どもたちが手軽に使えるスポーツ施設の整備。
	もっと岩手の「スポーツ力」を発揮するためにも指導者にお金をつぎ込んでほしい。折角都会で学んできても，バイトしながらの指導であつたりと生活がままならない。岩手国体のためだけではなく，今後の発展のためにスポーツ指導者に愛の手を。
	子どもの教育やスポーツが充実し，心身共にしっかりした子どもたちになってほしい。
	誰でも気軽にスポーツや文化活動に触れ合えるまち。
	小中高生が安心してスポーツに取り組める環境作りをしてほしい。勉学も教育だがスポーツも人間を成長させる上でかせない教育です。
	サイクリングロードが充実しているのでサイクリングを通じたコミュニケーションと観光と文化が盛んなまち。
	病気にかかりにくい体を作るスポーツ活動の充実しているまち。
	市営球場を新しくしてほしい。

●施策の柱 IV 共に生き未来を創る教育・文化

施策	内容
3	プロスポーツをより支援することで県内外から集客できるようになってほしい。市民が熱中できるものが足りない。
	大規模な施設は不要だが、各スポーツ施設の充実に力を入れてほしい。
	スポーツの指導に当たる人の育成。信頼できる人に指導に当たってほしい。先生たちがぐったり疲れ、スポーツ指導者は指導以外に仕事をしなければならないのはいいかと思う。予算を使ってほしい。
	スポーツ施設の充実。岩手県にはドーム球場がない。貧弱すぎる。
4	文化活動やコミュニティ活動がしやすく、人とのつながりが持てるまちづくり。
	若い世代の見本となるような芸術関係が活発なまち。そのための環境が整っているまち。
	経済で他と競争するよりも文化と自然を活用するまちづくり。
	人材の育成に力を注いでほしい。小中高校での教育ではスポーツに力を入れている印象がありますが、科学や芸術活動、文学や政治等、様々な分野に興味を持って取り組めるような教育を望みます。
	美術館と博物館が遠く離れており公共の連絡が不便。歴史文化が息づくまちになれるよう交通網を充実してほしい。
5	盛岡は歴史の色づく美的感覚の素敵な場所。美術館や博物館をもう少し有意義に活用し、映像等を使って参加型にしてみてもどうか。とにかく見るだけでなく自分でも参加して楽しめるようにしてほしい。
	盛岡城は建設せず、今のままの美しい石垣を眺めていたい。
	岩手公園を中心に街並みを美しく整える。南部利祥公の銅像を台座だけにおかない。
	城跡公園は貴重な資産。「食」や「伝統文化」をアピールする会場として更に活用すべき。
	志波城跡を軸とする盛岡市の歴史や文化遺産を発掘、顕彰するとともに、価値を理解し、継承する活動を推進していく。また、原敬をはじめとする先人の偉業に触れ、学ぶ事業を市関係団体や地域が一体的になって展開し、歴史・文化が息づく新しい盛岡市を国内外に発信していきたい。このような取り組みによって北東北の拠点都市として多くの人々が訪れるまちになっていくと思う。
	文化財保護の基本姿勢の確立。
	都会になっていくことを一概に悪いとは言えないが、盛岡の古くからのしきたり、伝統、文化は残していかなければならない。うまい具合に調和が取れて発展していくことを望みます。古さと新しさがうまく噛み合うまちづくり（歴史や伝統芸能の保存）。
	豊かな自然環境で歴史や伝統が引き継がれ、いつまでも安心して住み続けていたいまちであればいい。

●施策の柱 V 活力ある産業の振興

施策	内容
1	空き店舗撲滅，第一次産業のPR。
	恵まれた四季の自然，豊かな水，新鮮な農産物等を全国に発信し，観光に力を入れる。
	観光客の休息，トイレのために（特に盛岡市内には大型バスで来る方の休憩場所がない），東北インターチェンジに通じる国道に道の駅を造る。盛岡市近郊の農産物の販売とその他県内の農産物の販売。市内外の観光案内紹介所。イベントを行い様々な都市との交流で活発なまちづくりができる。
	荒れた田畑や森林を市民の力（高齢者の力）を結集して美しい里山に。
	安全安心な食材と有効な土地利用，周辺自治体との更なる連携。
	若い人たちのカッコ良い農業を期待しています。
2	スタンフォード大学，シリコンバレーのような創造的社会，起業家が育つまちを目指してほしい。
	記念館や手作り村の交通の便が悪い。もっと人が多く行けるように配慮してほしい。
	伝統工芸品が飲食店で使用され，自然と生活の中にあるものになってほしい。
	若い世代が夢を持って地元で活躍したいと思えるような環境や制度の整ったまち。若者の就職や起業をサポートしてほしいです。
3	盛岡を知ってもらえるアピールポイントがほしい。盛岡にしかない商店など街全体が活性化する目玉の建物がほしい。
	これという産業も無いまちなので，生活環境を整えるなどして現在盛岡に住んでいる人が流出しないよう活性化させる。若い人達も大通に行くようなまちにする。
	人間として相互協力で達成する産業活動。数箇所に集中するまちづくりではなく，全体が充実できるまち。
	若者が元気で頑張れるように商業・経済の活発化に力を入れてほしい。
	県外の企業（東急ハンズ等）を大通に展開し，一緒に盛り上がっていければ若い人の交流スポットに。昼間も楽しめるまちになるはず。
	盛南開発により中心街はシャッター街に。ビルや駐車場だけが増え，人の流れが戻らず，高齢者ばかりがおいてけぼりになってしまった。必要な店舗も遠く，車を使えない者はどうしたらいいのでしょうか。
	大通りが活気づいている（いろんな世代の人が集まる）まち。
	中心部は特別な用件がないと行く機会が無い。仕事，金，遊ぶ場所が無い盛岡になっている。商業，経済で東北ナンバー1を目指して，地元で頑張る若者を応援していくことが今後盛岡の生き残る道だと思う。
	経済が活発でなければ何も守れない。
	中心部に居住しているならマイカーに頼らない生活環境を望む。現状は市中心部なのに日常生活用品の購入には郊外に行かなければならず，老後，都市部に居住するメリットが分からなくなってきている。
	中心市街地の活性化，にぎわいのあるまち。中心地の商店街は土日も人通りが少なく淋しく感じる（特に河南方面）。徒歩，自転車に出掛けられ楽しく買い物ができるまちであってほしい。
	中心部の活性化を。「買い物といえば大通」といわれるようなまちづくりを。盛岡城跡～盛岡駅までを城下町風にする。

●施策の柱 V 活力ある産業の振興

施策	内容
3	独自の特色がアピールできるような違いのわかる商店街づくり。一箇所に集中しないようなまちづくり。
	シャッター街を利用して盛岡ならではの店を入れる。大通りがカラオケ，居酒屋ばかり。学生や若い人が集まって遊べるような店を増やす。大通りから活気あふれるまちづくり。
	大学・専門学校の卒業生が1割2割でも「残って暮らして生きたい」と定住したくなる店舗や施設の建設。中央通の空き物件の利用。
	特徴の無いまちづくりをするのではなく，盛岡ならではのまちづくりを市民が協力し合い，農・工・商が共に発展していったほしい。
	保健・福祉・医療・教育が充実した都市であるためには経済活動が活発であり続ける必要がある。2050年には人口減少が予想される。そのことから行政サービスを支えてゆくための地域の生産力が大いに低下することが避けられない。盛岡は都市としての生産力を発展させる政策を今から進めておかなければならない。
	大通全体は古いイメージ。清潔感が無い。バスセンターが汚い。
	「〇〇なまち」は強い経済活動があって初めて可能なものになると思う。地方や個人の自立のためにも質の高い（賃金の高い）雇用が提供できる，小粒であっても国際的な競争力を持つ企業があってほしい。
	複合商業施設の乱立によって個人経営の店舗等が年々減少してしまっている。それに伴い，盛岡の昔の街並みが失われているように感じる。両者が共存できる都市となることが理想的である。
	盛南開発が行われ，新しい住宅地や商業施設が整備されつつあり，活気に満ちているように思われるが，旧市街地は衰退している。財源難，人口縮小を直視し，これ以上の新規開発はやめ，旧市街地の再活性化，再開発を図るべき。
	盛南開発による郊外的大型店に車を運転する世代は集中し，中心市街地は車の運転が出来ない高齢者で賑わっている。街路の整備も徐々に進み街並も美しくなり散策して楽しむ環境が整ってきてうれしい。
	北東北三県の中心商業都市として観光産業とセットで将来像を描いていくべき。そうすると中心市街地も再生するのではないか。
	仙台「E D E N」のような施設建設，アウトレットモール，市道の拡幅と整備・既存施設の有効活用。
	商店街の営業時間を長くする。店の閉店が早い（特にファッション関係）。
	駅前，大通り，バスセンターをにぎやかに。昭和50年頃の大通りになってほしい。
	経済福祉全ての抜本的改革が必要。
	大通り，肴町のショッピングモール，若者の娯楽施設（パチンコ以外）など。飲食店以外の施設で活性化してほしい。
	街中に活気が感じられなくなっている。現状都市としても観光地としても中途半端。中心地である大通り商店街を飲食店だけの通りから魅力ある販売店や独自の個性あふれるメインストリートに変革させていただきたい。
	コンパクトなまちづくりを指向し，中心市街地の商店街が活力を維持できる環境を作り出すべき。中心市街地の地価が低下すると固定資産税の税収減により市の財政に影響が生じられると思われる。

●施策の柱 V 活力ある産業の振興

施策	内容
3	中心商店街の活性化。そこを取り囲むまちにも商業の流通があり，その中に老人ホームをつくる。
	大通りを中心とした商業地域の再構築・観光客を誘致。お金を落とす人が増えれば人口も増える。
	郊外の大型ショッピングセンターと共存できる中心地に商店街があること。
	都市化しすぎないまちであってほしい。あまり有効とは思えない道路整備などにより，地域住民の昔からの商業エリアの生活や商売を壊さないでほしい。
	「商業流通，経済活動が活発なまち」実現のためには，人口の集中が望まれる。そのためには住みよい環境づくりとして「保健，福祉，医療が充実した地域で支え合うまち」，「生活環境が整った快適なまち」，「再生可能エネルギーを活用した地球に優しいまち」，「災害に強く，安全に安心して暮らせるまち」，「子育て支援が充実したまち」等が付随してくるだろう。
	公共交通の充実により中心市街地への自家用車乗り入れ禁止。
	人通りのある活気溢れる賑やかなまち。中心を流れる川なのに透明で秋には鮭が遡上してくる川。橋の上から眺める光景をずっと残していきたい。
	バス便の良い中心市街地に岩山遊園地，ミニディズニー等のイベント，買い物や学べる場の整備。
	仙台のようにアーケードを歩いているうちに目的地に着いてしまうような流れのある商店街がほしい。ウインドウショッピングができるような，時折立ち寄ることができる街があると良い。
4	経済が安定したまち。特に地元産業が商売しやすいまち。大通や肴町，駅前などを一体化したまちにしてほしい。岩手公園に城がほしい。
	さんさ踊り，わんこそば等，盛岡にしかないものを大切に。
	誰にでも（住民，観光客）やさしく安心して住めるまち。
	観光を盛んにし，経済を発展させた上でその他の政策を進めていただきたい。
	南部曲家風の商店街（角館），秘境浅岸駅までの周辺の観光路線の整備。
	一度盛岡を訪れて過ごしていただくこと。北東北の窓口としての盛岡の将来に期待。
	コンベンションセンターの機能充実，他の地方に無い特色を。
	他県に習い，盛岡城跡公園に築城して観光客を誘致，物産展を開く等，盛んなまちづくりを提案する。
	多様なメニュー展開のあるツアー。まず足を運んでもらい，次に貴重な体験をしてもらう。
	岩手のもの，盛岡のものを取り入れつつ，市民の楽しい活動が沢山あって，毎年恒例のイベントが開催されるような街であってほしい。大人が自分の好きなことを自由にマニアックに楽しんでいると良いなと思う。まじめで保守的で。だけどこっそり素敵なものを抱えているのが盛岡だと思います。
	雫石川岸遊歩道は観光資源になると思う。
	10年後高齢化は進むが今以上の活気ある盛岡に。観光地をもっと全国にPRしてたくさんの人が訪れるように。

●施策の柱 V 活力ある産業の振興

施策	内容
4	盛南開発は成果を上げたので次は盛岡以北の開発，交通網の整備を図るべき。小本街道の整備。観光路線ができて，盛岡が物流観光の拠点になり得る。
	盛岡の三川（雫石川・中津川・北上川）をPRし，観光の集客の目玉にしていきたい。
	盛岡の自然と歴史に魅せられて観光客が沢山訪れ，地元の方と気軽に話の出来るまちになればと思う。他県では退職した方がボランティアでまちの観光と歴史について説明しているところがある。盛岡もそうなれば良いと思う。
	歴史的建造物をもっと活かした街並みづくり，観光客の誘致を図る。一般家屋や商店の紹介MAPをHPにあげ，看板や地図を表示する事でブームになりかけている昭和マニアを呼び込める。
	橋毎の欄干に南部鉄瓶や木材を利用。岩山展望台の整備，観光客をもてなす。
	サイクリングロードが充実しているのでサイクリングを通じたコミュニケーションと観光と文化が盛んなまち。
	北上川を利用し，観光船で街並みをみるようなまちづくり。
	大きな工場や会社を誘致する事も必須だが県外国外の観光客を呼び，お金を落とさせていただく（外貨を稼ぐ）必要がある。幸い岩手は観光地が多いので中心として盛岡を考え，交通網やグルメなど組合わせて考えていく必要がある
	観光スポットを整備し，まちを活性化させる。
	玉山方面もトイレ整備をして海外のお客様にも通用する観光地の整備をお願いします。
	沢山の観光客が気軽に訪れるまち。盛岡在住の私たちも沢山の場所に足を運ぶこと。イベントは行われているがTVで観て知る事が多い。事前情報がもっとほしい。
	市内を流れる川を利用した新しい産業。例えば子どもたちの川遊び場所（自然観察）や船を利用した遊覧レストランカフェ，ボート場や浮島・観光客用の自転車設置。
	観光地，名所はあるがそれに付随したもの（店，体験できる所）がないのでリピーターに繋がらない。名所だけでは一度で済みです。またその場所に行こうと思う名所が少ないと他県の人に言われました。ワクワクするときめきがない。
	県内外，特に遠方からの観光客に祭りに参加してもらいたい。
	盛岡（岩手）のPRとして，さんさ踊りを夏だけでなく，駅前やイベント会場等で日時を限定して一年を通じて行ってはどうか。太鼓の音を聞くと市民の元気が出ると思う。
	開運橋の兩岸に柳をたくさん植樹する。観光客の旅心を満足させる。
	「食」の充実。沢山の地産品をブランド化。新旧どちらも大切に大事な文化なので共生できるようなプランが必要。
	商業活動を活発にし，流通・観光のまちとしても息づくまちづくりを目指してほしい。
	伝統的な祭りを絶やさないでほしい。盛岡さんさ踊りは各地域で町内会ごとにやっていた。小さい頃は太鼓の音を聞くとぞくぞくしたものです。ずっと続けていって盛り上げてほしい。
	駅から八幡宮まで徒歩30分ほどで収まるコンパクトな街並みは観光にはうってつけ。冬が長い地方都市なので冬の街中のイベントがもう少し盛んでも良い。観光PRも冬期間の楽しさに特化し，「小岩井の雪像だけじゃないぞ」とお遊び要素があると住民一丸で応援できます。

●施策の柱 V 活力ある産業の振興

施策	内容
4	「盛岡市にはこれがある」「これがお勧め」だと自信を持って市内外の人に言うことのできる観光の目玉となるものが必要。
	盛岡市は文化的資源が多いが活かし切れていない。この街にきたらまるごと楽しめると思わせるものがほしい。例) 通り毎にテーマ付けする(材木町は伝統物産に出会える通り, 大通りは集いの通り(若者), 肴町は大正ロマンの通り)。レトロな喫茶店が多いので喫茶店巡りツアーや遡上する鮭を見るツアー等, いいところをもっとアピールしたい。市内に分かりやすい看板を設置する。
	自然環境や文化・歴史を生かし, 郷土愛を育むようにしたい。不來方城を復元して岩手山眺望を観光客にも楽しめるようにする。盛岡では声を掛けても反応が少ない。表の明るい対応や表情に配慮が欠けているので観光面でも危惧する。例として, ある高齢者利用施設では受付で詰問調に対応される。一度や二度ではない。市民カード無効の所も多い。疑問に思う。他所でも「おもてなし無し」の無神経が目立つ。関係者は猛省してほしい。
	お祭りや行事が多すぎる。力やお金が分散されると聞くので充実するよう援助してほしい。
	盛岡山車に力を入れてほしい。市民の目は冷ややかで市民と参加者の温度差は年々広がり, このままでは消えてしまう。花巻祭りのように市民から理解を得られるように改善が必要。各組の運行を分かるようにし, 交通渋滞を緩和させてほしい。山車がこないのに寄付ばかりくると思われている。さんさ踊りのように盛り上げてほしい。
	盛岡といえば城下町。川と橋, そして岩手山の景色を今まで以上に市民が誇りに思えるようなアート型のイベントがあればよい。子どもたちや若い方々も個性を尊重される美術やものづくりから入ることができれば住んでいるまちに愛着が湧くのでは。イベントで活性化につながれば面白いまちになると思う。
5	働く場の多い盛岡にすること。そのための企業誘致, 起業家の育成に具体的に取り組む。
	お金が澱みなく回転, 流通するまち。
	建設業があるまちであってほしい。
	最近地元商店が減少し, 他県からの大型店が増加してきている。何とか地元企業や商店が元気になって若者の雇用機会を作ってもらいたい。購買力を高めることでまちの活性化に繋がってほしい。
	若い人が働きやすい, 離れるのが嫌になるくらいの充実した環境。
	盛南開発により市中心部が衰退していくのは確実なので, 若者の流出を防ぐため, 中心部に働く場所を作ることが大事。商業の振興, 企業誘致などが必要。
	地場産業の育成。若者が安心して働けるまち。若者たちの正社員への道づくり。
	松園地区は玉山地区を含め周辺に工場の誘致を進め, 人口増を図る必要がある。
	就職率を高めるため, 企業の発展を願う。
	若者が定着できる企業誘致, 育成。玉山地区に大規模な工業団地を造成し, 誘致する。
	雇用が多く失業率が低いまち。正規雇用求人が増えるように。
	市民が元気で働き, 活動できるまちづくりが必要。それには経済面はもちろんだが一人ひとりの人間が優しい気持ちになれる人間作り(しつけや社会の当たり前の事柄)も大事だと思う。今大切な事は働きたい人に働きたい場所(自分にあった場所)がきちんとあるということ。経済的に豊かにならないと人も豊かにならない。

●施策の柱 V 活力ある産業の振興

施策	内容
5	若者が流出しないまち。例え流出したとしてもやがて戻ってくるような愛され続けるまち。仕事があるかどうか、刺激あるまちを作らないといけない。お金が回ればその他は自然についてくる。
	現在青少年の職が無く市民が苦しんでいる。雇用の問題を重視してほしい。
	仕事が無い人が無く、皆が仕事し、納税していくようなまちづくりをしてほしい。
	若者の都市への集中を防止するための対策がなされているまち（優れた人材の確保、魅力あるまちづくり）。
	若い人に契約社員や臨時社員、パートアルバイトなどの不安定な仕事は無くしてほしい。結婚しても安心して子育てが可能な将来も安心な世の中に。切に願います。
	中小企業で女性が長期働くことができる環境を整えてほしい。
	今の盛岡は安心して働けるシステムが不足している。少子高齢化が進む今こそ子育てや介護を担っている世代が安心して働けるように環境を整えなければ理想のまちになる前に破綻すると思います。
	若者が働けるまちを目指してほしい。しっかり働き、収入があれば結婚・子育てなどの先を考える余裕が持てるはず。
	若者が県外に仕事を求め、出ていってしまっている状況。経済活動が活発なまちなら若い人が安心して働き、その子どももこの土地に愛着が芽生える。年配者との調和も取れたまちになると思う。
	脱工業化社会における余暇、労働の推進。
	働く場所があり、物価が安く、安心安全で人が優しいまちが理想の盛岡です。
	企業誘致などで工場が増え、若者が働く場所を確保でき、保育料が安く、子育てしながら安心して働けるまち。
	後継者を作り、若者達の働く場所がほしい。若者の老後はどうなるのか不安になります。
	生活を安定させるために様々な雇用体制を取り入れる。
	若者が正社員として働けるような雇用（保障重視）。
	大きな経済活動が減少している。現状打破のためにも工場等の企業誘致が急務。盛岡インター周辺の企業、工業団地の造成による税収増、人数増による商業活動のアップ等が期待できる。
	若者に労働の場が与えられ、盛岡で育ち、盛岡で安心して暮らせる都市づくりを行ってほしい。仕事があり、雰囲気が明るい（特に若い世代）まちに。
	パート・アルバイトの仕事を増やしてほしい。
	製造業を中心とした産業の誘致に力を入れ、市民の収入向上に努めてほしい。それによって永住者が増加し税収も上がり、豊かな都市を目指す。

●施策の柱 VI 環境との共生

施策	内容
1	ゴミ置き場の整備（小屋等の設置）。
	ゴミが落ちていない街並みづくり。
	市内全てポイ捨て禁止。全国一の「きれいなまち」をキャッチフレーズにして全国に発信。青少年の教育にも効果大だと思う。
	生活ゴミの収集日、分別の市民遵守が徹底されたまちづくり。
	アパートメーカーが整地して作る住居などにゴミ集積所の設置を義務付けする。
	公的な市民霊園の構想、検討。例えば自然墓地公園など、死後の安らかさを望む。
	ゴミのリサイクル率の向上。街中でゴミを見かけない美しいまちづくり。
	空き地、道路脇や草むらのゴミの撤去。市民全員でもっと高い意識を持ち、綺麗な盛岡市作りに徹する。
	新築ラッシュにより新しい住民が増えてきたが、個人情報等により氏名が分からないため、町内会名簿も作成できない。ゴミ集積場は使用するが清掃には参加しない。町内会行事も同様。そこで提案だが、不動産屋が管理する集合住宅には世帯数を問わず、必ずゴミ集積場を設け管理する。不動産屋が責任をもってごみ収集会社と契約し、処理するよう条例を制定することを提案する。
	野焼きの禁止を通しての環境づくり。
	同じ盛岡市でもゴミの出し方が違う。妊婦のときはとても大変な思いをした。この生ごみの出し方が苦痛で盛岡市を離れた方もいる。同じ税金を支払っているのに市全体で同じルールでないと納得できない。住みよいまちを目指して改善してほしい。
2	ゴミ集積所の充実。カラス対策として金網で囲う。今のうちにしっかり対策しておかないとカラスに襲われて怪我をする人が続出します。
	愛犬家から「犬税」をとる。犬のおしっこやふんの置き去りに大変嫌な思いをしている。税金を取ってその財源で人を雇用して、啓発活動やペットを買う人としてのマナー教室や清掃活動にそのお金を使う。
	ゴミ集積所からの不用品の持ち出し可能の実現（ドイツを参考に）。カセットボンベの穴あけをやめてほしい。
	生活圏の中に自然が共存し、歴史的建造物も多く、一度訪れた方が再び訪れたくなるまちづくり。
	空気が澄んでいるまち。
	緑が多く景観も豊かなまち。木々も大事に管理してほしい。
	歴史・文化が息づき、自然に包まれて暮らし、若者が夢を実現できるような都市づくりを考える。
	自然が豊かなので皆がホッとする雰囲気のあるまちであってほしい。温故知新のもと、皆が安全で支え合って暮らせるまち。
	経済で他と競争するよりも文化と自然を活用するまちづくり。
	恵まれた四季の自然、豊かな水、新鮮な農産物等を全国に発信し観光に力を入れる。
	自然環境の保全とその為の環境教育が充実しているまち。
	岩手山がどこからでも見られる。鮭が遡上するきれいな川。これからもずっと守っていかたいと思う。

●施策の柱 VI 環境との共生

施策	内容
2	自然とまちが共存しあう今の環境を維持する。
	山，川，自然をPRする。
	多くの人々にその良さをアピールするには近い将来のよき展望の提示が必要。いわゆる都会化を目指すことも大事だが，自然をどのように残していくかも大事。
	県庁所在地でありながら中津川のような自然な場所が10年後も残ってほしい。自然豊かな中津川が市の中心にあるのは財産だと思う。そんな風景が10年後も残っていてほしい。
	自然を大切にしたい活気あるまち。
	盛岡は自然環境がとても良い。それを第一に考え盛岡のまちづくりをしてほしい。現代は人々の心が休まることなくいろいろな開発が次から次へと行われ，利便性だけにとらわれすぎていると思う。
	岩手の中でも中心地に位置しているので都会感と自然感があるまちになってほしい。
	盛岡は水もきれいで住みやすい。この自然環境のよさが永遠に続けば良い。
	自然との調和を大切にしたいまちづくり。
	中心を流れる川なのに透明で秋には鮭が遡上してくる川。橋の上から眺める光景をずっと残していきたい。
	自然があり子どもや高齢者の方々が住みやすいまちづくりをしてほしい。盛岡は四季が感じられて良いまちと言われることが多いので，その中で住みやすい環境づくりをしてほしいです。
	豊かな自然環境で歴史や伝統が引き継がれいつまでも安心して住み続けていきたいまちであればいい。
	緑ある遊歩道があって歩きたくなるまちになってほしい。河川敷の有効活用を考えてほしい。
3	都会の人が「盛岡に感動」すること。街中にごみがない，中津川にて底が見える，せせらぎの音，鮭，白鳥等の野鳥，街中に緑が多い，岩手山等の山，親切な人柄…これらは，実際に耳にしたことです。地元の人間にとっては当たり前にあるもの，大切な場所が宝物だということ，いつまでも「素敵な田舎」であり続けるのが理想です。経済の発展と両立できたら最高です。
	盛岡，岩手は広大な土地がある。再生エネルギーの模範となる都市に。
	再生可能エネルギーの普及。再生可能な循環型社会を目指してほしい。
	豊かな川を利用した小中発電設備の整備。
	盛南開発反対。使われずに放置された街中の建物は放っておいて手付かずの山を切り出し始める。どんどん「壊す方向」にばかり向かっている。便利になればなるほど環境は悪化していく。もっと大きな視点で地球環境全体を考えて決めてほしい。今ある中でまちを整備してほしい。
	3.11以来子どもの将来について考える。娘に「盛岡に住み続けたい」と思うまちであってほしいと思う。ただ自然災害には敵わないので放射線量はどうしても気になる。確かな情報と対策が知りたい。
	コンクリートジャングルになるのは嫌。昔のように自然と共存しながら生活し，四季折々を感じるまちづくり。それが「再生可能エネルギーを活用した地球にやさしいまち」，「災害に強く，安全に安心して暮らせるまち」にはまるのでは。

●施策の柱 VI 環境との共生

施策	内容
3	電気自動車保有率日本一の環境にやさしいまち。
	公害を減らすため、電気自動車の普及を希望します。
	太陽光エネルギーなどを活用してはどうか（10年後）。太陽光で明るいまちに。
	盛岡は晴れの日が多いので太陽光発電や風力、水力発電と小型の発電ができる環境にあると思われる。小型発電を活用したまちづくりをしてほしいと思う。
	温泉が多いので地熱エネルギーで24時間多くの発電ができるように環境を整え、海外からも注目される最新地熱発電テクノロジーで安全に暮らせる日本全国のお手本になるような都市となってほしい。衣食住の環境が良いと雪国でも生涯住みたいと思える最高のまちになると思う。
	工場や発熱廃熱による地域暖房，地中熱活用による使用エネルギー量の削減を行うまち。

●施策の柱 VII 快適な都市機能

施策	内容
1	人口減少を考え、まちをコンパクトに設計しなおす。 自宅周辺にはスーパーやコンビニが乱立。一部の地域に集中せず、調和がとれていてほしい。 盛岡駅から杜の大橋に向かい、トンネルを抜けて目の前にパチンコ屋が広がるのはガッカリ。市で規制してほしい。 （大きな映画館の進出を市長が拒否した様に）大型店進出を拒否する考え方は若い人には魅力が少ない都市にうつる。商工会は何でも反対するが、人が集まれば小売店に訪れる人も増加すると思う。また、盛岡駅西口に百貨店等の集客施設がほしい。 盛岡は都会と田舎が混在しているコンパクトシティの模範。ただ郊外はどこにでもある風景に変化していつている。もっと私たち市民の意見を聞くべき。行政が小難しいことを言っているがまちを形成するのは私たち市民だ。小さな声をもっと掬い上げてほしい。これからの盛岡は老後は活き活き健やかに過ごせるまちになってほしい。幸福に第二の人生を送れる環境がハード、ソフトの両面で充実してほしい。 北海道伊達町のようなコンパクトシティ。盛岡中心・バスセンター・駅周辺に医療施設をまとめる。 コンパクトシティなど機能や施設を集約させてもよいと思う。 盛南開発の一方、中心市街地や北部は取り残されている。人口がこれから増加することはないと思うので、これ以上広げる必要はないと思う。コンパクトに、もともとの街や住宅地を活性化させる方向の取り組みもしてほしい。 これからの人口減少時代を考えると、これ以上市街地の拡大をすべきではない。医療費、福祉予算の増加が見込まれる中、道路や上下水道のインフラの維持にかかる予算を抑制していかないと自治体の財政が持たなくなるのは明白。 有効な土地利用の推進。 若者が住みやすいまち。都市の人気百貨店の進出、コンパクトシティ、テレビの深夜放送の充実、交通網の充実。 中心市街地を活性化し、郊外は緑豊かなコンパクトシティが理想です。市街地で気になるのは空き家です。本町にも空き家が多数あり、景観や防犯上問題だと思います。行政でなんとかできないでしょうか。 マンション建設を市街地にこれ以上許可してはならない。コミュニティが集中する拠点づくり（医大跡地）。
2	市民としては「盛岡に来るとホッとすると」思ってもらえるような街並み、景観、おもてなしの心にあふれるまち。 昔のものを大事に。歴史的な建造物だけでなく、昔から愛されてきた盛岡らしい建物、大樹、中津川河畔の忘れな草やかきつばたの群落。一度失われたら戻りません。 北上川・岩手山等の景観を壊さない色の調和（ビルの概観の色、建物の色の規制）。 盛岡市は金沢や奈良に並び建造物や寺院が多い。そういうことをPRしていくべき。映画館通りは全国的に見てもかなり珍しい。 古い建築物の補修費を増やしてほしい。市はもっと建物に責任を。 生活圏の中に自然が共存し、歴史的建造物も多く、一度訪れた方が再び訪れたいくなるまちづくり。

●施策の柱 VII 快適な都市機能

施策	内容
2	歴史に根ざした落ち着いたある「まちにただで癒される盛岡」にしてほしい。決して進歩を否定するのではなく進歩と歴史がしっかり調和し、歴史を発信できる「大人のまち」にしてほしい。
	盛岡城跡～盛岡駅までを城下町風にする。
	商業施設（岩手医大を含む）の郊外への新築移転に伴い、空洞化がより進む。古い街並みを整える。
	紺屋町、鉦屋町等、昔からあるまちを大切に。若い人も興味を持っている。
	高層マンションが景観を考えずに建っていくように思われる。
	電柱を地中に埋める。建物の看板・広告の規制。
	歴史的建造物をもっと活かした街並みづくり、観光客の誘致を図る。一般家屋や商店の紹介MAPとHPにあげ、看板や地図を表示する事でブームになりかけている昭和マニアを呼び込める。
	盛岡駅周辺のビルの高さを決める。街並みの調和とは？大清水多賀を壊すのを黙ってみている盛岡市。古木も簡単に切りすぎているので市民の意見も聞いてほしい。
	都会の人が住んでみたいと思うまち。程よく都会で文化的。程よい田舎。シャッター街がない。世代が調和したまち。スイスの地方都市に負けないようなまち。
	今以上に緑が増えて、歴史的建造物がまとまって保存された美しい街並み。そのようなものがあれば観光客へのアピールになるのでは。
	美しいまちを残し、活気ある盛岡をつくってください。
	今ある盛岡の街並みをできるだけそのまま残していくこと。市民の生活と共にそのまま維持していけば自ずと観光客も集まってくる。
	大清水多賀のように毎回残すべきものがどこにでもある景観（マンションやショッピングセンター）に簡単に変わっていくことに違和感を感じる。
	お店が郊外化し、老人たちは余談もできない。何かしら遠慮することが多くなっています。昔の街並みが再び戻ってくることを願っている。
	しっとり落ち着いた盛岡らしい街並みが残るまち。
	これ以上のマンションは不要。盛岡のどこからも岩手山が見える、そんなまちが良い。グローバルスタンダードではなく、「盛岡スタンダード」で。
	駅周辺からマンションが林立。城下町の風情が希薄に。私の住まいも都市化が進み風景が一変してしまった。生活上は大変便利になったが、心の潤いが感じられない。子どもと年寄りが交流しながら自然に親しめるまちになってほしい。
	急坂地造成の団地の過疎化と市街地の高層マンションの林立がみられる。過疎団地の住居環境の改善と景観を保全する市街地造成の両立が望まれる。岩手公園から青い建物が邪魔をして名峰岩手山が眺められない。
	街中を流れる美しい川の景観を生かしたまちづくり。雄大な岩手山や周囲の山並みが見える川と山との調和を大切にしていきたい。
	簡単に古い建物を壊したり、道路を作るために木を切るのではなく、利用するアイデアもあると思う。整然とした街並みよりほっとするまちになると良い。大型店より対話の出来る店ができると良い。

●施策の柱 VII 快適な都市機能

施策	内容
2	医大の移転により住居や人の流れも気になります。城下町はドーナツ化現象が起こるのでは。盛岡の古きよきもの（大清水多賀の売却等）が失われていく現実がとても悲しい。
	極端な経済都市ではなくて良い。「温故知新」の精神で京都市のようなまちづくりを。
	複合商業施設の乱立によって個人経営の店舗等が年々減少してしまっている。それに伴い、盛岡の昔の街並みが失われているように感じる。両者が共存できる都市となることが理想的である。
	盛岡は老後に住みたいまちと他県の人と言う。古きよき街並みに新しいものを取り入れてほしい。
	最近の盛岡は高層マンションが建ち、自然豊かで静かな歴史を感じるまちという雰囲気が失われてきている。どこにでもあるような街と同じでは盛岡の価値がない。これ以上高い建物が作られないよう、条例を作るべき。
	本町を八幡や神子田のような趣ある通りへ。
	古い街並みや歴史を大切にしながら、新しいものを積極的に取り入れた住みやすいまちにしていきたい。
	古く格調ある建物には愛着がある。残せるものは存続していったほしいと思う。
	盛岡市は文化的資源が多いが活かし切れていない。この街にきたらまるごと楽しめると思わせるものがほしい。例）通り毎にテーマ付けする（材木町は伝統物産に出会える通り、大通りは集いの通り（若者）、肴町は大正ロマンの通り）。レトロな喫茶店が多いので喫茶店巡りツアーや遡上する鮭を見るツアー等、いいところをもっとアピールしたい。市内に分かりやすい看板を設置する。
	盛岡は高いビルが少なく、景観がとても良いことが一番の長所。これから産業が発展していてもそこは変わらないでほしい。
	都市化しすぎない街であってほしい。あまり有効とは思えない道路整備などにより地域住民や昔からの商業エリアの生活や商売を壊さないでほしい。城下町の風景は今のまがが一番すばらしい。中途半端に都会化するのは観光客等にとってもまったく魅力ないものになってしまう。
	歴史あるものが街から消えていくのがもったいない。取り返しがつかない。近代的建物は飽きる。
	地域の景観歴史に沿った建造物の保護等によりまちの魅力を高めるまち。
	景観はすばらしいが高層マンションが乱立している。だが規制を掛けられない。道路にしても街並みにしても美意識が欠如している。
	盛岡市は目玉となるポイントが少ないように思われる。「大清水多賀」の取り壊しは非常に残念。公共で保存し景観の一部として公開の対象にできなかったのか。市営駐車場の料金が安い。市街地離れのひとつの原因では。
	橋から眺める景色を守ってください。
	盛南開発で昔のまち（本町・肴町・清水町等）が消えてしまいそうです。
	盛岡といえば城下町。川と橋、そして岩手山の景色を今まで以上に市民が誇りに思えるようなアート型のイベントがあればよい。子どもたちや若い方々も個性を尊重される美術やものづくりから入ることができれば住んでいるまちに愛着が湧くのでは。イベントで活性化につながれば面白いまちになると思う。

●施策の柱 VII 快適な都市機能

施策	内容
3	雪に強いまちになる。市民税を払っている身としては雪対策に税金を使ってほしい。設備投資のためなら追加徴収があっても良いと思うほど。目に見えるように税金を使ってほしい。
	公共交通機関の充実や除雪をしっかりとして景観が冬でもよいまちに。
	盛岡駅を中心とした住み良い環境づくりと中途半端な道路づくりの解消。
	除雪は地域での支え合いも大切だが、80歳以上の為に私道でも除雪できるよう、市が協力してほしい。
	冬期に税金を注いでほしい。街並みの花壇ではなく、側溝に雪を廃棄できる仕組みなどを作してほしい。除雪する人の技術向上。
	冬季道路の除雪対策が充実したまちづくり。
	道路幅の拡張よりも冬場を考えた道路を作してほしい（4号線の愛宕下平安閣前が特に狭い、市長に歩いて体験してほしい）。
	市内の道路整備を早急に。舗装状況が悪すぎる。他県からの観光客からの評判が悪い。特に旧市街地。市民として恥ずかしい。
	道路環境の整備、本宮地区は整備されつつも他の地域について疑問に思うところもある。青森市や秋田市のような道路幅がほしい。実現していただきたい。
	道路を一方通行にし、その分駐車スペースを増加させる。
	除雪が雑。車道もでこぼこです。何より車道を除雪した雪が歩道を塞ぎ、歩くのに大変苦労する。雫石等は大変綺麗に除雪されている。高く感じる住民税を毎月支払っているのだから本宮等新しく開拓された地区より中心部の道路環境の整備に力を入れてほしい。
	道路がガタガタすぎて辛い。除雪が手ぬるい。
	毎年冬は雪が降るのが当たり前なのになぜか除雪の仕方が住民に全く優しくない。歩きにくい道、玄関先の盛り上がった雪、轍のある道。日々の生活が快適であることが重要である。もっと基本的なことにも目を向けてほしい。
	盛岡の冬は寒く歩道も凍って歩きにくい。横断歩道などはお年寄りが転倒しないかハラハラする。
	除雪車が来ないこともあり大変困っている。大きな道路の除雪方法も悪い。
	4号線沿いの歩道が狭く凸凹が多い。交差点は十字路ではなく三叉路で道に入る際に車も大変な様です。住宅の周りは袋小路が多く、災害時に大型車が通れるか心配。
	旧盛岡競馬場跡地内の市道の日も早い開通をお願いします。20年以上も前から待っている。健康のためにも歩きたいと願っており、上田堤の住民には切実なものと思われる。
	9月の大雨で道路などを隅々まで点検する必要があると思う。
	本宮地区にパチンコ店の出店はやめてほしい。風紀が悪くなる。
	高齢者は体力が無いので早目の除雪をお願いしたい。
	道路が穴だらけ。高齢者やヒールを履いた方などが歩きやすい道路になればいいと思う。除雪作業ももう少し早く取り組み、事故が無いようにしてほしい。
	舗装道路がとにかくガタガタ。10年後にはきれいになってほしい。
	冬の道路環境が弱いので冬の凍結を考えた道路づくりを。

●施策の柱 VII 快適な都市機能

施策	内容
3	道路の整備。特に歩道を広げ平坦にする。高齢者が楽に歩ける道路づくり。歩くことにより健康維持に繋がる。
	除雪が駄目、雪を取り除いた後の雪捨て場が近くにない。地域住民街，商店街，官公庁関係庁舎に面した歩道車道等を除雪する時間を決め，地域ボランティア活動として奨励し，指導に時間をかけ，盛岡を美しく安全な良いまちとして習慣付けられたら良いと思っている。
	市街地の道路，建物の老朽化が目立つ。でんでんむしが通る近辺の舗装や段差を整備してほしい。
	盛岡は除雪が下手。でこぼこで皆さんが転んで怪我をしています。青森を見習ってほしい。
	盛岡は除雪が下手。現状ただ横に寄せている。車の通りやすい除雪をお願いします（盛岡は細道が多いので特に細道の除雪を）。また，雪捨て場が色々な場所にあると助かります。
	除雪は大きな道路だけではなく，坂がある住宅地，学校の通学路等の道路もお願いしたい。高齢者の雪かきが大変。除雪の予算を増やしてしっかり行ってほしい（設備投資ができるように）。
	除雪を助けてほしい。一度苦情を入れたところ，次からもっと酷くなった。同じ地域でも家によって差があり納得いかない。身近なことが解決してこそ住みよいまちになるのではないか。
	道路の名称について，市民，観光客ともに共有できる「通り名」を積極的に表示してほしい。
	住まいに対しての補助（住宅購入の際の補助）。
4	緑化の推進。
	子どもと遊ぶ公園の整備。共働きの親が時間を有効に使える環境をたくさんつくる。
	青森市のねぶた祭り道路以上の道（ブラジルカーニバルステージ）づくり。
	子どもがおもいきり遊べる場が歩いていける範囲に全く無い。小さな公園で遊ぶとすぐ学校にクレームが。もっとのびのび遊べるまちになってほしい。
	子どもたちの遊ぶところや若者の楽しめる施設（公園）がほしい。
	他県に習い，盛岡城跡公園に築城して観光客を誘致，物産展を開き盛んなまちづくりを提案する。
	盛岡城の再建し，中を資料館に。
	緑が多く道路沿いの雑草がないまち。
	緑が多く景観も豊かなまち。木々も大事に管理してほしい。
	道路を広くし（歩く人のための道路），公園も兼ねるような街路づくり。北上川・中津川を利用した水辺公園の充実。
	花のある盛岡のまち並みをPRする。
	子どもが雨天時に遊べる場所がほしい。
	盛岡にはシンボルが無い。他の城下町のように盛岡城跡公園の一番高いところにお城（天守閣）を建設する。

●施策の柱 VII 快適な都市機能

施策	内容
4	雫石川・中津川・北上川の河川敷を綺麗に整備してもらいたい。北上市の河川敷のように広く遊べる公園・グラウンド・水遊び場・散歩コースなど建設。
	東北のどの県よりも町が雑然としている。折角作った遊歩道・街路樹も草が生い茂り、残念でならない。岩手を代表する盛岡市は観光客がまた来たくなり、気持ちよく帰れるようにすること。それが私たちに出来る復興のお手伝いになるのではないかな。
	公園が憩いの場として楽しめる状態であってほしい。ゆったりできるように。公園の池の水の浄化。鯉がいるが水の中が見えない。
	街並みに花を飾るより、公園を整備して四季折々の花々を植え、老若男女、子どもたちも集える明るく清潔な公園等を。
	イオン以外にも若者が集まるスポットがあると良いと思う。例えば中津川沿いにおしゃれなカフェや雑貨屋が並ぶ通りを作る。
	小さくても盛岡城跡にお城が建っていて資料等見学できたら良い。大人も子どもも冬でも行ける場所になってほしい（地元民は花見しかいきません）。
	玉山エリアに小児科、公園がほしい。公園も玉山エリアは少ないと思う。「大きいもの一つ」ではなく小さい子やお年寄りがお散歩で目指していける距離に公園があれば、外に出て行く機会が増えていいと思う。
	ペットを連れての交流の場を増やしてほしい。
	毎年町中のあちらこちらに花を植えたりハンギングバスケットを飾っているようだが、もっと一貫性をもたせるとかセンスのある素敵なものになるように期待したい。
	緑が丘の旧盛岡競馬場跡地を有効利用してほしい。
	子どもたちがのびのびと外で自由に遊ぶことのできるまち。
	盛岡市は公園が少ない。市民の憩いの場にもなるし、避難場所にもなる。土地問題もあるだろうがもっと増えてほしい
	開発が進む盛南地区はどんどん便利になっていますが、緑が減っていく心配もある。緑豊かなまちづくりに励んでほしい。
	公園整備も不可欠だが街路樹の落葉や整枝、樹下の除草等、細かな対応が必要。町内会や自治会頼みでは限界がある。
	盛岡市は県庁所在地なのでまち並みを良くしたほうが良い。中央通も狭い。中央分離帯に木を植えると素敵（仙台青葉通りのように）。
	街路樹の多いまち。
	盛岡城の復元に果敢に取り組んでほしい。
	公園近くの環境を整え、盛岡の食等を充実させ、人を呼び込む魅力に力を注いでほしい。
	毎年のハンギングバスケットコンクールと街中に飾られるハンギングバスケットはとても素晴らしいと思う。ただもう少し市民参加型にして皆でハンギング作りに参加、街を美しく飾ると個性のある様々なバスケットができ、素晴らしいと思う。コンクールももっと市民にPRすれば共有でき、「ハンギングバスケットのまち」になると思う。
	緑ある遊歩道があって歩きたくなるまちになってほしい。
	除草は町内会頼みではなく、市でも実施してほしい。
5	

●施策の柱 VII 快適な都市機能

施策	内容
6	
	全国でも稀な災害の少ない都市である。猛暑もひどくない。今更企業誘致するよりは全国の諸都市に比べ上記の有利な点があるのだから、地道な都市基盤の整備，高齢者が誇り高く住める制度づくり。フラワーバスケットはスタンドプレー。条件的には大都市や海外の富裕層を引き付ける魅力は揃っている。それに我々住民は気づくべき。 自転車が安全に走れるよう，自転車道路，三本柳の東側（西鹿渡）の道路を整備。 盛南開発は成果を上げたので次は盛岡以北の開発，交通網の整備を図るべき。小本街道の整備。観光路線ができて，盛岡が物流観光の拠点になり得る。 アイーナとマリオスは使いやすい施設だが自転車で行くにも遠回り。車を利用すると駐車料金が高すぎる。イベントを利用した割引券の活用。地下道が暗くイメージが悪い。
7	本宮地区だけではなく，もっと分散して人の流れを作ってほしい。松園・小鳥沢地区は魅力に欠ける。 市街地の生活環境にばらつきがあると思う。もっと全体的に見てバランスのよいまちづくりを目指してほしい。 都市機能の充実やインフラ整備を進めてほしい。 開発地区は固まらずに進めてほしい。 盛南開発が行われ，新しい住宅地や商業施設が整備されつつあり，活気に満ちているように思われるが，旧市街地の衰退は対照的・財源難になっている。人口縮小を直視し，これ以上の新規開発はやめ，旧市街地の再活性化，再開発を図るべき。 道路が広く感じられるよう，街の樹木に電線がふれないよう整備してほしい。
8	居住区において交通事故が発生しやすい道路へのホームミラー設置，停止線の新設。国道，県道へ自転車専用通路の設置。 バスの本数や最終時間を延ばしてほしい。 バスなどの公共交通を拡充。中心部から盛南地区へのバスを増設。山田線をライトレールにし，松園方面まで延伸。 東西南北にバランスよく，土地の個性を生かすまち。渋滞緩和。 交通の便が悪くバスの運賃が高い。地下鉄も無いので駅前に住む人以外は不便な生活をしている。全体的に不公平感。私の周りは10年後必ずゴースト化する。高齢者に優しいまちとは程遠い。 バス会社に援助し，バスを増設する（マイカーを使わなくても良いようにする）。 交通機関の増設（駅を増やす，地下鉄）。 本宮のバスの便が悪い。 今の盛岡は交通量が多い割に人や自転車が安心して通行できる道が少ない。安心して歩ける道路を，特に狭い道には歩道を整備してほしい。「狭いからできない」ではなく「狭いからこそ必要」だと思う。困難な場合は一方通行にする等，人と自動車が共存できるまちを作るべき。そのためには運転側に多少の犠牲を求めても良いと思う。 日戸地区の桜パークは観光客が増加している。道路の拡幅が急務ではないか。 中心部の秩序，機能美は相当のレベルに達している。オランダやドイツに見られる自転車道の整備の充実（10年後）。エコな移動手段として是非視察して参考にしてほしい。現在の大通りの専用道は段差に取られむしろ危険です。

●施策の柱 VII 快適な都市機能

施策	内容
8	岩手医大が矢巾に移るのでバス、電車の運行を活発にする。
	道路整備の充実。自動車・自転車・歩行者専用道路の区別。
	乗り合いバス、交通が便利なまちに。
	年齢を重ねるにつれ、交通の便の悪さを感じる。
	自転車のマナーが悪いので教育を。自転車通行左側の徹底。
	道路際の電柱を無くし、電線類を地下式とする（道路を広く使える）。
	電車の車両増加。ベビーカー等が邪魔にならず、他人に迷惑をかけない様なゆとりがある電車にしてほしい。
	車、自転車、歩行者が通りやすい道路にしてほしい。
	自転車がどこを通っていいかわからない箇所が多すぎる（津志田や岩大周辺）。自転車道路の整備してほしい。
	交通環境の整備された渋滞の無いまち。自転車専用道路の増設。地下鉄や地下街。
	バスや電車をsuicaやpasmo仕様に。
	市内を少し離れるとバス路線が不便。でんでんむしの様に乗り入れできるようにしてほしい。
	歩道、自転車道がきちんと分離されており、その全てに段差がないまちに。
	後期高齢者に旧市内の交通基幹（バス）のフリーパスを与えてほしい。そうすれば買い物や通院等で経済と流通にも良い結果を生むと思います。
	美術館と博物館が遠く離れており公共の連絡が不便。歴史文化が息づくまちになれるよう交通網を充実してほしい。
	盛岡駅裏のマリオスのコジマ電気に抜ける道路が怖くて自転車では通れない。旭橋を駅に向かう道路が割り込みが多く事故の元です。
	全国転勤で住みましたが10か所住んだ中で一番住み難いまちでした。観光ならともかく2度と住みたくありません。交通の不便さ、活気ないまち。ただ人だけは温かいです。
	今は車が使えらるが、自分が60代になったとき本宮方面まで行きたくても行けるのが不安（バスのエリアに不満）。今後、市街地が寂れてくればどのようにして買い物に行ったらいいのかわかる。でんでんむしのエリアを拡大してほしい。
	道路を広げ、自動車自転車歩行者の全ての人が安全に通行できるように。かつ、自動車や自転車のマナー向上ができるまちにならないでしょうか。
	富山県で導入しているライトレールなどを導入し、車に頼らなくてもよい社会を目指すことで交通弱者の方々も社会に参加しやすくなると思う。市民や観光客にとっても魅力あるものになる可能性を秘めているのではないかな。
	新しい道路や橋もできて便利になったが、バス停を増やすなど、車が無くて移動しやすいまちにしてほしい（身近なところで盛岡商工会議所前の通りに盛岡駅行きのバス停があれば、とても近くなり、乗る人も沢山いると思う）。
	十分な住民が公共交通を用いて利用するのに適した立地とは思えない。また、各施設を有機的に巡れる、繋ぐような公共交通機関の整備が必要と考える。
	歩行者や自転車利用者が楽しめるまちへ。

●施策の柱 VII 快適な都市機能

施策	内容
8	弘前のように「岩手山に直進する6車線～8車線の道路を整備，パリのようなビューポイントを整備する。
	盛岡の古い街並みを活かしつつ，周辺の便利なまちに。買い物に行けるように，バス等の利便性の向上。地下鉄整備。
	公共交通が使いやすく安価であること。現在は，バス路線の乗り換えが不便です。J R 山田線の活用を考えてほしい。
	盛岡市は城下町で道路が細く複雑で昔はかなり不便だったが，道路や橋が整備され，随分便利になった。
	自動車に頼らない公共交通（L R T，路面電車）で高齢者でも安全に出かけられるまち。
	道路（交通環境）がもっと整ったまちにしてほしい。朝（特に雨や雪の時）の渋滞をなくしてほしい。
	市営駐車場の料金が高い。市街地離れのひとつの原因では。
	少なくとも「車があまり必要でないまちづくり」を（郊外に大きな駐車場を作り，中心街とは公共交通，市営電車で結ぶ等）。
	自転車道の整備。エコや渋滞緩和といった点からも自転車道の整備は良いのではないかな。
	松園からタクシーを利用すると高速バスで仙台往復する位の料金がかかります。バスも乗り換えがあり，不便なところです。

●施策の柱 VIII 信頼される質の高い行政

施策	内容
1	財政、財源が今以上悪化しないように。無為無策の市政は長く続かない。市職員のサービス向上、市議会の質の向上、定員削減、効率化。市長は今以上の仕事を。
	駐車場完備の市庁舎の建設。
	正しく税金が使われていることを皆が納得できるまち。税金の使い方を考える。
	予算がないと言うが、市職員の給料が高すぎる。
	税金の減。住民税が安く、市職員の給料が安いまち。
	これからの人口減少時代を考えると、これ以上の市街地の拡大をすべきではない。医療費、福祉予算の増加が見込まれる中、道路や上下水道のインフラの維持にける予算を抑制していかないと自治体の財政が持たなくなるのは明白。
	新しく整備する事も大切ですが高齢化、人口減少の中では難しいと思います。今あるものも維持が難しくなるでしょう。次世代に負担を残す事はしたくないです。
2	このようなアンケート・議論から長期的視点(10～30年)をもちながら、短期的施策(1～3年)をじっくり実行してもらいたい。
	アンケートは、現在の市政の進行、中の議題と思います。総合計画策定に市民討議が必要か。税制面の質問もあったほうが良かったのでは。市政と税制が違うと思うが、生活面では切っても切れぬことだと思う。皆さんにとって平等な企画ができますように。
	中世の雰囲気を残すローデンプルグのように「盛岡」と聞いただけで特徴がイメージされ、「行ってみたい、住んでみたい」という郷愁を呼び起こさせるようなまちづくり。
	アンケートの各項目がバランス良く整い、発展していくような「まちづくり」。理想を語ることの大切さは否定しないが現状を踏まえた形でひとつひとつ課題を解決する方向で官民一体となった取組が重要であると思う。
	市政運営には将来の予測をしっかりと行っていただきたい。「今」の積み重ねが「10年後」に結びついていくと思う。
	先人に頼らない現在から未来に繋がるまちづくり。過去にしがみつき過ぎる。具体的計画段階前からの市民参画、長期計画の変更を。
3	今回のアンケートのように市民の声の反映が形となって表現できるまち。
	全国的にみてもすごいものがあるのに、PRされていないので市民でさえ知らないものがある。定着しているものは新しいPRを。
	盛岡市から計画等の策定に関する情報を今よりも早く広く出してほしい。時間はかかると思うが暮らしていく上での満足度は高くなると思う。
	交通の便、環境ともに盛岡は住みやすいまちである。もっと都会に向けアピールは必要。
	地元町内会、地域福祉団体と計画立案の段階から充分に話し合ってほしい。
	盛岡は考えが少し古い。堅すぎる。盛岡の名前が入る有名なものを考えて伝えてほしい。
	町内会、地域の充実した協働のまちづくり。
	特徴の無いまちづくりをするのではなく、盛岡ならではのまちづくりを市民が協力し合い、農・工・商が共に発展していくようになってほしい。
	市民討議会の導入(場所は交通の便の良い所。シャトルバスを出せば高齢者も参加できる)。
	城跡公園は貴重な資産。「食」や「伝統文化」をPRする会場として更に活用すべき。

●施策の柱 VIII 信頼される質の高い行政

施策	内容
3	生命を大事にする市政が忘れられていませんか。社会的弱者，高齢者が安心して暮らせるまちづくりを進めてください。市民が必要とするもの，重要なものにお金をかけるよう，市民の生の声を吸い上げてほしい。
	盛岡のまちは個性がなくその他多くの地方都市とひとくくりにされ，記憶に残らない。「みちのくの小京都」にしては道路を広げることを優先，個性を捨てる行政。「杜と水の都」なのに観光資源が少ない。「盛岡といえば〇〇」を作り多くの観光客を呼んで知名度を上げること。戦略をもっているのかわからない。
	全国にもっと「住みやすいまち」という事をアピールしてほしい。住民がそう思い，発信していける場や機会をどんどん増やさないと，住んでいる人もただそこにいる人になってしまう。実際に住んでいる市民の声が重要。その事を大切に取り上げてほしい。他の地域に住んでいたことのある人の意見も求めること。
4	
5	東北の中でも行政サービスが遅れている。
6	国の財政問題から地方は今後益々自立を求められる。
	周辺自治体との更なる連携。

●その他（市政関連、アンケートに関する意見など）

内容
無理に都会化しなくて良い。仙台や東京は遊びに行く所、盛岡は帰ってくる所。
清く正しく美しいまちづくりを。
各年代が住んでよかったと思えるまち。
短大跡地等、放置状態のままの状況にはあきれている。市と県の歩み寄りの施策が必要。先延ばしせず、一つずつ問題を前向きに解決していく事が理想のまちづくりにつながる。「予算がかかる」とよく言うが何年計画でも実行しようという決断が無いと放置されるだけ。
高校、大学の期間も子ども手当てに変わる手当てがほしい。
建設業が災害の時だけ必要とされるのはおかしい。普段から発注があって建設離れにならないようにしてほしい。
一人ひとりが幸福感や豊かな人生観を実感しつつ暮らすまちづくり。
盛岡市は8月9日の災害時の水道代と電気代を災害者の方たちに返金してほしい。
テレビ東京系列の新規放送局を開局する。
まちの中心は市役所。車社会では、働く人も利用する人も車です。市役所移動を提案します。
元々盛岡に住んでいる人が「住み続けたい」と思える、実感できることが大切。そうすれば観光客やビジネスで来県した人に伝えていくことができるし、自然に人が集まるまちになっていくと考える（福祉・医療・自然環境等の充実はそのための手段）。
職業安定所の移転。収入が無い人にとって有料駐車場は使いたくない。
市民の声を聞いたとのアリバイを作りたいだけ。そんな感想を持ったのでアンケートには答えません。
盛岡市教育委員会で安全パトロールという天下りはやめてほしい。
家賃の値下げ。物価と土地の値下げ。
岩手、日本、世界においてモデルとなるようなまちを目指すべき。
グルージャ盛岡がJリーグに加盟し、大きなスタジアムがあるまち。
盛岡市の外に対してだけでなく内側に対して色々なことに取り組み、他の市、県、国から羨ましがられるような市になってほしい。
川徳なんていない。百貨店を増やしてほしい。給料が安いのに家賃が高い。高給取りか安い給料で生活しているかが激しく別れている。
もっと市民の事を考えてくれる人が代表に立ってほしいと思う。
人間らしく生き、人間として死ぬるまち。
普段気になっていることがあります。新田町の地下道のことです。雨天晴天に関わらず常に水が滴り落ちている部分があり、いつか崩落するのではないかと不安になりながら毎日2回は通っています。市が管理している部分でなかったらごめんなさい。どこかにお知らせしたくてここに記入しました。
倫理、道德の生きている温かい日本の故郷になってほしい。
「盛岡にしかないよさ」と「生活環境のよさ」がうまく調和しているまちであってほしい。
アンケートの問は全てが大切な事です。100点でないまでも80点くらいまで確保してほしい。問の中には40点未満のものもあるように思う。

●その他（市政関連、アンケートに関する意見など）

内容
どの質問をみても金がかかることばかり。知恵はでないのか。質問の内容が漠然としすぎて答えづらい。
老後、公的な乗り物を利用する場合、バスやタクシー等一定の年齢以上の人には料金の特典はあるのでしょうか。障がいや介護の状態以外でも特典はあるのか知りたい。
盛岡に来て8年経つが、盛岡の人は異文化を受け入れるのが苦手。言い換えると「他を受け入れる事に怯えている」ような印象です。文化的な素養や新しい事象への積極的関心のある人、そして政治と行政が中心となって、今までのライフスタイルだけでなく様々なライフスタイルから「幸せ」を実感できる社会づくり、まちづくりを提案したい。
市役所辺りの並木をなくしたのは残念です。
こういったアンケートで住民の意見を聞く姿勢は非常に良いと思う。
人権団体等権利を訴える人が多いが、本来「義務」を全うして言えること。まず行政は市民に納税等の義務を全うさせる事を行ってほしい。
行政とは関係ないが、盛岡で気持ちよくタクシーに乗れたことが無い。改善を望む。
個人では手がつけられず困っている樹木の毛虫（アメリカシロヒトリ）はどんな業者に頼めばよいかわからない。
中心地だけではなく、娯楽施設を作ってほしい。今の地方の現状ではスーパーしか建設されていない。アミューズメント施設が少ないのももっと作ってほしい。
マンションの1階か地下にスーパーがあればと思う。
整骨院等の違法請求。大変な問題だと感じる。
国道から直接各住居、会社、店舗等に入るのではなく、裏通りからのみ車両の出入を規制するような条例ができればバイパスの渋滞緩和に繋がると思う。
便利さばかりを追求するのではなく特性を生かしたまちづくりを考えてはどうか。
「理想の」ではなく「らしさ」に体力をつけることではないでしょうか。
10年、20年後も「盛岡弁」が消えないでほしい。盛岡弁はとてもやわらかくてあたたかい。今後盛岡弁を話せる人がいなくならないよう対策をとり、今よりももっと日常会話で使うようになれば、観光資源としても地域のコミュニティの場でも大いに役立つのではないかと思います。
各町名がわかる表示（新旧表示）をつけてほしい（上田一丁目（旧）上田三小路）。
北東北の拠点になるはずだったが3市の中で一番人口が少ないのはなぜか。それを検証して対策を考えてほしい。
市営バスを21時過ぎでも運営してほしい。
若い力であふれるまち。若者が集うまち。
人の為に役に立つと得がある。
福祉、文化、経済の中からひとつ独特のものを。他都市と比べ顕著に秀でたものがひとつほしい。
古きを重んじたまち。情操教育が行き届いた人情味あふれるまち。
若い世代が年寄りを助け、年寄りが若い世代を助ける。
中心地のみの人の流れではなく、道ができたなら行ってみたいと思う考案が必要。例）肴町の突き当たり全国の菓子店。学生が自由に楽しく見れる地場産品（大人になって知るのではなく幼い時から望む。皆が買えない高価な品でも是非触れさせたい）。

●その他（市政関連、アンケートに関する意見など）

内容
子育て支援という言葉はよく耳にするが子どもは親が育てるもので、舐まで他人任せの現状ではまともな大人にならないと思う。国や自治体の仕事は「大変なところに少し手を貸す」ことで、お金を多く出すでも保育所を増やすでもないと思う。今の子どもの学力はかなり低い教育費は多くかけているから生活が大変なのだろう。学校で勉強させても同程度の学力だから無駄に教育費がかかっていることになる。子ども手当などは本当に必要か。盛岡市も財政は厳しいのだから何に使うかよく検討して賢い運営のできるまちになってほしい。
守りに入っている。外部に訴えるものがほしい。人が集う場所、人の良さだけでなく人をひきつけるものや場所がほしい。
「盛岡は、盛岡だから」といわれるような落ち着いたまちになってほしい（現状維持を望む）。
働く人の「夢」「希望」を叶える土壌を作る。元気なまち、力が湧いてくるまちであってほしい。
「人にやさしいまち」をコンセプトとしたまちづくり。市民をはじめ来訪者全ての人にやさしいまちであってほしい。
盛岡市の将来像について質問の全ての項目が満たされるように望む。盛岡に暮らす人々が誇りと生きがいを感じながら生活を営むことができる地域の実現に向けて美しいふるさとと、いきいきとした盛岡のまちを望みます。
「昔」と「現代」がうまく調和したまち。美しさを感じることでできるまちであってほしい。
I L C 誘致に目を向け、I L C 誘致に伴い宇宙に関係したテーマパークを造る。
盛岡のまちはとても良いまちです。今のままで良いとおもいます。岩手のよさを世界にアピール。
穏やかな県民性を忘れてはならない。気遣い、心配り、他人への思いやりがあふれるまち。
盛岡で働く全ての人が挨拶をする。クレームの無いまち盛岡。
数年後には岩手医大の移転があるので盛岡が活気づくような施設、松園桜台方面に人が集まるような施設ができることを望んでいます。
医大跡地は市民が集うガーデンに。そこで日曜市のようなイベントを開催。中心部に21時頃まで開いている図書館を整備する。
医大跡地に、コミュニティが集中する拠点づくり。
利用されていない施設・ビル・建物の利用。
盛岡市民であることを誇りに思い、未来に明るい期待を持ち続けられるまち。総合的な環境整備等に力のあるまち。「ゆりかごから〇〇まで」です。
若者が住みやすいまち。都市の人気百貨店の進出、コンパクトシティ、テレビの深夜放送の充実、交通網の充実。
人と人との心のふれあいを大切にする街であれば良いと思う。
法特区してカジノのまち。
平和なまちは良いが刺激が無い。
表面を取り繕うのではなく、そこに住んでいる、暮らしている私たちに優しいまちであってほしい。
岩手医科大学付属病院移転に伴う跡地の有効活用について。是非この地に新しい盛岡市庁舎の建設を要望いたします。

Ⅱ まちづくりアンケート

Ⅱ まちづくりアンケート

1 調査の概要

(1) 調査の目的

各種団体などの代表者のこれからの盛岡市のまちづくりや将来像などに関する意見を把握し、その結果を新しい盛岡市総合計画に反映させることを目的としています。

(2) 調査の設計

- ① 調査対象 盛岡市内で活動している各種団体や事業所のうち抽出された団体
 - ・教育・文化（学校、文化関係、協議会等）
 - ・経済・労働（金融機関、企業、農業関係、組合等）
 - ・医療・福祉（社会福祉施設、医療機関、保育園等）
 - ・ボランティア・NPO
 - ・町内会・自治会
 - ・報道機関 など
- ② 標本数 850 団体
- ③ 調査方法 無記名式の質問紙調査。郵送による配布・回収
- ④ 調査期間 平成 25 年 8 月 30 日から 9 月 20 日まで（集計対象 9 月 30 日）

(3) 調査の内容

設問	調査項目
問1	盛岡市の現況（優れているところ）
問2	盛岡市の現況（力を入れていくところ）
問3	盛岡市の将来像
問4	考慮すべき社会の動向
問5	まちづくりへの提言（記述式）

(4) 回収結果

対象者数	有効回収数	回収不能数	有効回収率
850 団体	534 団体	316 団体	62.8%

(5) 報告書の見方

- ① 比率(%)は、各設問の回答者数を基数として算出しています。
- ② 集計結果はすべて、小数点第2位を四捨五入しています。
- ③ 設問は全て複数回答を依頼していますので、比率の合計は100.0%を超えます。
- ④ 依頼回答数を超える回答など、設問の依頼形式に沿わない回答は無効としています。
- ⑤ 無回答・無効は合わせて不明として表示しています。
- ⑥ 前回調査比較の図表は、平成15年7月に実施したアンケート調査との比較です。
前回調査と今回の調査では、調査対象者数、回収率は異なりますが、設問内容は同様にしています。

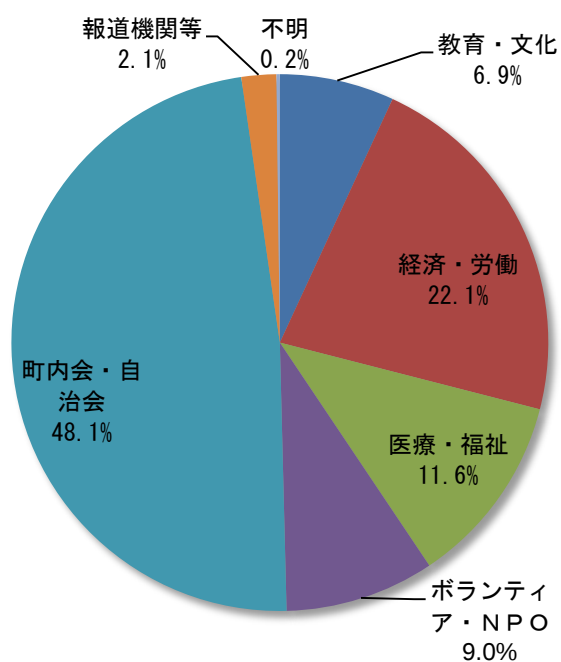
(参考 平成15年7月に実施したアンケート調査結果)

対象者数	有効回収率
962 団体	67.7%

2 調査回答者

分野

分野	回答者数 (団体)	構成比 (%)
教育・文化	37	6.9
経済・労働	118	22.1
医療・福祉	62	11.6
ボランティア・NPO	48	9.0
町内会・自治会	257	48.1
報道機関等	11	2.1
不明	1	0.2



3 調査結果

(1) 盛岡市の現況について（問1、2）

① 優れているところ

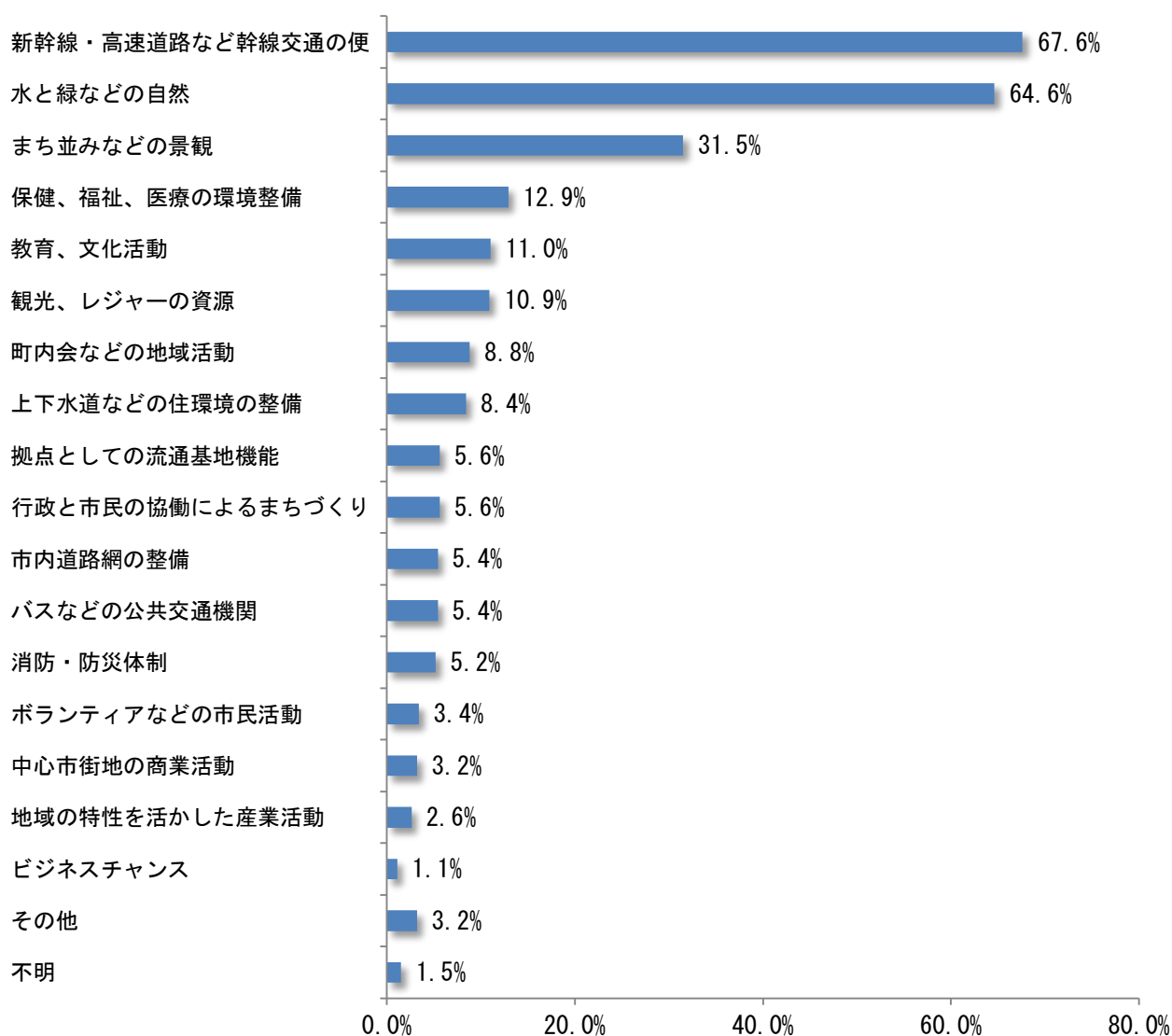
問1 東北の各都市と比較した場合、盛岡市が優れていると思われるところはどんな点ですか。次の中から3つ以内をお選びください。

●「新幹線・高速道路など幹線交通の便」が最も多い（67.6%）

・「新幹線・高速道路など幹線交通の便」を選んだ団体が最も多く、次いで「水と緑などの自然」、「まち並みなどの景観」となっています（図表Ⅱ-1）。

・前回調査と比較すると、上位3項目は、今回の調査でも多くの団体が選んでいますが、中でも「新幹線・高速道路など幹線交通の便」は、5.2%上昇し、67.6%と高い割合で選ばれています。東北新幹線が青森まで延伸されたことなどにより、交通の利便性が向上したことが考えられます（図表Ⅱ-2）。

（図表Ⅱ-1 優れているところ 回答者数 534団体）



(図表Ⅱ-2 優れているところ 前回調査比較)

	前回 (平成 15 年 7 月調査)		今回	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1 位	水と緑などの自然	78.3	新幹線・高速道路など幹線交通の便	67.6
2 位	新幹線・高速道路など幹線交通の便	62.4	水と緑などの自然	64.6
3 位	まち並みなどの景観	35.0	まち並みなどの景観	31.5
4 位	上下水道などの住環境の整備	14.7	保健、福祉、医療の環境整備	12.9
5 位	教育、文化活動	12.6	教育、文化活動	11.0

■ 分野別の傾向 (図表Ⅱ-3)

- ・上位 3 項目は各分野で多くの団体が選んでいます。
- ・町内会・自治会では、他の団体と比べて「行政と市民の協働によるまちづくり」を選んだ割合が高くなっています。
- ・ボランティア・NPOでは、他の団体と比べて「ボランティアなどの市民活動」を選んだ割合が高くなっています。
- ・母数(回答数)は少なくなっていますが、報道機関等では、他の団体と比べて「バスなどの公共交通機関」を選んだ割合が高くなっています。

(図表Ⅱ-3 優れているところ 分野別)

	回答者数(団体)	単位 (%)																		
		新幹線・高速道路など幹線交通の便	水と緑などの自然	まち並みなどの景観	保健、福祉、医療の環境整備	教育、文化活動	観光、レジャーの資源	町内会などの地域活動	上下水道などの住環境の整備	拠点としての流通基地機能	行政と市民の協働によるまちづくり	市内道路網の整備	バスなどの公共交通機関	消防・防災体制	ボランティアなどの市民活動	中心市街地の商業活動	地域の特性を活かした産業活動	ビジネスチャンス	その他	不明
全体	534	67.6	64.6	31.5	12.9	11.0	10.9	8.8	8.4	5.6	5.6	5.4	5.4	5.2	3.4	3.2	2.6	1.1	3.2	1.5
教育・文化	37	70.3	70.3	40.5	5.4	16.2	16.2	8.1	2.7	5.4	5.4	0.0	0.0	2.7	5.4	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0
経済・労働	118	69.5	55.1	38.1	10.2	8.5	11.9	2.5	9.3	8.5	1.7	6.8	6.8	2.5	2.5	7.6	2.5	5.1	1.7	1.7
医療・福祉	62	64.5	71.0	41.9	9.7	9.7	12.9	6.5	1.6	1.6	3.2	8.1	6.5	3.2	0.0	1.6	1.6	0.0	3.2	1.6
ボランティア・NPO	48	56.3	70.8	31.3	16.7	14.6	10.4	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	4.2	2.1	16.7	0.0	4.2	0.0	4.2	4.2
町内会・自治会	257	68.9	65.8	23.7	16.0	11.3	9.3	14.0	11.3	5.8	8.9	5.8	5.1	7.8	1.9	1.9	3.1	0.0	4.3	1.2
報道機関等	11	72.7	63.6	54.5	0.0	9.1	9.1	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0	18.2	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0

※ 1 全体数は、分野不明分を含んでいます。

※ 2 各分野の上位 3 項目のセルに色づけをしています。

② 力をいれていくところ

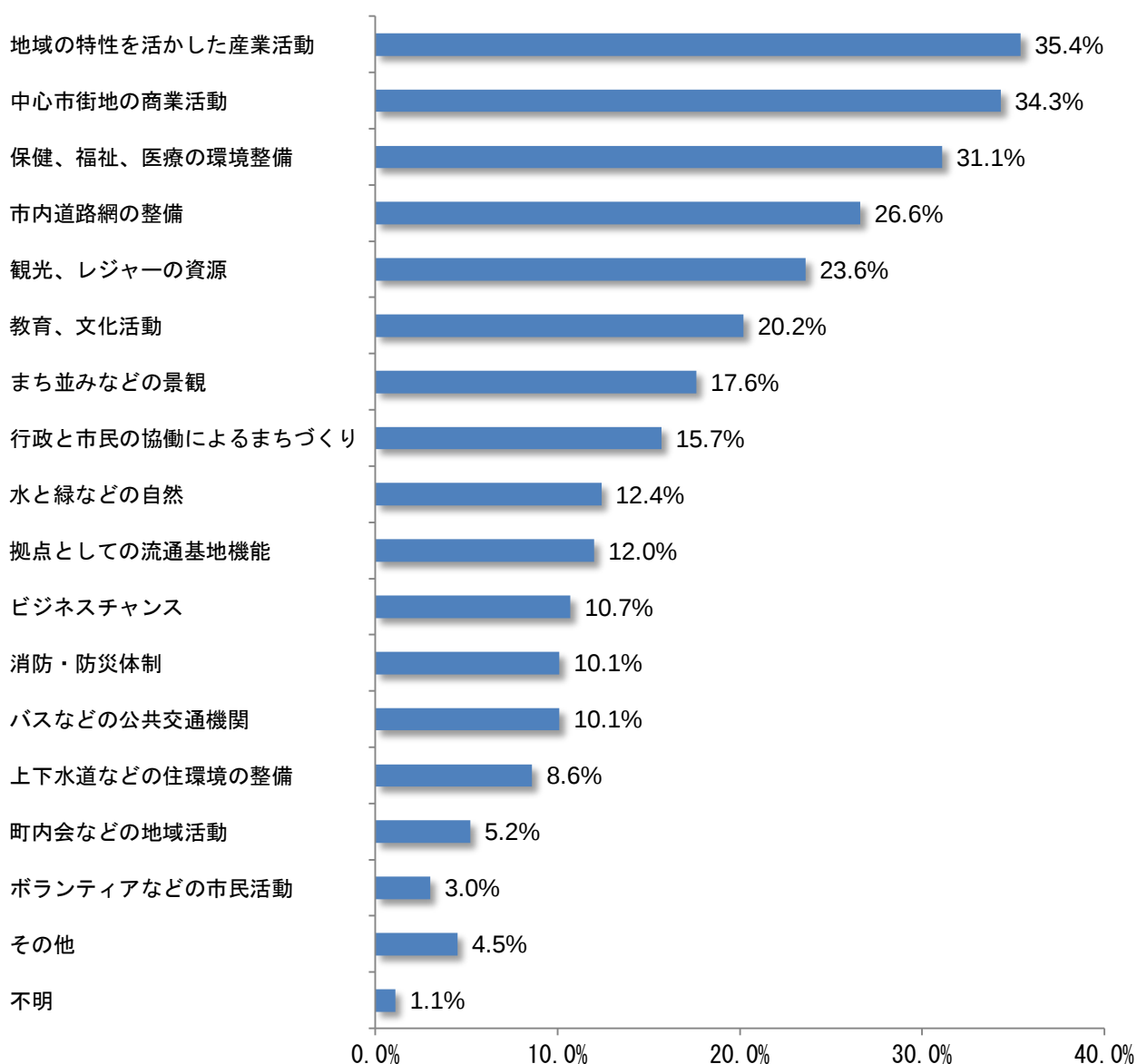
問2 それでは、盛岡市では今後どのようなことに力を入れていくべきだとお考えですか。次の中から3つ以内をお選びください。

●「地域の特性を活かした産業活動」が最も多い（35.4%）

・「地域の特性を活かした産業活動」を選んだ団体が最も多く、次いで「中心市街地の商業活動」、「保健、福祉、医療の環境整備」となっています（図表Ⅱ-4）。

・前回調査と比較すると、前回1位だった「市内道路網の整備」を選んだ割合が19.8%減少し、代わりに「地域の特性を活かした産業活動」、「中心市街地の商業活動」を選んだ割合が高くなっています。地域や中心市街地の活性化がより重要視されてきていることが分かります（図表Ⅱ-5）。

（図表Ⅱ-4 力をいれていくところ 回答者数 534 団体）



(図表Ⅱ-5 力をいれていくところ 前回調査比較)

	前回（平成15年7月調査）		今回	
	選択肢名	割合（％）	選択肢名	割合（％）
1位	市内道路網の整備	46.4	地域の特性を活かした産業活動	35.4
2位	保健、福祉、医療の環境整備	37.8	中心市街地の商業活動	34.3
3位	地域の特性を活かした産業活動	32.3	保健、福祉、医療の環境整備	31.1
4位	中心市街地の商業活動	27.3	市内道路網の整備	26.6
5位	教育、文化活動	24.9	観光、レジャーの資源	23.6

■ 分野別の傾向（図表Ⅱ-6）

- ・「地域の特性を活かした産業活動」、「中心市街地の商業活動」は、各分野で多くの団体が選んでいます。
- ・医療・福祉、ボランティア・NPOでは、他の団体と比べて「保健、福祉、医療の環境整備」を選んだ割合が高くなっています。
- ・教育・文化では、他の団体と比べて「教育、文化活動」を選んだ割合が高くなっています。
- ・経済・労働では、他の団体と比べて「観光、レジャーの資源」を選んだ割合が高くなっています。
- ・母数（回答数）は少なくなっていますが、報道機関等では、他の団体と比べて「ビジネスチャンス」を選んだ割合が高くなっています。

(図表Ⅱ-6 力をいれていくところ 分野別)

	単位（％）																		
	回答数（団体）	地域の特性を活かした産業活動	中心市街地の商業活動	保健、福祉、医療の環境整備	市内道路網の整備	観光、レジャーの資源	教育、文化活動	まち並みなどの景観	行政と市民の協働によるまちづくり	水と緑などの自然	拠点としての流通基地機能	ビジネスチャンス	消防・防災体制	バスなどの公共交通機関	上下水道などの住環境の整備	町内会などの地域活動	ボランティアなどの市民活動	その他	不明
全体	534	35.4	34.3	31.1	26.6	23.6	20.2	17.6	15.7	12.4	12.0	10.7	10.1	10.1	8.6	5.2	3.0	4.5	1.1
教育・文化	37	43.2	37.8	24.3	21.6	24.3	37.8	24.3	8.1	13.5	10.8	13.5	2.7	8.1	0.0	0.0	2.7	8.1	0.0
経済・労働	118	36.4	39.8	16.9	20.3	37.3	21.2	21.2	11.9	9.3	12.7	20.3	7.6	7.6	5.1	0.8	0.8	3.4	1.7
医療・福祉	62	29.0	32.3	59.7	25.8	29.0	19.4	16.1	21.0	6.5	12.9	4.8	4.8	8.1	6.5	3.2	6.5	1.6	1.6
ボランティア・NPO	48	18.8	18.8	39.6	14.6	10.4	20.8	20.8	20.8	25.0	6.3	6.3	8.3	14.6	6.3	16.7	12.5	8.3	2.1
町内会・自治会	257	38.5	32.7	30.0	32.3	18.3	16.7	15.2	16.7	13.2	12.8	7.0	14.4	11.7	12.8	6.6	1.6	4.7	0.8
報道機関等	11	36.4	81.8	27.3	36.4	18.2	27.3	9.1	9.1	0.0	9.1	36.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※1 全体数は、分野不明分を含んでいます。

※2 各分野の上位3項目のセルに色づけをしています。

(2) 盛岡市の将来像について(問3)

問3 盛岡市が10年後、どのようなまちであってほしいと思いますか。次の中から2つ以内をお選びください。

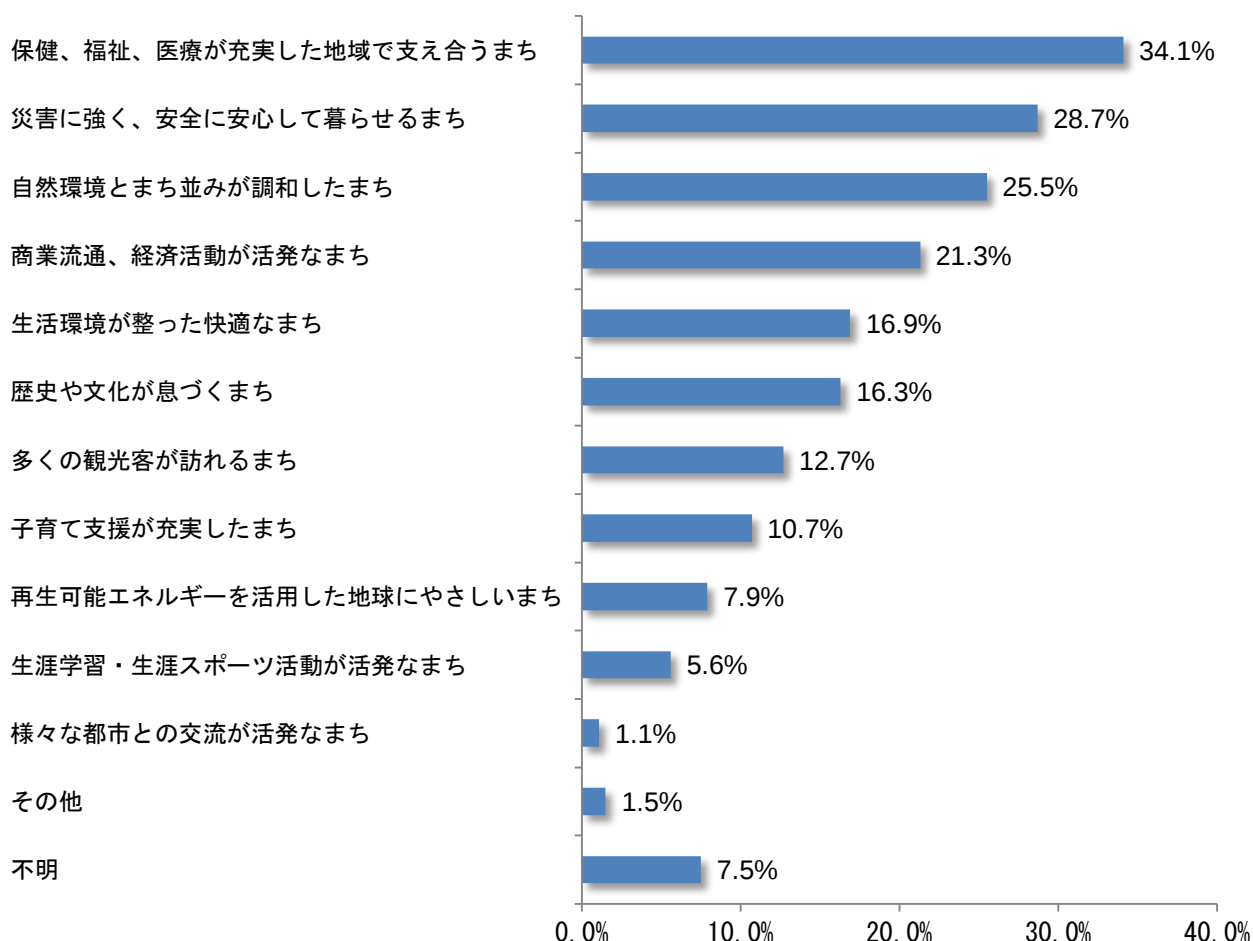
●「保健、福祉、医療が充実した地域で支え合うまち」が最も多い(34.1%)

・「保健、福祉、医療が充実した地域で支え合うまち」を選んだ団体が最も多く、次いで「災害に強く、安全に安心して暮らせるまち」、「自然環境とまち並みが調和したまち」となっています(図表Ⅱ-7)。

・前回調査と比較すると、「保健、福祉、医療が充実した地域で支え合うまち」、「自然環境とまち並みが調和したまち」は、今回の調査でも多くの団体を選んでいました。

・「災害に強く、安全に安心して暮らせるまち」は、今回の調査で新たに設定した選択肢ですが、28.7%と高い割合で選ばれており、東日本大震災や今年8月の大雨災害の影響が大きく影響していると考えられます(図表Ⅱ-8)。

(図表Ⅱ-7 盛岡市の将来像 回答者数 534 団体)



(図表Ⅱ-8 盛岡市の将来像 前回調査比較)

	前回 (平成 15 年 7 月調査)		今回	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1 位	自然環境とまち並みが調和したまち	46.5	保健、福祉、医療が充実した地域で支え合うまち	34.1
2 位	保健、福祉、医療が充実した地域で支え合うまち	40.9	災害に強く、安全に安心して暮らせるまち	28.7
3 位	歴史や文化が息づくまち	37.0	自然環境とまち並みが調和したまち	25.5
4 位	生活環境が整った快適なまち	33.9	商業流通、経済活動が活発なまち	21.3
5 位	商業流通、経済活動が活発なまち	24.9	生活環境が整った快適なまち	16.9

■ 分野別の傾向 (図表Ⅱ-9)

・経済・労働では、他の団体と比べて「商業流通、経済活動が活発なまち」を選んだ割合が高くなっています。

・教育・文化、医療・福祉では、他の団体と比べて「災害に強く、安全に安心して暮らせるまち」を選んだ割合が低くなっています。

(図表Ⅱ-9 盛岡市の将来像 分野別)

	回答数(団体)	単位 (%)												
		保健、福祉、医療が充実した地域で支え合うまち	災害に強く、安全に安心して暮らせるまち	自然環境とまち並みが調和したまち	商業流通、経済活動が活発なまち	生活環境が整った快適なまち	歴史や文化が息づくまち	多くの観光客が訪れるまち	子育て支援が充実したまち	再生可能エネルギーを活用した地球にやさしいまち	生涯学習・生涯スポーツ活動が活発なまち	様々な都市との交流が活発なまち	その他	不明
全体	534	34.1	28.7	25.5	21.3	16.9	16.3	12.7	10.7	7.9	5.6	1.1	1.5	7.5
教育・文化	37	32.4	10.8	29.7	21.6	10.8	24.3	8.1	18.9	13.5	10.8	0.0	2.7	5.4
経済・労働	118	15.3	31.4	26.3	38.1	16.1	17.8	18.6	3.4	5.1	6.8	2.5	2.5	6.8
医療・福祉	62	62.9	17.7	24.2	16.1	19.4	9.7	8.1	22.6	6.5	1.6	0.0	1.6	4.8
ボランティア・NPO	48	43.8	33.3	29.2	8.3	14.6	16.7	6.3	10.4	10.4	6.3	2.1	4.2	4.2
町内会・自治会	257	34.6	31.5	23.7	17.5	18.3	15.6	12.5	8.9	8.6	5.4	0.8	0.4	9.7
報道機関等	11	27.3	27.3	36.4	18.2	9.1	27.3	27.3	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※1 全体数は、分野不明分を含んでいます。

※2 各分野の上位3項目のセルに色づけをしています。

(3) 考慮すべき社会の動向について（問4）

問4 盛岡の将来像を考える場合、最も考慮しなければならない社会の動向は何だとお考えですか。次の中から2つ以内をお選びください。

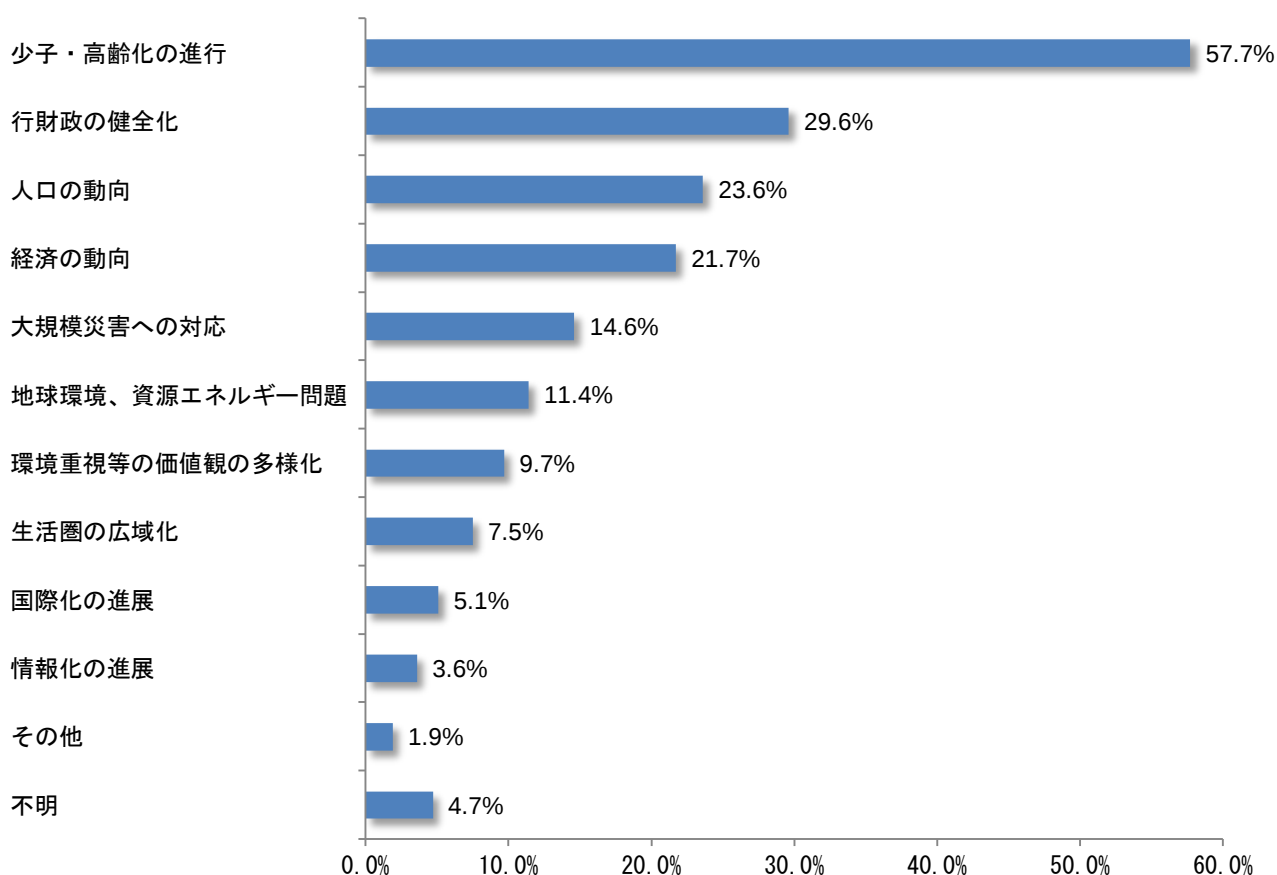
●「少子・高齢化の進行」が最も多い（57.7%）

・「少子・高齢化の進行」を選んだ団体が最も多く、次いで「行財政の健全化」、「人口の動向」となっています（図表Ⅱ-10）。

・前回調査と比較すると、上位項目は今回の調査でも上位となっていますが、「行財政の健全化」を選んだ割合が14.0%減少しており、平成16年度から6年間にわたり取り組んできた行財政構造改革の成果が要因の一つとして考えられます。

・一方で、「人口の動向」が11.2%上昇しています（図表Ⅱ-11）。

（図表Ⅱ-10 考慮すべき社会の動向 回答者数 534 団体）



(図表Ⅱ-11 考慮すべき社会の動向 前回調査比較)

	前回 (平成 15 年 7 月調査)		今回	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1 位	少子・高齢化の進行	51.0	少子・高齢化の進行	57.7
2 位	行財政の健全化	43.6	行財政の健全化	29.6
3 位	経済の動向	28.3	人口の動向	23.6
4 位	生活圏の広域化	18.7	経済の動向	21.7
5 位	環境重視等の価値観の多様化	14.4	大規模災害への対応	14.6

■ 分野別の傾向 (図表Ⅱ-12)

- ・「少子・高齢化の進行」、「人口の動向」は、各分野で多くの団体が選んでいます。
- ・経済・労働、報道機関等では、他の団体と比べて「経済の動向」を選んだ割合が高くなっています。
- ・ボランティア・NPOでは、他の団体と比べて「環境重視等の価値観の多様化」、「地球環境・資源エネルギー問題」を選んだ割合が高くなっている一方で、「行財政の健全化」、「経済の動向」を選んだ割合が低くなっています。

(図表Ⅱ-12 考慮すべき社会の動向 分野別)

	回答数(団体)	単位 (%)											
		少子・高齢化の進行	行財政の健全化	人口の動向	経済の動向	大規模災害への対応	地球環境、資源エネルギー問題	環境重視等の価値観の多様化	生活圏の広域化	国際化の進展	情報化の進展	その他	不明
全体	534	57.7	29.6	23.6	21.7	14.6	11.4	9.7	7.5	5.1	3.6	1.9	4.7
教育・文化	37	51.4	29.7	27.0	27.0	8.1	16.2	13.5	0.0	0.0	2.7	0.0	8.1
経済・労働	118	46.6	22.0	29.7	34.7	19.5	6.8	5.1	9.3	6.8	5.9	0.0	3.4
医療・福祉	62	71.0	35.5	30.6	21.0	12.9	6.5	3.2	4.8	0.0	0.0	3.2	3.2
ボランティア・NPO	48	62.5	16.7	18.8	8.3	12.5	20.8	25.0	8.3	4.2	4.2	10.4	2.1
町内会・自治会	257	59.9	34.2	19.1	16.3	13.6	12.8	10.5	8.2	6.6	3.5	1.2	5.8
報道機関等	11	45.5	18.2	36.4	54.5	27.3	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0

※ 1 全体数は、分野不明分を含んでいます。

※ 2 各分野の上位 3 項目のセルに色づけをしています。

(4) まちづくりへの提言について(問5 記述式)

問5 市内外の人から「住み続けたい」、「訪れたい」、「住んでみたい」、「事業活動したい」などと思われるようなまちとなるには、どのような魅力を市内外にPRしていくべきだとお考えですか。自由に提言をお聞かせください。

① 提言件数

705件(回答数315団体)

提言の件数は複数回答の取扱いとしています。

② 提言の概要

提言の内容を整理するため、現在の盛岡市総合計画の施策の柱(8)と施策(41)ごとに分類したところ、以下のようになりました。

■ 施策の柱

「5 活力ある産業の振興」に関する提言が最も多く、次いで「7 快適な都市機能」、「1 いきいきとして安心できる暮らし」に関する提言が多くなっています。

施策の柱	件数(件)	割合(%)
1 いきいきとして安心できる暮らし	102	14.5
2 安全な暮らし	34	4.8
3 心がつながる相互理解	17	2.4
4 共に生き未来を創る教育・文化	65	9.2
5 活力ある産業の振興	161	22.8
6 環境との共生	79	11.2
7 快適な都市機能	158	22.4
8 信頼される質の高い行政	55	7.8
9 その他(市政関連、アンケートに関する意見など)	34	4.8
合 計	705	100.0

■ 施策

施策の柱	施策	件数(件)
1 いきいきとして 安心できる 暮らし	1 健やかに暮らせる健康づくりの推進	4
	2 地域をリードする医療体制の確立	34
	3 共に歩む障がい者福祉の実現	2
	4 高齢社会に適応した高齢者福祉の充実	19
	5 暮らしを支える制度の充実と自立支援	1
	6 みんなで支える子育て支援の展開	35
	7 ふれあいが広がる地域福祉の実現	7
	小 計	102
2 安全な 暮らし	1 自然災害対策の推進	32
	2 火災に強い消防体制の構築	0
	3 市民生活を守る安全対策の充実	2
	小 計	34

施策の柱	施策	件数（件）
3 相互理解 心が つなが る	1 元気な地域コミュニティ活動の推進	11
	2 人権を尊重する地域社会の形成	0
	3 多様な国際交流・地域間交流の推進	6
	4 快適な情報ネットワークの実現	0
	小 計	17
4 共に 教育・文 化を 創る	1 将来を担う次世代の育成	42
	2 いつでもどこでも学ぶことができる環境の構築	5
	3 生涯にわたり楽しめるスポーツ・レクリエーションライフの実現	10
	4 豊かな心を育む芸術文化活動の支援	0
	5 歴史を受け継ぐ文化遺産の保護・活用	8
	小 計	65
5 振興 活 力 あ る 産 業 の	1 活力ある農林業の振興	8
	2 まちに活力を与える工業の振興	11
	3 多様で活発な商業・サービス業の振興	34
	4 地域資源をいかした観光・物産の振興	66
	5 安定した雇用の創出と良好な労働環境の促進	42
	小 計	161
6 共 生 環 境 と の	1 生活環境の保全	5
	2 かけがえのない自然との共生	68
	3 地球環境への貢献	6
	小 計	79
7 快 適 な 都 市 機 能	1 適正な土地利用計画の推進	7
	2 魅力ある都市景観の形成	56
	3 快適な居住環境の実現	21
	4 うるおいのある公園・街路樹の確保	21
	5 いつでも信頼される上水道事業の推進	4
	6 健全な水環境・良好な水循環の創出	5
	7 にぎわいのある市街地の形成	7
	8 都市活動を支える交通環境の構築	37
	小 計	158
8 行 政 信 頼 さ れ る 質 の 高 い	1 健全な財政運営の実現	7
	2 計画的で効率的な行政運営の推進	6
	3 市民とともに作る行政の実現	34
	4 市民の負託に応える組織の構築・人材の育成	4
	5 より便利な行政サービスの構築	1
	6 自治の確立を目指す取組みの強化	3
	小 計	55
9	その他（市政関連、アンケートに関する意見など）	34
	合 計	705

■ 施策の柱ごとの主な内容

個々の提言については、「施策ごとの内容（P105～）」に掲載しています。

1 いきいきとして安心できる暮らし

医療体制の確立や子育て支援に関する提言が多くありました。医療体制の確立については、医療を充実させ、安心・安全なまちであることをPRしていくべきなどの提言がありました。子育て支援については、待機児童の問題に積極的に取り組み、若い世代が住みやすいまちとしてPRするべきなどの提言がありました。

2 安全な暮らし

自然災害対策に関する提言が多くありました。自然災害から生命財産を守る対策が最優先される安心・安全なまちとしてPRしていくべきなどの提言がありました。また、夜道が明るく、町ぐるみで安全パトロールがされている、全国で一番事故の無いまちをPRしていくべきなどの提言がありました。

3 心がつながる相互理解

コミュニティ活動に関する提言が多くありました。町内会などの地域活動がスムーズで人間関係が円満なまちづくりがなされていることをPRしていくべき、地域の活性化に向け、地域活動に若者が参加する施策を実施するべきなどの提言がありました。

4 共に生き未来を創る教育・文化

教育環境の充実や生涯スポーツの推進に関する提言が多くありました。教育環境の充実については、施設の充実を図るべき、教育水準の向上に取り組んだ上で、市内外へ発信していくべきなどの提言がありました。生涯スポーツの推進については、健康づくりができるような施設の整備やスタッフの配置、また、スポーツに気軽に参加できる環境があればよいなどの提言がありました。

5 活力ある産業の振興

観光・物産の振興や企業誘致・雇用に関する提言が多くありました。観光・物産の振興については、温かい心の触れ合う、市民が観光ガイドをするまちとしてPRしていくべきなどの提言がありました。企業誘致・雇用については、企業誘致を推進し、若者が働ける場を提供すべきなどの提言がありました。

6 環境との共生

自然との共生に関する提言が多くありました。自然と街並みが調和したまちをこれからも維持していけるよう、環境を考えたまちづくりをPRしていくべきなどの提言がありました。また、再生可能エネルギーを活用した地球に優しい技術の開発と実用化を図り、住みやすいまちにしていくべきなどの提言がありました。

7 快適な都市機能

景観形成や交通環境の整備に関する提言が多くありました。景観形成については、古き良き街並みを壊さずに整備し、暮らしやすいまちとしてPRしていくべきなどの提言がありました。交通環境の整備については、幹線交通の便がよいまちであることをPRしていくべき、他都市との差別化のため、LRTの検討も含め、電車やバスの利便性を高めていくべきなどの提言がありました。

8 信頼される質の高い行政

情報発信やまちづくりに関する提言が多くありました。情報発信については、各業界からPRのCMを募集し、それをタイムリーに発信すべきなどの提言がありました。まちづくりについては、地域協働に力を入れている地区も出てきているので、一層の公助を行っていくべき、地域の特色を生かした拠点づくりをし、市中心のみならず、市全体に活力のみなぎる均衡のあるまちづくりを進めるべきなどの提言がありました。

9 その他

盛岡の売りである優しく温かい人情をPRしていくべき、広域合併を再検討し、北東北の拠点づくりを行っていくべきなどの提言がありました。

■ 施策ごとと主な内容

- ・現在の盛岡市総合計画の施策ごとにまとめて掲載しています。
- ・施策番号に対応する施策名については、P 101, 102を参照してください。
- ・趣旨を変えない程度に要約したものもあります。
- ・同趣旨と思われ、割愛したものもあります。

●施策の柱 I いきいきとして安心できる暮らし

施策	内容
1	健康で長生きなまち。健康で美しいまち。 住んでいる人々が明るく元気なまち。 市民の健康診断の拡大を図る。
2	安心・安全に暮らせるよう地域に病院や警察署、介護施設などの配置がきちんとなっているのか見直してほしい。 少子高齢化が進むため、医療、行政関係の充実を要望する。 医療を充実させ、安心・安全なまちであることをPRする。 安全に安心して暮らせるまちづくりを行うことが最重要であり、平時の福祉・医療の充実を進めてほしい。 少子高齢化の進行を見据え、保健福祉医療の環境整備を前面に、住み続けたいまちづくりを推進してほしい。 「住みたい」と「訪れたい」は視点が異なる。前者は安心して子育てや居住できるということで、特に遅れているのは教育と医療である。質の高い教育や医療システムを望む。後者は観光的なことで現状でも満足できるものである。 医大病院移転に伴う高度医療の体制や救急医療の体制低下に対し、行政としてしっかり対応すべき。 医療福祉は「病気を未然に防ぐ」という、子どもから老人までの医療整備をすることにより、安心安全なまちの活性化につながる。 他地域から移り住んでいる市民の意見を吸い上げて、まちづくりや医療、福祉等の行政施策に活かしていく必要がある。 「今住んでいる市民がより快適に暮らせるまち」にしていくのが最も重要。保健・福祉・医療が充実し、盛岡に住む方々が口々に「暮らしやすいまちだ」と出てくるようなまちにしていけばよい。 盛南地区は、大学、医療、スポーツエリアとして発展させ、盛北・玉山地区は、啄木の文化的な魅力を掘り出し、姫神山麓の金山跡地の再現、登山道を作り、観光ルートを指定する。
3	障がい者も安心して住めるまちづくりを行い、PRする。 高齢者や障がい者福祉の充実を図るとともに、「ともに生きる」社会の具現化を行う（子どもとお年寄りや障がい者の共同の場を作る等）。
4	高齢者がいきいきして活動を行っているまちとしてPRする。 医療特区など、老人にも住みやすいまちづくりや福祉の充実したまちづくりを目指してほしい。 医学・福祉介護等の養成機関、高齢者が将来安心して住める老人福祉施設（低賃金）の増設が望まれる。 介護保険料が日本一少ないまちとしてPRする。

●施策の柱 I いきいきとして安心できる暮らし

施策	内容
4	地方の高齢化は避けられない，高齢者が安心して暮らせる生活環境づくりが市内外へのPRに繋がる。
	認知症高齢者の増加に伴う行政サイドの支援，少子化に伴う子育て支援が必要（高齢者と子育て中の若いご夫婦との交流等）。認知症について広く市民レベルでの周知の徹底を図り，民間頼りではなく行政として大局を見据えた取組が必要である。
	お年寄りが安心して暮らせるように誰でも入所できる施設など福祉行政に力を入れてもらいたい。
	老人福祉等で市独自の事業を展開し，全国に発信する。
	少子高齢化が進む中，空き家を活用して高齢者の集合住宅のような環境を作れたら素晴らしい。
	人口減少，少子高齢化の進行が続く中で，健康で元気な高齢者が社会（町内会等）で活躍できる場の拡大の必要性を提案する。
	高齢化社会に向けて，先進諸国を参考に，人生の最後を支える社会の仕組みづくりをする。
	公共の老人ホームの拡充を図る。安心して老後を迎えられるまちとしてPRする。
	年代に偏らない施策が必要。高齢者には安寧，若者には仕事を。そのためにバリアフリーのまちづくりを進めること，保健福祉の充実，起業者や小規模事業者向けの税制や不動産面への優遇措置を講じてビジネスのしやすい環境を整えることが必要である。元気に活躍する現役世代を増やすことこそ若年層への好影響を与える施策。
5	住み続けたいと思われるためには，高齢化に伴うハード事業，ソフト事業両面の充実と高齢者にやさしい（生活しやすい）まちであること。
	中心市街地の商業活動を充実させ，生活弱者が暮らしやすいまちづくりが必要。
	住宅改修への補助や子育て環境の整備（保健所の支所・保育所や幼稚園の受け入れ・子どもの遊び場を増やす）等，高齢化地域や空き家の多い地域に若い人が定住してくれるような施策が必要。入りやすい商店を作る努力をし，歩くだけでも楽しい大通りを目指す。
	子どもたち，高齢者の方々が住みやすいまちづくり。そのために，子どもや高齢者に携わる若者達が意欲的に毎日を過ごせるように行政面でのバックアップ（労働条件や環境の整備）が重要。子育てをしやすい環境や保育，教育，福祉の充実を図る。
	子どもを産み育てやすいまちを実感できるよう，具体策を市の取組課題にし，全国に発信する。
	市独自の事業を展開し，全国に発信する。
	安全で安心して子育てできる環境をPRする。
	子育てをしやすいかどうかは「住みたい」と考える大きな要素となるので，女性が働き続けられる，新たな労働力を確保するためにも保育所の整備が必要である。
	待機児童の問題に積極的に取り組み「若い世代が住みやすいまち」としてPRする。
6	待機児童が無くなるよう，保育園の増加など福祉行政に力を入れ，子どもを産み育てたくなる環境整備が必要。
	高齢化の進展に伴い，家庭内の就業者数が減少することを踏まえると，共稼ぎ家庭が増加する。子育て時期に失業する事のないよう，保育施設，施策の充実を図り，安心して就業できる環境をPRするべき。

●施策の柱 | いきいきとして安心できる暮らし

施策	内容
6	子どもの声が聞こえる地域は活気を感じ、鳥の声が聞こえる地域は癒される。
	少子高齢化の中で、子育てしやすい保育環境整備が望まれる。保育料が安く、安心して働ける環境づくりが必要。
	若い世代へのアプローチの為に、行政が主体となり、思い切った子育てプランと産業のタイアップが必要である。今後は盛岡の利便性が仙台を上回り、東北の産業の中心地となる。沿岸との交通網の整備にも力を入れ、活性化すれば人口流出も防ぐことができる。産業が根付けば、安心して子どもを産み育てていけるという安心感が「子育てにやさしいまち」となる。
	子どもたち、若者たちの元気や活気の波及効果は絶大で、地域活性化の一番の基。将来に夢と希望を見出し、安心して家庭を築く環境づくりが急務。そのような環境が整備されていることで魅力あるまちとしてPRしていけるのではないかな。
	若い人達が住みたいまちにしていく事が重要。子育て支援策を強め、安心して産み育てることができる環境作りをしてほしい。出産費用の援助、保育所の増設、保育料の軽減など「子育ては盛岡で」といわれる環境にしていく。
	子どもの医療費助成制度の拡充。未だ「就学前」までとなっている年齢制限の見直しを図り対象年齢を拡大することにより、子育てに優しい環境であることをPRする。盛岡市は県都として他市町村の手本となるよう、先駆けて取組む姿勢を示してほしい。
7	子育て、教育、就業と一貫して住みやすく、生活しやすいまちづくりが必要。子育て世代が働きながら暮らしていけることが盛岡市の税収を支え、郷土の発展に重要な役割を果たすと考える。盛岡で生まれ育った子どもがやがて盛岡で生活し、子育てをし、そのまた子どもたちが盛岡をつくっていく。そんなまちづくりを目指してほしい。
	福祉の分野では災害時に地域の人が力を合わせられるように「結」の精神を意識づけること。自然環境に恵まれ、隣人同士に助け合いがある明るい盛岡市をPR。
	文化的な活動や福祉ボランティアについて、情報発信の支援と援助を行う。
	環境、災害、福祉どれをとっても自身が関心を持たなければならない。近隣同士が助け合いを深め、関心と勇気をもってお手伝いをする、弱者が住みやすい、そんな地域が素晴らしい。防災は「自分の体、財産は自分で守る」を基本に。行政は文化、教育を重要課題とし、自治会等で良さを話していただきたい。
	町内活動や地域ボランティアは年寄りまかせ。若年層は、感謝の心や思いやりの心がなく、無関心である。地域防災の話があるが、具体性の無い形式ばかりの話では意味が無い。災害はハード面だけでは防止できず、心の通った地域活動のほうがやはり盛岡に住んでよかったと思うことになると思う。
	福祉活動支援は必要なことに重点的配分を。

●施策の柱 II 安全な暮らし

施策	内容
1	生活環境に恵まれた暮らしやすいまち，自然災害の少ないまちとしてPRする。
	ダム決壊のハザードマップを作り，市民に安心安全を提供すべき。
	安全に安心して暮らせるまちづくりを行うことが最重要である。そのために，災害時の対応強化や平時の福祉・医療の充実を進めてほしい。
	震災後の安全性をもっとアピールしたほうが良い。
	自然災害から生命財産を守る対策が最優先される安心・安全なまちとしてPRする。
	生活の基盤は安全安心なまちであり，自然災害のないまちづくりである。洪水対策と避難情報徹底のルール作りが必要。
	町内会などの地域活動や消防・防災の充実，保健福祉医療の環境整備，教育文化活動，これらの推進とPRを行う。
	環境，災害，福祉どれをとっても自身が関心を持たなければならない。近隣同士が助け合いを深め，関心と勇気をもってお手伝いをする，弱者が住みやすい，そんな地域が素晴らしい。防災は「自分の体，財産は自分で守る」を基本に。行政は文化，教育を重要課題とし，自治会等で良さを話していただきたい。
	町内活動や地域ボランティアは年寄まかせ。若年層は，感謝の心や思いやりの心がなく，無関心である。地域防災の話があるが，具体性の無い形式ばかりの話では意味が無い。災害はハード面だけでは防止できず，心の通った地域活動のほうがやはり盛岡に住んでよかったと思うことになると思う。
	都市部に防災無線が設備されていないのは問題である。緊急時を考慮し，早急に設備することを希望する。
2	
3	道路標識が適切に配置され，夜道が明るく，町ぐるみで安全パトロールがされている，全国で一番事故の無いまちである等，「安全・安心のまち」であることをPRする。

●施策の柱 III 心がつながる相互理解

施策	内容
1	町内会自治会は、補助（金）制度を含めてもっと自主的に活動させたほうがよい。
	自然に恵まれ、安全で住みよいまち、町内会などの地域活動がスムーズで人間関係が円満なまちづくりがなされているまちであることをPRする。
	子どもたちが将来地元に戻りたいと思えるよう地域活動や祭り等、様々な機会を通し、子どもたちの参画を積極的に図る。
	地域の中心は高齢者が多く、活性化されないのではないか、行政として再考を望む。地域活動に若者が参加する施策が必要。
	町内会で町の特徴を生かし、長期に渡って楽しく落ち着いたものを考えていく。これらをこれから生活する人たちが努力していくこと。
	地域社会（町内会）の重要性を認識し、市民への理解を求める広報を行うことにより、社会（現場）の問題点を見極め行動すること。
	各地域の自治会ごとに絆を深め、ツーカーの思いやりの心で生活できる場所にしたい（集会所ごとにサロンを根付かせる等）。
	人情豊かな町内会、自治会活動の盛んなまちの推進。
	町内会長の役割が重い。全くの無償。他の県や市町村はどうなのか。
	地域（町内会）の輪が大事で「地域を育てる」ことが大切と思われる。自然環境は良い、交通網がある程度は良いとなれば、後は人間育成である。行政がリーダー（中心）となり、地域のまちづくりのリーダーの育成を推進していくべき。
2	福祉推進会の町内会区域が、市民の生活実態と合っていない。新市街地の開発、幹線道路は整備されたので、生活実態に合った地区に見直すべき。現代は、負担や痛みの分配をどうするのか、財政再建が主題ではないのか。
3	宮沢賢治、石川啄木の観光コース化（周辺市町村と一体で）。
	ILCが国際決定されれば、盛岡市はいち早く「国際教育都市」を目指し、国内外に宣言、行動すべき。市役所内に産学官合同の「国際教育都市準備室」を設けることを提案。
	北東北3県連携の強化を図る。
	東日本大震災復興に向けた宮城、福島、岩手の相互連携が必要。
4	

●施策の柱 IV 共に生き未来を創る教育・文化

施策	内容
1	教育はその年齢に応じた学習が必要であり、基礎力の充実のほか、人として必要なこと、一人ひとりを大切にすることなど、広く人材育成を考えたものであってほしい。
	文化の香りや教養が感じられるまちとしてPRする。
	外からの人々を受け入れる教養・知性・言語力を身につける。
	魅力あるまちづくりはそこに住んでいる人々の意識の高さが重要。子どもたちに知識編重ではない充実した教育を。景観・文化・住環境の美とともに盛岡のソフトパワー、人材をアピールしてほしい。
	市民の教養を培養する施策も必要。盛岡のよさや幸せのカタチを住民参画型のワークショップで議論してもよい。
	教育文化が遅れている。海外に向けた教育も必要。
	教育施設の充実が望まれる。
	文化と教育のまちとしてPRする。
	盛岡市の住民自身が安心して暮らせると思えるまちにし、住民一人ひとりが自分の役割のなかで自分のできることを行う。各々が、その様子を盛岡市外の方に手紙やメール等で伝えることが重要。そこで、子ども達が読書をする時間を増やし、歴史、文学等に親しんでもらうための工夫が必要となる。
	目先の幸を追求せず将来子孫のための盛岡をつくりたい。人づくりに重点をおいた施策を望む。
	「人（人間力）」を育てることが大事。そこに住む人一人ひとりに魅力があれば、教育、文化、経済全てにおいて発展していくものと思われる。
	次世代を担う若者や女性にとって魅力あるまちとすることが大事である。教育、文化、介護、福祉医療を充実させることが第一であり、それに続いて日常に活気があふれる盛岡市を形作っていったら。そういった問題の検討の際には我々が魅力的だと感じている他都市を参考にしたり、他県から盛岡に流入してきた人たちや、若者や女性の意見を聞く機会を多く設定するとよいと思う。
	自立した社会人を育て、市民としてよりよい社会をつくり、仕事に挑戦する力をつけるため、人間教育に重点をおく。
	広域的観点から、交通の拠点としての利便、教育や文化水準の高さ、自然環境を前面に出し、「人間らしく落ち着いた心穏やかな生活ができるまち」としての魅力をPR。
	まちはそこに住む人の意識以上にはよくならない。盛岡在住者がそれぞれまちづくりを考え、固定観念に囚われることなくフレキシブルな発想とダイナミックな行動によって実践していく事が大切。そういった人材が増加していくことによりまちは活性化し、自然な流れで魅力的なまちに変わっていく。盛岡市のやるべきことはまさに「人づくり」である。
	「住みたい」と「訪れたい」は視点が異なる。前者は安心して子育てや居住できるということで、特に遅れているのは教育と医療である。質の高い教育や医療システムを望む。後者は観光的なことでも現状でも満足できるものである。
	恵まれた自然環境を活用し、子どもを育てやすい文教都市を目指すこと。
	歴史や先人、まち並みをPRする。
	教育のレベルアップが必要。教育への重点配分化。
	人材を多く生んだまち・歴史伝統文化を重んじるまち・中心市街地が活性化するまち（中心市街地に人が集まるようなまち）・教育や文化の水準が高いまちとしてPR。

●施策の柱 IV 共に生き未来を創る教育・文化

施策	内容
1	子育ての可能性（夢）が広がるまちとして、学力対策や全国にアピールできる文教施設が実績を上げるような助成や誘致を行い、IT産業や先端産業が起業できるような優遇施策等を検討すること。
	教育文化都市としてのPR不足。
	盛岡市民の人間性をPRするために、教育に力を入れる必要がある。「おもてなし」が大きく・継続的になり、市内外にアピールできると良い。人は人の中で癒されるのが一番大切。事業活動をするにも、人材資源の多いところは定着する。
	小中学校の教育環境が遅れている。学校整備に必要なお金をかけるべき。
	教育水準の向上に取り組んだ上で、市内外へ発信していく。
	小学校の自炊方式は盛岡の誇れる施策、他都市にもPRできるもの。地元産を使った学校給食を充実させ、継続して行ってほしい。
2	高齢者が安心して楽しく過ごせる生涯学習や生涯スポーツが普通に行えるまちづくりや、地域に根付いた環境が備わった場所が必要である。
	大人も子どももきちんと挨拶ができる環境が整うことにより、「あたたかい盛岡に住みたい」「訪れたい」「住んでみたい」「事業活動したい」と思っていただけではないか。
	思いやり、支えあいの心を持つ人間性と協調性のある人間育成、生涯学習の推進。
3	盛岡市は各種施設が中途半端な小さいものばかりなので、隣県から利用申込が受けられる施設として交流が活発となるような施設をつくってはどうか。
	周辺町村との合併を促進し、大きなスポーツ大会が開催できる施設を作してほしい。スポーツ、文化、北東北でビッグなイベントのできる地域の拠点としての盛岡市でありたい。
	国民体育大会が盛岡市を国内に発信する機会となるような施策が必要である。盛岡市が一体感をもてるような取組を期待する。
	ふれあいランドのような気軽に運動できる所がもっとあると良い。
	公共体育、スポーツ施設を充実させ、生涯スポーツが活発なまちとしてPRする。
	「数十年後を見据えたまちづくり」のために、現在の問題点に取り組むとともに、数十年後の盛岡を考え、今から取り組んでいくことが望ましい。特に健康面であり、今から子どもたちに楽しい運動を提供し運動習慣を身につけ、生涯健康に暮らすことを目指す。
	新しい市営野球場の整備を次期総合計画に入れてもらいたい。
	総合運動公園や安価の宿泊棟を整備し、生涯スポーツ等に気軽に参加し、健康づくりが出来るような施設やスタッフがいたらよい。
4	盛南地区は、大学、医療、スポーツエリアとして発展させ、盛北・玉山地区は、啄木の文化的な魅力を掘り出し、姫神山麓の金山跡地の再現、登山道を作り、観光ルートを指定する。
5	城跡公園、銅像の台座、啄木の歌碑等、活かせる物は活かしてほしい。まだ掘り起こせるものも沢山ある。
	歴史と文化を大切に、眠っている資源（観光資源）を掘り起こそう。人を呼び込む活動をもっと活発に、宣伝活動が必要である。

●施策の柱 IV 共に生き未来を創る教育・文化

施策	内容
5	市中心部のよさ（歴史，自然，経済活動が調和したまち）を守り続けること。
	生活に深みを与えているのは，人間関係や土地特有の歴史文化である。人とのふれあい，文化に根ざした市として，盛岡をベッドタウン化させてはならない。
	盛岡市は自然に恵まれ歴史文化が息づく都市であること。北東北３県との観光産業の協力発展に努めること。
	史跡等が市街地内に大切に保存されていて見所が多いこと，公共施設（博物館，美術館，アイスアリーナ，武道館等）が充実していることをPR。
	今ある観光資源を観光客が満足できるように保存，復元して充実を図る。

●施策の柱 V 活力ある産業の振興

施策	内容
1	若年人口が流失しないように、農林畜産育成機関、零細企業（技術者養成）エリアの設立。
	素敵なまちづくりと希望を持てる農業振興にもっと力を注ぐべきである。太田は農業振興地域に位置づけているが、地価が安いので、土地を担保に農業施設に投資したくとも出来ない状態なので、市民が安い土地を買って住宅を建て、住める地域とし、理想の地域づくりのモデルにしてほしい。
	第1次産業の後継者を育てていく工夫も必要である。
	豊かな自然環境を活かしたまちづくりと、農林業を核とした産業の育成で事業活動をしたいまちに。
	地域農業（地産農業）の維持の為に、生産したものを直接市民が手に入れられる「市」を促進し、健康的で安心できる食生活の充実をPRする。
	耕作放棄地増加を感じるので、もっとこれを上手に活用する手段（貸農園でコミュニケーション、レクリエーション等）について、皆で考えていく必要がある。
	産業に指導力を持ってほしい（特に農林業従事者への指導と支援）。
2	ILCが国際決定されれば、盛岡市はいち早く「国際教育都市」を目指し、国内外に宣言、行動すべき。市役所内に産学官合同の「国際教育都市準備室」を設けることを提案。
	他との差別化が顕著な産業活動があれば、元気な盛岡になる。老人のための産業等、少しでも財政が上向き方法を考えなければならない。
	地元の人誇りに思える商品、産業、サービスなどの開発・PRをしていく。口コミでそれらを広めることができればそれを目当てに来客が増え、地元自信を持つ人が増える。そうすると若者の就業率も上がると思う。
	自然環境と生活圏の調和の取れた市を目指し、第3、4世代を呼び込めるような地域の特性を活かした産業育成が必要。
	企業としては経済情勢の活発化、躍動を求め、また居住する市民にとっては安らぎを求めるものと思われる。「躍動と安らぎの融合を求めたまちづくり」を期待する。
	子育ての可能性（夢）が広がるまちとして、学力対策や全国にアピールできる文教施設が実績を上げるよう助成や誘致を行い、IT産業や先端産業が起業できるような優遇施策等を検討すること。
	研究開発分野や工業、化学系に進む子どもたちの職場が無い為、優れた人材が流出している。二次産業も環境を壊さないよう導入してほしい。
3	若い世代へのアプローチの為に、行政が主体となり、思い切った子育てプランと産業のタイアップが必要である。今後は盛岡の利便性が仙台を上回り、東北の産業の中心地となる。沿岸との交通網の整備にも力を入れ、活性化すれば人口流出も防ぐことができる。産業が根付けば、安心して子どもを産み育てていける安心感が、「子育てにやさしいまち」となる。
	ビジネス環境の整備に取り組んだ上、市内外へ発信していく。
	大型スーパー規制、地元商店街の復興。
3	入りやすい商店を作る努力をし、歩くだけでも楽しい大通りを目指す。
	街中や商店街は活気がなく、人通りも少ない。大型店のみならず近くにちょっとした商店があるようにする。

●施策の柱 V 活力ある産業の振興

施策	内容
3	人口減少を迎える中、バランスのとれた効率を考えたまちづくりが必要であると同時に、地域間格差の問題がある。松園・玉山地区の人口減少、盛南地区の人口増加による「南高北低」の形になっており、中心市街地の活性化が急務である。
	大通り商店街に無料駐車場を確保し、土日は歩行者天国に。
	工業都市を志向する必要はなく、盛岡市らしくエリア（文化・教育圏、商業圏、生活をする静かなまち等）を作り、まちづくりを進めてほしい。
	商店主が思い切って魅力ある商いができるよう、商業地域に行政がもっと助成してほしい。
	中心市街地に若者が集まるまちは将来的にも強い。公共交通機関が有機的に機能していくまちをつくってほしい。
	郊外ばかりが発展し、繁華街に人が集まらないのでは意味が無い。もっと中心地に魅力を持たせるようにしてほしい。
	たて型の建物、大型店舗の増加により風通しが悪く、冬は道路の凍結がひどくて歩くのが大変。個人の店はシャッターが閉まっている。今の市内が徐々に住みにくく自然を失っているように思える。今の市内に魅力があるか、もう一度原点にかえて考えるべき。
	若い世代の人たちが希望を持てるよう、市内中心部に無料の駐車場を作り、商店街に沢山の人が行き交い、賑やかで活気あるまちづくりをしてPR。
	自然環境の豊かさと経済的・商業的發展が共存できるのが盛岡市の魅力だと思う。
	経済活動が活発で、住みやすい、人に優しい自然豊かなまちとしてPRする。
	大通りに「入ってみたい」と思わせる魅力がほしい。ベンチがあったり、物売るだけの人とのつながりより、商売のゆとり、コミュニティがほしい。
	中心市街地の利便性を生かし、市民が集えるまちづくりを希望。
	中心市街地の商業活動を充実させ、生活弱者が暮らしやすいまちづくりが必要。
	盛岡中心街の活性化を図り、地元商店による経済活動ができるようにしなければならない。また、北東北の流通拠点としての整備と産業の活性化が必要。
	市中心部のよさ（歴史、自然、経済活動が調和したまち）を守り続けること、大型ショッピングセンター進出で中心部の活動を衰退させないように努力することが大切である。
	多くの町内で空き家、商店の閉鎖が増えている。それらの活用の方策も大切。
	街の中は、道路を広くし無料駐車場があると良い。大型店は高齢では行けず、不便である。大通りの活性化が必要。郊外より街に入るバスは駐車場を増やし、様々な所から乗り降りできるようにしてほしい。
	第3次産業従事者が多いので、各団体等の全国大会の誘致やその為のインフラ整備が必要。また、市街区域のバスルートの再考や盛南地区以外の人口減少、再利用の検討等、課題も多々あるので近郊の町村へ企業が流れないようなまちづくりを期待。
	年代層に応じた接客にも配慮し、その時代を醸成する人々を学び、見識を備えた接客を重ねることが肝要である。堅実、地道なもりおか人であった活動、地域を支えて働く人々のこと、地を活かした商いを。
	市内商店街（特に大通り）の活性化を。表通りに飲食店（主としてアルコール提供店）が多く存在するまちでは、市の言う「歴史と文化の息づくまち」にはふさわしくない。

●施策の柱 V 活力ある産業の振興

施策	内容
3	郊外と中心街との住み分けをもっと大胆にすべき。この際、市役所は郊外に。大通りは、歓楽街と教育文化施設の共存を考え、歓楽業界には条例を作って規制し、リフト面では地元の産業を後押しするルールや条例（食材や飲料、物産を半ば強制的に使わせる条例や税の優遇等）を考えることが必要。今の盛岡には、外貨や人の交流が必要であり、そのための経済の力が最重要である。
	中心市街地の商業活動の活性化を図り、郊外地の商業活動との調和を進める。
	大通りや肴町等商店街を全天候型の大規模モールに（商店の更なる集約化と広大な駐車場確保）。
	盛岡駅～盛岡城ラインが盛岡市の顔と言えらると思うが、盛南開発が進んでゆくにつれ賑わいがなくなっていると思う。
	活動の中心が周辺部に移り、中心部に住む住民にとって（特に交通手段の無い住民にとって）住みづらいまちになっていくと思う。
4	食文化、観光の拠点としての盛岡の充実をPRし、宿泊する形の観光を目指したい。
	数多くの史跡や寺院をガイドブックによって巡るコースを作り、盛岡を回遊できることをPRする。
	温かい心の触れ合う、市民が観光ガイドをするまち。
	ガイドによる効果的なPR、口伝えを行う。仏跡や産業、県立博物館等は発着できて行きやすいことが大切。先人記念館や子ども科学館など区切らずに、バスでの移動がスムーズに行けたら便利。
	盛岡広域圏の観光資源をPRする。
	歴史文化を大切に、行政主体ではなく民間の力を大きく利用すれば、観光面で伸びていく。
	盛岡には「あれ」があるから毎年行きたいという、市民サイドに立った年行事がほしい。
	観光マップや案内人等、旅行者に知らせるものがほしい。
	中心街活性化の点から「手作り村」のように盛岡の特徴を活かした老若男女が集える「人の集う仕掛け」を創意工夫し展開する。イベントもさんさ踊りや地域の芸能も催す等、集客企画も膨らむのでは。商業の場として工業地域の方々を集客し、活性化に繋げる工夫も必要。
	冬期間にイベントを行い、観光の集客力アップを図る。
	新たな観光資源の創造。観光イベントの工夫。盛岡市シンボルの確立。
	他県から訪れる方がまた訪れたいような観光スポットを作り、歴史文化のある土地をPRし、他県の方が予備知識をもって訪れてもらえるようにしてほしい。そういったものが市内に多数あり、公共交通機関を利用して観光できればよい。食に関しても三大麺の他に夕食に適した名物があればよい。
	市内だけではなく小岩井、八幡平周辺もあわせた広域の観光PRを、交通の利便性とあわせて全国、海外に行っていくべき。
	観光については、駅構内に観光案内所を設けてほしい。事業活動については、駅前で安価な事務所の貸し出しを行い、交通手段については、城跡や博物館、旧中心街等が散在しているので広島や熊本のように路面電車を走らせて移動しやすくする。
	他県の人に何かひとつアピールできるようなものに取り組んでほしい。

●施策の柱 V 活力ある産業の振興

施策	内容
4	平泉時代からの歴史文化を発信した観光振興を行い、自然景観を重視した拠点づくりとPR強化を図る。
	盛岡市は城下町のなごりと自然の調和がうまくとれたまちだが、道路が狭く、わかりにくいまちでもある。観光客が目的地にわかりやすく間違えることなく行ける事が大事である。病院内部のように各種の色の線で目的地まで行ける様にできればよい。
	桜の名所（石割桜、米内の桜、小岩井の一本桜、姫神の桜）のPRや外国からの観光客を増加させる対策（看板や宿泊施設）をしてほしい。
	盛岡駅東口に人口地盤をつくり大通り方面まで地下道を設置する。さんさや鬼剣舞等民族芸能をバリ島の如く多くの観光客を呼び込めるよう再構築する。
	駅前タクシー運転手の指導（観光ガイドできるように）や観光バスガイドを充実させ、市民の歴史や自然に対する考え方を変える。また、観光都市としての意識を市民全体が共有し、ボランティアガイドの育成を行う。市長以下観光に対する考えをしっかりと持つことが何より大切であり、観光地での研修も必要である。
	街角に案内人を配置。ガイドを育成する研修を行う。
	関東圏へのアクセスも便利商業施設も整い、レジャーも楽しめ、住みやすい。訪れたいと思ってもらえるように、三大麺、特に盛岡冷麺を全国的にPR（味比べ）するべきである。
	「市民一人ひとりが観光大使に。」転勤族の私は何度と無く盛岡の良さを感じることがある。今までその魅力を伝え、提供してきた地元の人々の営みがある。こういった活動や盛岡に住む人一人ひとりの気持ちを積極的にPRしていけばちょっと変わった観光案内もできるのでは。
	盛岡市内の各種施設や観光名所の案内標識について、外国語表記と目的地までの距離や方向を交えた誰にでもわかりやすい標識に改め、設置箇所も増設し、市内外から歩きやすく親切なまちという印象を持ってもらう。
	観光PRも不十分であり、観光協会が前面に出て、他都市の例を参考にした指導・教育が必要ではないか。
	市長が謳ってきた観光立市を前面に打ち出してほしい。観光客を受け入れる市民の対応、もてなし方に力をいれていきたい。特にタクシーの運転手の方々へのアプローチが重要。「盛岡人は暖かくて素晴らしい。」と言われる立ち居振る舞いについて、私たち多くの市民の心がけが大切。
	歴史と文化を大切に、眠っている資源（観光資源）を掘り起こそう。人を呼び込む活動をもっと活発に、宣伝活動が必要である。
	県と連携したアンテナショップの活用。
	盛岡の人間性（おもてなしの心、やさしさ）、まちが持っている豊かさ（自然、山、川の風景）、交通のアクセスが良い（新幹線、空港、高速道）、海の幸・山の幸が味わえる、日本酒の蔵元が多い（盛岡広域圏）、「退職後の人生は盛岡で」をアピール（本当に住みよい点をPR）。
	中津川の観光化を図る。
	宮沢賢治、石川啄木の観光コース化（周辺市町村と一体で）。
	恵まれた自然、歴史的建造物、様々な祭りを活用し、来盛客を増やせるようにしたい。
	盛岡城跡公園からの展望を妨げないまちづくり、観光と経済力のあるまちであることが必要。

●施策の柱 V 活力ある産業の振興

施策	内容
4	盛岡や三陸産の食材を生かした「名物，うまいもの」の開発。
	三大麺に続く食べ物で盛岡をPRしたい。
	行事や祭典をもう少し整理してほしい。盛岡らしさが失われていくようで淋しい。
	盛岡の3つの川を利用した水力発電や水上での冷風食堂施設，水上散歩橋などの観光を考えたい。
	温かいおもてなしの心にあふれているまちであることをPRする。
	多くの池や人工湖がある立地条件を活かし，「緑の湖水めぐり（高松の池→四十四田ダム→岩洞湖→綱取ダム→御所湖・温泉）」を設定してはどうか。是非訪ねてみたいと思わせる絶対的な対象，財政上難しいかもしれないが，例えば，盛岡のスカイツリーや城跡に威容を誇る不来方城の建築など。
	安全で，美しく豊かな自然，歴史と伝統に育まれたまち，温かな人情は全国に誇れる盛岡の財産。これに三大麺等の食，ILC等大規模プロジェクトの可能性等，将来とも夢あふれる盛岡の魅力を様々な場面で積極的に発信していく事が大切。
	商業都市としての魅力を拡大し，様々なイベントで集客を図る。
	岩手県は豊富な観光資源を持っているが，整備活用が他県に比べて劣っている。観光でも宿泊拠点となるように努めるべき。
	もっと優しいまちづくりが必要であり，細かい点に気配りがほしい。例を挙げると表示看板がわかりにくい。一つひとつ丁寧に発信し，おもてなしの心でPRしてほしい。
	地元の郷土芸能・観光の素晴らしさをPRする。
	自然災害も少なく，四季折々の風情を堪能できる風光明媚な地であり，人情味溢れたまちであることをPRする。
	観光バスをみかけない。観光資源を活かし盛岡の財源を豊かにし，社会保障の充実につなげてほしい。
	訪れたいと思われるためには，歴史，文化，観光拠点巡りが容易に出来るように方策を考えること（来訪者には極めて不便）。
	観光名所の整備，岩手公園を名称変更するだけでなく整備し（春は桜や紫陽花，夏はバラ，秋には〇〇というように），人々が集う場所にする。名産品も「1か所でのみ手に入る」とすると経済効果があるのでは。
	地域の特性を生かした産業，忘れられない味，国際化の進展に備えて市民の心構えを持つこと，元気な高齢者に活躍してもらうことやおもてなし等をしてもらうことを実現し，PRする。
	訪れたいと思われるには，盛岡駅等駅前に市内名所，施設の紹介とアクセス方法の掲示が必要。
	訪れたい，行ってみたい方に対しては，祭り，行事の充実，資源を生かした物産の振興，観光キャンペーンによる観光客の誘致と受入環境の整備，今ある魅力を知り，活かして発信していく必要がある。住んでみたい人々には受入態勢を整備していく必要がある。空家等の利活用を図るため，法整備を図ってほしい。
	盛岡の立地を生かした観光振興が市の財政健全化にも役立つのではないかと。商品だけの「盛岡ブランド」ではなく，来て見て楽しい，別の面のブランドづくりを進めては。例えば（先人，郷土食，古仏寺等の）市内ツアー，ボランティアガイドの養成，自転車ロードの拡充，修学旅行のコース作成（業者コンペ等により吟味），全国一を集めた祭り，高校生大会等が考えられる。

●施策の柱 V 活力ある産業の振興

施策	内容
4	税収が上がり、市民と公務員の意識改革が進めば、市民ニーズに応えられて、住み続けた いまちに変貌することは必然である。そのために、観光にオールシーズン最適な北東北の 国際交流拠点都市に発展させること（年間を通じて豊かな自然観光や食文化、盛岡の先 人、近隣に温泉宿泊施設が多数存在していること等をPR。盛岡から県内の観光地へ行け るモデルコースを設置して広域観光の拠点のイメージを国内外にPRする。東京オリ ンピック開催を視野に、ごみ集積所の改善をし、きれいな盛岡を目指す。）、盛岡動物公園 のPRに力を入れて、展示物内容の充実や植物園の新設、ポイント制度の導入等により、 誘客を図ることを提案する。また、市内で得た収入は、市内で支出してもらう「経済還 流」を心がけることが、みんなが住んでいける市勢発展の原点である。
	県外市外から来られた方には魅力的に映るかもしれないまだ掘り起こされていない県内各 地に眠っているご当地ものを発掘すべきである。表紙のキャラクター「モリィ」も初見、 わんこきょうだいのように周知徹底すべき。
5	希望をもって働ける仕事があること、活発な経済が行われていること、人口動向の推移を 先取りした行政対策が必要である。
	子どもたち、高齢者の方々が住みやすいまちづくり。そのために、子どもや高齢者の方に 携わる若者達が労働条件や環境的に意欲的に毎日を過ごせるような行政面でのバックアッ プが重要。
	働く場をつくるために、新たな企業誘致や新規産業の開拓促進等、経済の活発化が必要。
	空き家、空き地対策。若者が定着できる雇用の確保。
	他市町村や県外に就職を求めなくても良い種の産業の発展と雇用の充実を図る。
	安全安心な食糧生産と食品工業の連携を重視した経済施策、3次産業中心の産業振興に 1、2次を効果的に組み合わせた産業構造を確立する。働く場所の確保で人口問題の解決 に結びつける施策が大切。
	北東北拠点都市として政治経済の出先機関誘致や受入れ基盤の整備、恵まれた自然環境と 調和したまちづくりを行う。
	第二次産業の立地促進のための受け皿を整備し、事業活動したいまちとしてPRする。
	若者の定住にむけ大企業の生産工場を安い地価の場所に誘致する。
	企業誘致を推進するまちとしてPRする（震災にも強く、企業のリスクを分散する上でも 必要。）。
	経済面にも力点を置き、立地条件を活かした流通拠点としての企業誘致（工場ではなく事 業所）を積極的に行う。
	第2次産業など働く場所が少ない。
	行財政の健全化を見込むためには、企業の誘致と産業拡大が必要条件である。
	郊外の過疎化対策として工業団地化などの整備が必要。
	若い人達の働く場のあるまちにして、住み続けたいまちとしてPRする。
	経済活動が活発で雇用が生まれる、人々が集まるまちとしてPRする。
	「若者が定着し、活気あるまち盛岡」を目指す。地域の特性を活かした産業活動、若者が 定着し安定した雇用の場、労働環境の整備が課題。
	働く場所が少なく、人口が増加していないので、第3次産業だけでなく第2次産業も積極 的に誘致すべきである。

●施策の柱 V 活力ある産業の振興

施策	内容
5	事業活動に適した空間が多いことを知らせるべき。東西南北への交通の要であること、盛岡市が地図上のどこにあるのかについてのPRが必要。
	年代に偏らない施策が必要。高齢者には安寧，若者には仕事を。そのためにバリアフリーのまちづくりを進めること，保健福祉の充実，起業家や小規模事業者向けの税制や不動産面への優遇措置を講じてビジネスのしやすい環境を整えることが必要である。元気に活躍する現役世代を増やすことこそ若年層への好影響を与える施策。
	工業団地の拡大とものづくりのまちづくりの推進。
	若者の雇用促進に努める。
	企業誘致を強化し，人口を増やす事が第一。企業，人口が増加すれば活性化し，必然的に医療や教育，環境等が充実してくる。
	市有地，私有地を含めて遊休地の活用をPRし，積極的な企業誘致の推進を図り，地域の活性化に努め，魅力ある地域づくりを進めたい。
	2次産業の誘致や起業にも力を入れ，就業人口を増やしてほしい。
	交通の利便性をPRし，企業誘致を行い，若者の働く場所を提供する。また，盛岡の交通だけでなく県内，各地方からの交通の利便性にも参画し，盛岡に来れる体制になるよう発言していく。
	若者が定住するまちとしてPRする。
	まちづくりの前段として，人口の流出防止，集客力の増強のために，立地条件の確保が不可欠である。そこで，県北地方の山を平坦地にし，企業誘致や諸施設の建設に役立てる等，県北の開発に注力すること，国有地の代替を検討することを提案する。

●施策の柱 VI 環境との共生

施策	内容
1	第一に「きれいなまち」であること。建造物は勿論、路上にゴミが落ちていない、雑草が生えていないことが基本である。
	先祖の墓守をする人も少なくなるので、公共の共同墓地を作ってはどうか。
	歩行喫煙とポイ捨ての根絶、街の美化のため禁止条例を一刻も早く制定されることを要望する。
	路上のごみを無くす、道端の草刈り等、環境の整備に力を入れる。こうしたことを実現していくためにも、社会教育が大切になる。
	道路にごみがない、山、川、景観は最高、美しいまちであることをPRする。
2	京都のように高層ビルを禁止し、川を活かしたまちづくりなど、街並みと自然をPRする。
	自然が豊富なまちなので、落ち着いてゆっくり生活できる特徴を活かす事が大切。
	中津川にオイカワを放流する。
	天賦の自然のみでなく市街地にも豊かな自然があることをPRする。
	内部環境（文化・風土・環境のきれいさ）の強みを活かしたまちづくりを目指すべき。基本インフラとして整備すべきもの以外の分野は集中と選択が必要。それが個性、特徴に繋がる。盛岡の魅力は、程よく都会で、緑や水がきれいで食べ物が美味しく住みやすいまちであること。人造物と自然の調和がポイントとなる。市民の教養を培養する施策も必要。盛岡のよさや幸せのカタチを住民参画型のワークショップで議論してもよい。
	自然環境、生活環境が優れ、快適な暮らしが実現できるまちとしてPRする。
	自然と街並みが調和したまちをこれからも維持していけるよう、環境を考えたまちづくりをアピールしてほしい。
	美しい自然と近代的な都市機能が調和したまちづくりを皆の力で推し進めていかなければならない。
	北の小京都としての自然と落ち着きのある都市であることをPRする。
	市民を取り込みながら、盛岡の自然、街並みの景観、歴史等の積極的PRを多様に行う。
	水と自然を売り物に、目に見えないサービスの提供が求められる（盛岡市のシンボルを作りたい）。
	中津川に鮭が上ってくる事をもっと大々的にアピールし、市の清潔なイメージを作る。
	四季の移ろいが心に爽やかなまち、人も鮭も住みよい水のまち、暖かい心のまち（ハートが強くつながる）、そば・鉄瓶・染物等、今も南部の歴史が息づくまちであることをPRする。
	自然環境の豊かさと経済的・商業的発展が共存できるのが盛岡市の魅力だと思う。
	四季折々の美しい自然、心豊かで情の深い人柄をPRする。
	水と緑等の自然を大切に行政と市民の協働によるまちづくりを積極的にPRしていくべきである。
	自然環境を維持し、市内各所に緑があふれるような街並みの整備がなされた盛岡市にしなければならない。
	自然の醸し出すゆったりとした雰囲気、盛岡の景観をを保つことができれば住み続けたい、住んでみたいと思えるまちだと自信をもっていえる。

●施策の柱 VI 環境との共生

施策	内容
2	広域的観点から、交通の拠点としての利便性，教育や文化水準の高さ，自然環境を前面に出し，「人間らしく落ち着いた心穏やかな生活ができるまち」としての魅力をPRする。
	清流と花壇のある街並み，背後に見える岩手山（開運橋から）をPRする。
	川と山に囲まれたまちもりおか，そのコンセプトに基づいたまちづくりに今後ともご尽力願いたい。
	盛岡は水と緑の自然豊かなまちである。人間関係も優しく環境重視のまちづくりをPRしてもらいたい。
	豊かな自然を楽しむまちづくり（高松の池から玉山地区への遊歩道，サイクリング可能な遊歩道の整備等）。
	潤いやゆとりが持て快適に暮らせるまち（豊かな自然環境や人情に恵まれ，食文化も多様），訪れたいまち（四季折々のイベントや歴史，文化）としてPRする。
	山と川に恵まれた盛岡は環境に優れたすみやすい地。この優位制を大いに生かし自然と共生できる街づくりや人づくり（学園都市）を期待。
	町内を流れる川，橋，橋の上から眺める山々，透き通る水，最高の安らぎのまちである。
3	エネルギー自給率が20%しかないので，自然エネルギーを強化したまちづくりを目指す。
	自然エネルギーを有効利用していることも内外に示せるまち。
	働きやすい環境を作るとともに，新卒の若い世代がずっと住めるような産業の充実や新しい環境にやさしいエネルギーなどを考えなくてはならない。
	エネルギーの整備充実。
	再生可能エネルギーを活用した地球に優しい技術の開発と実用化を進め，住みやすいまちに。
	盛岡の3つの川を利用した水力発電や水上での冷風食堂施設，水上散歩橋などの観光を考えたい。

●施策の柱 VII 快適な都市機能

施策	内容
1	空き家、空き地対策。
	素敵なまちづくりと希望を持てる農業振興にもっと力を注ぐべきである。太田は農業振興地域に位置づけているが、地価が安いと、土地を担保に農業施設に投資したくとも出来ない状態なので、市民が安い土地を買って住宅を建て、住める地域とし、理想の地域づくりのモデルにしてほしい。
	市街地内で医療、買い物等を満足して行えるコンパクトなまちを期待する。
	盛岡のまちづくりは方向性が見えない。盛岡城跡公園を整備したり歴史文化館を整備する一方で、近隣の超高層マンションの建設を許可したり。岩手山の眺望や川筋を重視しながらマンション建設許可をする。このまま行けば盛岡は雑居的なまちになってしまう。「もりおかしさ」を再び考え、今後の方向性を再検討してほしい。
	東北各都市に比べ保健医療の水準が高いことや中心街やその周辺の商業施設、公共交通機関の整備状況を踏まえて「コンパクトで住みやすいまちづくり」をPRする。
	地価の安い土地を市街地で活用することにより、低所得者層も住宅を建てることができ、過疎化が解消される。
	地域格差の無い、中心部に集中しない全体が住みやすいまちづくり、若者が地元を離れないような地域住環境の整備が必要である。現在のままでは高齢者の地域がどんどん多くなってしまう。若者にとって魅力的な地域づくりをお願いしたい。
2	50年後を見据えた街並みデザイン（住宅・建造物のデザイン統一。広告看板の美化等）、中央通りをシャゼリゼにする等、街としての魅力づくり（ヨーロッパ古都のように瓦、白壁で統一）を行う。
	京都のように高層ビルを禁止し、川を活かしたまちづくり等、街並みと自然をPRする。
	山・川・緑とマッチした都市景観の保持（街中から岩手山が見えるように）。
	内部環境（文化・風土・環境のきれいさ）の強みを活かしたまちづくりをめざすべき。基本インフラとして整備すべきもの以外の分野は集中と選択が必要。それが個性、特徴に繋がる。盛岡の魅力は、程よく都会で、緑や水がきれいで食べ物が美味しく住みやすいまちであること。人造物と自然の調和がポイントとなる。市民の教養を培養する施策も必要。盛岡のよさや幸せのカタチを住民参画型のワークショップで議論してもよい。
	川のあるきれいな城下町、古い街並の景観を守る努力が必要。「寂れたもの＝活性化させる」ではなく寂れたものの中に田舎のよさを見い出すことは出来ないか、不便なことが却って良いことだと思う。
	北の小京都としての自然と落ち着きのある都市であることをPR。
	バスセンター等、昭和の雰囲気が残っている場所は将来残し、PRしたほうがよい。
	普段ぐらしが美しいまちとしてPRする。
	市民を取り込みながら、盛岡の自然、街並みの景観、歴史等の積極的PRを多様に行う。
	中心市街地や旧街並み等、今ある盛岡の良いところを大事にして特長付けていくことも大切である。
	古い人たちの残した尊いものへの心配りと配慮を持ち、古きよきものを大事に大切にしている街並みを残すことが必要。
	今ある古きよき街並みを壊さず整備して、暮らしやすいまちとしてPRする。
	城下町としての落ち着いた景観やこれまで通りの自然環境に配慮をしたほうが良い。

●施策の柱 VII 快適な都市機能

施策	内容
2	自然の醸し出すゆったりとした雰囲気，盛岡の景観をを保つことができれば住み続けたい，住んでみたいと思えるまちだと自信をもっていえる。
	観光面では，自然環境とまち並みが調和するために，思い切って美観地区等を制定して再整備を図る必要がある。
	盛岡城跡公園からの展望を妨げないまちづくりが必要。
	住んでみて，歩いてみてほっとする街並みの保全，育成。マンションの建設制限，景観の保全を行う。
	貴重な建築物や街並みを開発という名のもとに壊さず，歴史あるまちづくりを期待。
	都市機能の充実に力点を置くべきである。滝沢市との協力関係を一層密にする事が大切。盛岡市は歴史・自然を生かした景観都市として，地道にその面の充実が求められる。
	盛岡駅から岩手山が見えないので高層マンションやビルは高さ制限を設けてほしい。
	景観に恵まれた美しい地方都市であることを自信を持ってPRすること。
	景観を考える上で重要だと思われるのは，信号機や電柱。特に電柱は景観を損ねるものだと思うので，何とかしてほしい。
	盛岡の魅力は旧市街地に多くあると思う人が大部分を占める。この地域は少子高齢化が進行する中で元気の無い街になってしまう事が懸念される。歴史・文化・水・緑といったPRポイントはそこで暮らす人達の生き生きとした姿があってこそであり，実現に向けた施策を実施し，その成果をPRすることも必要。
	城下町と近郊農村の二つの側面を活かしつつ，かつ有機的に結合されなければならない。四季折々の風情が楽しめ，人々が安心して暮らせるまちづくりを進めてほしい。
	自然だけがあるというのではなく，近代的な物（建）との調和があると良い。人口密集地のような地域も無く，綺麗な清い風が吹き抜けるところが住みたくなるところ。ただし，足が無い（交通バス）のは心配。
3	昔からある街並みを活かしたもてなしの心があれば。そのような機会を作れる事業を展開してほしい。
	中津川沿いの静かな景観と連なる近代的ビルを併せて表示する事で静かさと便利さをアピールする。
	南部片富士と姫神山を遠望するバランスのとれた高屋建築をすること。
	除雪対策を万全にし，年をとってからでも盛岡に住み続けられるように。
	降雪地なので冬の除雪を迅速に行うなど，雪に強いまちをアピールしたらよい。
	春から秋は快適だが問題は冬季。除雪がスムーズにできるよう雪捨て場の確保，整備，道路の安全性が向上すれば「住み続けたい，訪れたい，住んでみたい，事業活動したい」まちになると思う。
	若い人が，盛岡に住み続けるには働く場所の確保が重要である。また，つぎはぎだらけの舗装道路を改良し，上田交差点の地下道は高齢者が通行するのが大変なので，工夫がほしい。
	冬の寒さへの対策が必要。
	観光客誘致のためには，街並み再整備や本町通の道路拡幅等道路網の整備を図り，市内を安心して散策できる道路づくりを行うことが急務である。

●施策の柱 VII 快適な都市機能

施策	内容
3	道路の整備，災害後の早期復旧，冬季間中の除排雪等，市の環境整備が重要。そこから街並みへの整備へと進んでいく。
	幹線道路に通じる道路整備が良ければ事業活動が盛んになり，色々な税が入ってくる。
	標識を整備する。
	冬期の雪対策，道路環境に力を入れていることをPRする。
	市街地道路の補修，改善が必要。
	盛岡の除雪は他の市町村に比べ「粗末・いい加減・遅い」の声を良く聞く。改善していただきたい。
	活動の中心が周辺部に移り，中心部に住む住民にとって（特に交通手段の無い住民にとって）住みづらいまちになっていくと思う。また，マンションが増え，中心部の一般住居に住む住民にとっては，景観のよさが失われてきている。
4	ショッピングや地元グルメ，公園がたくさんあり住むのが楽しくなりそうなまちとしてPRする。
	旧南部藩時代の町名を残して標示し，お城復元活動（一人1,000円募金）を有志を募って行う。
	観光の拠点として盛岡城を再現し，若者の定住に向け大企業の生産工場を安い地価の場所に誘致する。
	自然豊かな公園にもっと手を加え，訪れてくれた人々に自慢できるような公園にしてほしい。
	河川沿いを整備して閑静で（庵のある）散策の楽しめるまちづくりの工夫を考えていただきたい。
	全ての道路にごみを絶対に捨てさせない方法で美しいまちに，花の咲く場所を多く確保して人々にみせる。
	防犯面も含め多くの市民が長く住み続けるまちとなるため，緑と都市整備が両立した住みやすいまちをPRする。
	城下町をイメージできるよう，緑の中に文化や歴史が残り，近代化が溶け込んでいるまちにしてほしい。
	子ども，高齢者ともに安全で安心して活動出来るスポーツ公園をコミュニティ単位に設置する。
	城下町由来の地名等を復活し，標識も整備する。
5	水と緑の自然が豊かで上下水道が整備され，医療福祉，教育が充実，交通の要で便利なまちであることをPRする。
	日本一おいしい水道水と空気は誇れる財産である。
	上下水道などの住環境の整備が整っていることをPRする。
6	人が住むための根幹である部分（下水道）を整備することが魅力あるまちの大前提である。

●施策の柱 VII 快適な都市機能

施策	内容
6	公共下水道の普及速度を速めるべき。
	生活環境等の公共上下水道の普及率のアップに取り組んでほしい。
7	美しい自然と近代的な都市機能が調和したまちづくりを皆の力で推し進めていかなければならない。
	P Rではなくもっと積極的な住宅都市基盤整備を行うべき、良質な住宅地は市外のほうが現状では上のような所もある。
	盛岡駅東口に人口地盤をつくり大通り方面まで地下道を設置する。さんさや鬼剣舞等民族芸能をバリ島の如く多くの観光客を呼び込めるよう再構築する。
	新興住宅地について、街並みの景観を考え規制するなど、ゆとりをもったまちづくりを望む。
	盛南開発だけではなく、北（玉山）にも目を向けた発展が必要。
8	現状中心市街地の事業活動は厳しいので、発展を続ける盛南新都市の魅力をP Rしたらどうか。街並みも街区化され、交通や地域住環境の開発整備が進み、大型の商業施設が進出し、人口も増加傾向で、地域住民はもとより多くの市民が関係施設に立ち寄るなど一段と生活しやすい地域環境となっている。
	車の少ない安全に歩けるまちとしてP Rする。
	ガイドによる効果的なP R，口伝えを行い，仏跡や産業，県立博物館等は発着できて行きやすいことが大切。先人記念館や子ども科学館など区切らずに，バスでの移動がスムーズに行けたら便利。
	交通の便もよいまちとしてP Rする。
	少子高齢化社会に対応した暮らしやすいまち。安価で利用しやすい公共交通が整い，歴史文化に根ざしたまち。それらの姿を健全な財政で実現していくまちであってほしい。
	高齢化に合わせて，バスがどこでも走っているようにすべき。高齢者のためにもでんでんむしバスをもっと郊外まで行けるようにする。
	盛岡駅前の整備。でんでんむしのような乗りやすいバス路線を増やす。
	交通機関は小型バスでよいのでシャトル方式で休みなしに巡回，乗り放題に。
	住みよいまちとは，買い物の便，医療の便，教育環境，短期居住者がとけこみ易い等，生活の便が整っており，地域の安全が守られているまちである。自分たちの生活は，自分たちで作り守るという自助意識を持ち，盛岡の歴史，出身先人，周辺名所へのアクセスの便，教育，安全，水，御所ダム・四十四田ダム・岩洞湖の活用といった魅力をP Rする。
	道路の整備は10年以上前のものを現在行っているのでは遅すぎる。
	中心市街地に若者が集まるまちは将来的にも強い。公共交通機関が有機的に機能していくまちをつくってほしい。
	豊かな自然があり，歴史や文化が息づくまちであり，幹線交通の便がよいまちである。
	市内（川徳前～公園下）間の工事期間が長すぎる。
	バスで市内を回るのに目玉がない。盛岡駅を中心に，駅前の交通の整備や駅西側の活用等，変わっていくべきである。
	市内だけではなく小岩井，八幡平周辺もあわせた広域の観光P Rを，交通の利便性とあわせて全国，海外に行っていくべき。

●施策の柱 VII 快適な都市機能

施策	内容
8	観光については、駅構内に観光案内所を設けてほしい。事業活動については、駅前で安価な事務所の貸し出しを行い、交通手段については、城跡や博物館、旧中心街等散在しているので広島や熊本のように路面電車を走らせて移動しやすくする。
	観光資源を結ぶ交通網の整備が必要。
	公共交通（特に飛行機乗り入れ本数拡充と料金）の充実させ、バスを一回り小さくして便数を増やす。
	広域的観点から、交通の拠点としての利便、教育や文化水準の高さ、自然環境を前面に出し、「人間らしく落ち着いた心穏やかな生活ができるまち」としての魅力をPRする。
	盛岡駅前の拡大。
	道路網の整備と路面電車の走行、北上川と中津川を活かしたゆったり感のあるまちを目指す。
	郊外地域の交通対策（高齢者、弱者）、子どもを産み育てたくなる環境整備が必要。
	街の中は、道路を広くし無料駐車場があると良い。大型店は高齢では行けず、不便である。大通りの活性化が必要。郊外より街に入るバスは駐車場を増やし、様々な所から乗り降りできるようにしてほしい。
	生活の基盤である環境が他に比べて良いこと、交通の結接点としての新幹線、高速道路を利用することで首都圏からの移動時間が短いこと等をPRする。
	「車がなくては生活できないなんて不便」と引っ越してきた人はいう。そこで他都市との差別化のため、LRTの検討も含め、電車やバスの利便性をまちづくりの一環として高めていくべきである。田舎なのに便利、と思ってもらえることは企業にも旅行者にも大きなセールスポイントになる。
	バス等の公共交通でもわかりやすい案内等について、日々研究すること。
	道路事情及び信号待ちが多く、市内道路整備の改善、バイパスなどの立体交差化を望みます。
	観光地へのアクセスを更に便利に。
	高齢者が住みやすい交通網の整備（居住エリアからマイクロバスのような車両運行）が必要。

●施策の柱 VIII 信頼される質の高い行政

施策	内容
1	大企業にお金が行くのを防ぐ、箱物に税金を使わない、借金財政の改善等が必要。
	市の財政負担の軽減等、考えずにやるべきことをしっかりわきまえてやるべき。市と市議会が一体化して推進していくことを期待。
	経済活動の活発化、市の財政の健全化が必須。他との差別化が顕著な産業活動があれば、元気な盛岡になる。老人のための産業等、少しでも財政が上向く方法を考えなければならない。
	税金の負担を軽くすること。
	本庁舎の駐車場は狭く、遠方者は憂鬱である。駐車場が少なく、有料では不便。
	市の財政を立て直すこと。計画的に予算を組み立てる。
2	住んで安心、やすらぎ、活力が感じられるまちづくりをしてほしい。
	地域の特色を生かした拠点づくりをし、市中心のみならず、市全体に活力のみなぎる、均衡のあるまちづくりを進めるべきである。玉山総合事務所へ農林部を入れれば、均衡がとれる。
	まちづくりを考えたとき、玉山地区から都南と広く一体感を持った、広域の視点が必要。盛岡市の全体像が見える情報提供が必要であり、そのことが自分たちの地域がどのように変化していけば良いかを考える機会になるのではないかと。「マンションと居酒屋のまち盛岡」にならないでほしい。
	市民誰もが「住みたい」と思うようなまちづくりを進める。
	市の行政が市民に対して公平か検証する必要がある（許認可事務）。
	岩手県を中心都市としての活力あるまちづくり。
3	盛岡の魅力は、程よく都会で、緑や水がきれいで食べ物が美味しく住みやすいまちであること。人造物と自然の調和がポイントとなる。市民の教養を培養する施策も必要。盛岡のよさや幸せのカタチを住民参画型のワークショップで議論してもよい。
	安全で、美しく豊かな自然、歴史と伝統に育まれたまち、温かな人情は全国に誇れる盛岡の財産。これに三大麺等の食、I L C等大規模プロジェクトの可能性等、将来とも夢あふれる盛岡の魅力を様々な場面で積極的に発信していく事が大切。
	各業界からPRのCMを募集し、それをタイムリーに発信、専門セクションを設置することも重要。
	行政と市民の協働によるまちづくりには大賛成。町内会でも一地区のみのことではなく、連携を図り、協力と提言が必要。
	盛岡市シンボルの確立。
	水と緑等の自然とを大切に行政と市民の協働によるまちづくりを積極的にPRしていくべきである。
	安心して住み続けられる組織体制づくりが重要。そのためには行政側と市民との連携が必要であるが、現在の盛岡市の取組は具体策が希薄である。今後においては高齢者の提言も積極的に取り入れ、画期的な取組についての検討、市民の積極的な参加の具体策についてもお聞き入れ願いたい。
	街並みを維持しつつ、中心市街地の活性化と住環境・道路網の整備を進め、市民等の協働のまちづくりを本格化させる。

●施策の柱 Ⅷ 信頼される質の高い行政

施策	内容
3	市民との協働を唱えているが、本来は行政がやるべきことを市民に押し付けず、もっと積極的に市の発展のため取り組んでほしい。形式的な市民との懇談会は意味がないと考える。「市はここまでやるから後の部分は住民でやってほしい」など…。
	大規模災害への対応が早く行われ、安心して暮らせるまちづくりが行政と市民の協働によって行われるような組織づくりが更に必要。
	市全体が安心安全な生活を営み、常に市全体が明るく、豊かなまちづくりに勤しんでいることをPR。加えて市政運営方針に唱っている事項を広く深く実践していること、将来の夢、希望を持ち得ることをPR。
	市の考え、市長の考えを明確に発信していることが重要。
	盛岡の北部（玉山地区や松園地区）が納得するような施策を。また、地域協働に力を入れている地区も出てきているので、市の一層の公助を。
	もっと盛岡のよさ、盛岡らしさ、こんな盛岡市へといった想いを。子どもから大人まで魅力をアピールできるような、みんなに分かってもらえる事業の展開が必要。
	もっと市民・各地域の声や意見を反映し、まちづくりの計画を練る取組が必要。
	市民の生活満足度を亢進することが何より大切である。そのためには、住民との合意形成を経た上で、市としてのTop priorityを見定め、その実現を目指す方向性を定めることがより良い「まちづくり」の現実的方策だと考える。
	盛岡にしかないものをPR（さんさ踊り、ビッグブルズ、グルージャ盛岡）、盛岡を紹介する雑誌等の発行（事業活動や居住に視点を向けたもの）。
	住み続けたい、住んでみたいと思われるには、今の盛岡の良さをアピールするのも大切だが将来のため、こういう計画、まちづくりを目指しているという市の考えをPRし、知ってもらうことが必要。訪れたいと思われるには、ただ紹介しただけでは魅力を伝えきれない。体験することが一番ではないか。体験型施設やイベントの紹介、IT化の時代なので盛岡市のアプリを作成、スマートフォンで情報を発信するのも良い。
	排他的ではない「welcome」状態であることをどのようにか上手く表現したい。じんわりと盛岡のよさが浸透していくようなPR法を考えてほしい。
	県外から盛岡市に移り住んだ人達の意見、意向を聞きだし、PRする。
	市民活動が市民全体に知れ渡っていないと思う。もっと市民参加が増えるようなPRが必要。
4	市役所職員の不正事案が多い。
	行政は小さな問題も一項目ごとに解決して、絶対的な発展となるよう取り組んでいただきたい。
	市職員の地域活動参加の促進。
	共通する業務について各部の連携が取れていない。役所の縦割行政を改善し、風通しを良くしていけばまちづくりにいらぬ労力を使わず推進できる。
5	各支所の機能の拡大を図ってほしい。
6	現在の体制を地方自治法上の地域自治区とし、本庁に集中する権限を区の事務所に委譲し、住民に身近な行政はより住民に近いところで実施する体制にするべき（現在の出張所を区の事務所とし、権限委譲、コミュニティ組織やNPO、企業等とも協働、連携する。組織のフラット化）。
	周辺市町村との連携をとる。滝沢市との協力関係を一層密にする事が大切。

●その他（市政関連、アンケートに関する意見など）

内容
まずは魅力を作るべき。人には一つのみの魅力ではなく、多様な全体的にバランスの良い魅力が必要。
冬が厳しく長いので、生活力を向上できる施策が必要。
自然や伝統が豊かである一方、新しい取組にも積極的であることが重要。
1万人規模の集会を誘致できるよう利便性が良いところにアピオ級の会場を整備する。
何事にもすばやい対応が出来る行政をお願いしたい。すぐやる課の新設を望む。
情緒豊かな盛岡を具体的にPR。PR方法について、他から学んで実践していく。
10年後は岩手医大が矢巾町に移転する為、保健医療、教育文化でも東北最下位となり、生活環境が悪くなると思う。人口問題も悪くなると思うので早期に矢巾町との合併を進める。矢巾町との合併無くして盛岡市の将来の発展はない。
岩手医大の跡地は大型住宅団地にならないよう身近な人が集まることを考えたい。
隣人同士に助け合いがある明るい盛岡市をPRする。
一人ひとりの市民が満足感を感じるまちに。
まちを歩いて楽しめるようになってほしい。他県の人に、何かひとつアピールできるものを取り組んでほしい。
市議会議員の掲げた内容が実行できればPRになる。
魅力をPRする材料が減少し、人間関係も希薄になり、この状況ではPR不可。「人の輪」が第一歩である。
盛岡は寒さを我慢すれば自然豊かで食べ物もおいしい、心休まる良いところとよく耳にするので、こういうところを土台として自然と人々が集まる都市をめざしてはどうか。
市行政には「ホテル経営的」な明るく楽しいサービス行政をしてもらいたい。行政サービスのマンネリ化を避け、変化を。
最近職員の対応が迅速で丁寧で、非常に好感が持てます。
陸中海岸と八幡平との結びつきを深める交通整備。
雫石町と合併。
盛岡の売りである優しく温かい人情の周知、PR。人情味が感じられる地域であること。
地区の皆さん（多くは高齢者）は、自分の持っている機能を訓練し、穏やかに過ごしたいと願っており、地区での活動により、元気になったり、この地区に住み続けたいと思ってもらえている。若い人たちにも、その活動の輪は広がっており、住み続けたいと思える地区である。
地域格差の無い、中心部に集中しない全体が住みやすいまちづくり、若者が地元を離れないような地域住環境の整備が必要である。現在のままでは高齢者の地域がどんどん多くなってしまう。若者にとって魅力的な地域づくりをお願いしたい。
市長が行政として将来像をどうするか、どうしたいかを、理想をいうのではなく、それに向けた施策行動を積極的に目に見えるかたちで行うことが必要。
おもてなしの心を持って地域の方々が支えあって、幸せな生活を送れることを望んでいる。やる気・元気・根気。
経済や利便性等も大切だが、絆や結等の人間性を育み、住む人も来る人も和めるようなまちでありたい。

●その他（市政関連、アンケートに関する意見など）

内容
「都市の通信簿・主要35都市を採点する」（岩中祥史）より抜粋…盛岡市「かわいらしい町」こじんまりした造りが猥雑さを排除。
広域合併を再検討し、北東北の拠点作り。
議会議員定数の削減と併せ、活動費等の適正化による合理化の推進。
県の中央に位置する市として、都会にはない緑，人柄の温かさ，地域活動の良さ，周辺の方々には県の中で一番の生活利便性をアピールすると良い。
日本一の何かを作ることが集客には大事。
沿岸と盛岡がもっと短期間で行き来できるルート，方法を示す事ができれば，大きなアピールポイントになる。
余暇，娯楽を楽しめる施設の誘致や設備投資（民間の活用）。
自分たちが本気で市民のために考えたら答えはわかるのでは。
盛岡は観光やイベントなどの「非日常」を楽しむまちではなく「日常」のまちである。ふと目にする景色や，人々のたたずまい，まちなかの喫茶店や小さな居酒屋等，「日常」の居心地の良さを無意識に感じられるまちである。質の高い日常を小細工で壊さないまちづくりをお願いしたい。

Ⅲ ふるさとまちづくりアンケート

Ⅲ ふるさとまちづくりアンケート

1 調査の概要

(1) 調査の目的

盛岡市に理解のある市外在住者のこれからの盛岡市のまちづくりや将来像などに関する意見を把握し、その結果を新しい盛岡市総合計画に反映させることを目的としています。

(2) 調査の設計

- ① 調査対象 盛岡市外に在住する次の者のうち抽出された人
 - ・みちのく盛岡ふるさと大使
 - ・東京盛岡ふるさと会会員
 - ・在京盛岡広域産業人会会員（盛岡）
- ② 標本数 300 人
- ③ 調査方法 無記名式の質問紙調査。郵送による配布・回収
- ④ 調査期間 平成 25 年 8 月 30 日から 9 月 20 日まで（集計対象 9 月 30 日）

(3) 調査の内容

設問	調査項目
問 1	盛岡市の現況（優れているところ）
問 2	盛岡市の現況（力を入れていくところ）
問 3	盛岡市の将来像
問 4	考慮すべき社会の動向
問 5	まちづくりへの提言（記述式）

(4) 回収結果

対象者数	有効回収数	回収不能数	有効回収率
300 人	118 人	182 人	39.3%

(5) 報告書の見方

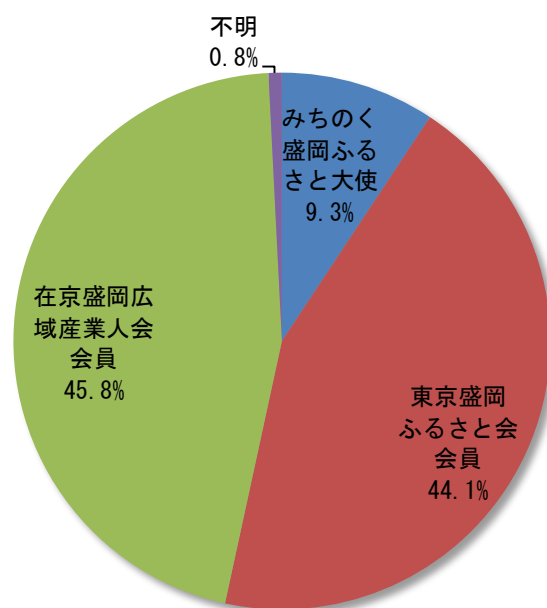
- ① 比率(%)は、各設問の回答者数を基数として算出しています。
- ② 集計結果はすべて、小数点第2位を四捨五入しています。
- ③ 設問は全て複数回答を依頼していますので、比率の合計は100.0%を超えます。
- ④ 依頼回答数を超える回答など、設問の依頼形式に沿わない回答は無効としています。
- ⑤ 無回答・無効は合わせて不明として表示しています。
- ⑥ 前回調査比較の図表は、平成15年7月に実施したアンケート調査との比較です。
前回調査と今回の調査では、調査対象者数、回収率は異なりますが、設問内容は同様にしています。

(参考 平成15年7月に実施したアンケート調査結果)

対象者数	有効回収率
167 人	50.3%

2 調査回答者 内訳

内訳	回答者数 (人)	構成比 (%)
みちのく盛岡 ふるさと大使	11	9.3
東京盛岡ふる さと会会員	52	44.1
在京盛岡広域 産業人会会員	54	45.8
不明	1	0.8



3 調査結果

(1) 盛岡市の現況について（問1、2）

① 優れているところ

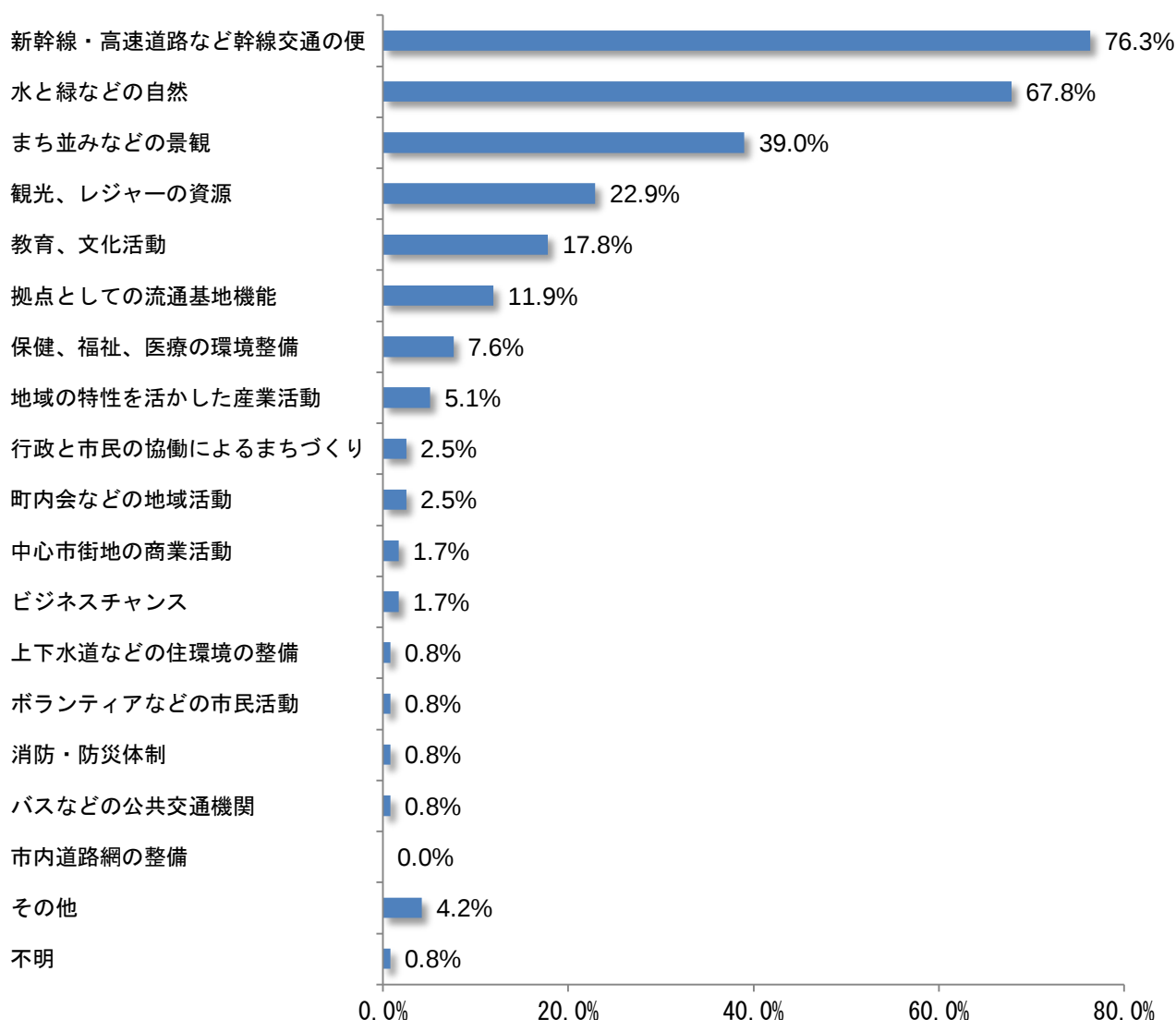
問1 東北の各都市と比較した場合、盛岡市が優れていると思われるところはどんな点ですか。次の中から3つ以内をお選びください。

●「新幹線・高速道路など幹線交通の便」が最も多い（76.3%）

・「新幹線・高速道路など幹線交通の便」を選んだ人が最も多く、次いで「水と緑などの自然」、「まち並みなどの景観」となっています（図表Ⅲ-1）。

・前回調査と比較すると、上位3項目は、今回の調査でも多くの人が選んでいますが、中でも「新幹線・高速道路など幹線交通の便」は、21.5%上昇し、76.3%と高い割合で選ばれています。東北新幹線が青森まで延伸されたことなどにより、交通の利便性が向上したことが考えられます（図表Ⅲ-2）。

（図表Ⅲ-1 優れているところ 回答者数 118人）



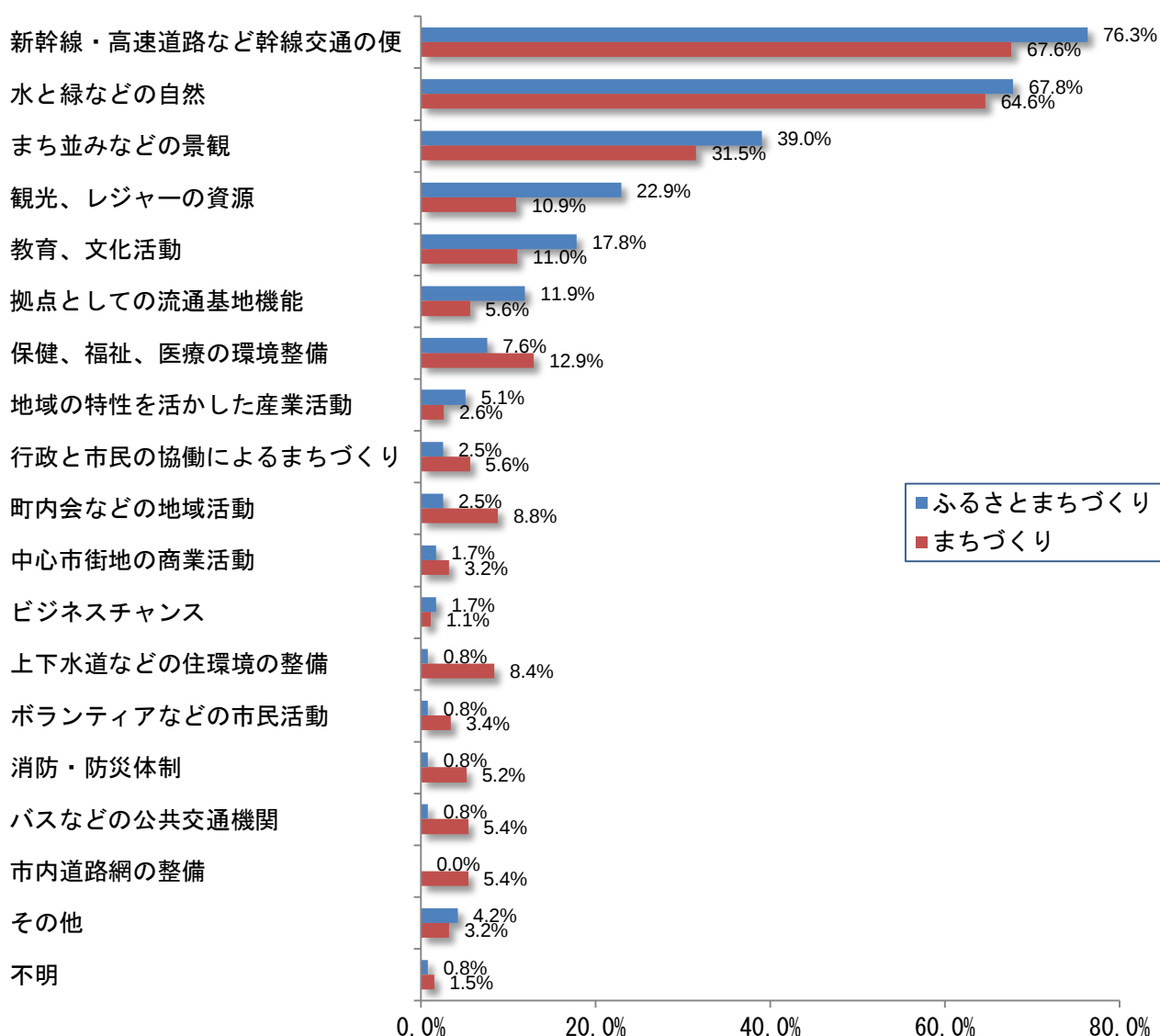
(図表Ⅲ-2 優れているところ 前回調査比較)

	前回 (平成 15 年 7 月調査)		今回	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1 位	水と緑などの自然	83.3	新幹線・高速道路など幹線交通の便	76.3
2 位	新幹線・高速道路など幹線交通の便	54.8	水と緑などの自然	67.8
3 位	まち並みなどの景観	35.7	まち並みなどの景観	39.0
4 位	観光、レジャーの資源	23.8	観光、レジャーの資源	22.9
5 位	教育、文化活動	19.0	教育、文化活動	17.8

■ まちづくりアンケートとの比較 (図表Ⅲ-3)

- ・上位3項目は、各アンケートで同様の傾向となっています。
- ・まちづくりアンケートでは、「保健、福祉、医療の環境整備」などの生活に密接に関連した項目を選んだ割合が高くなっており、ふるさとまちづくりアンケートでは、「観光、レジャーの資源」、「教育、文化活動」、「拠点としての流通基地機能」を選んだ割合が高くなっていきます。

(図表Ⅲ-3優れているところ まちづくりアンケート比較)



② 力をいれていくところ

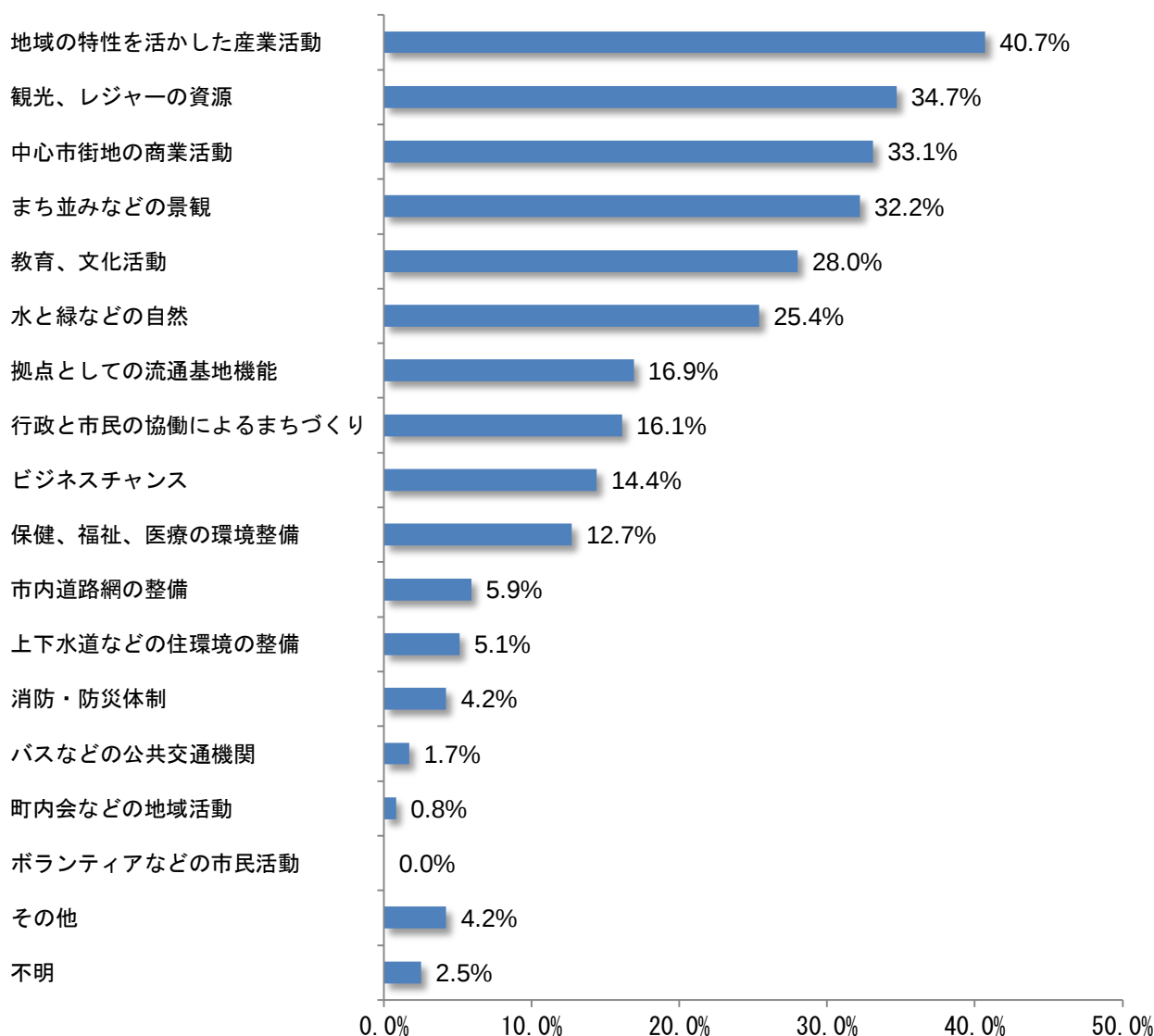
問2 それでは、盛岡市では今後どのようなことに力を入れていくべきだとお考えですか。次の中から3つ以内をお選びください。

●「地域の特性を活かした産業活動」が最も多い（40.7%）

・「地域の特性を活かした産業活動」が最も多く、次いで「観光、レジャーの資源」、「中心市街地の商業活動」となっています（図表Ⅲ-4）。

・前回調査と比較すると、前回1位だった「市内道路網の整備」が39.3%減少し、代わりに「地域の特性を活かした産業活動」、「中心市街地の商業活動」の割合が高くなっており、地域や中心市街地の活性化がより重要視されてきていることが分かります（図表Ⅲ-5）。

（図表Ⅲ-4 力をいれていくところ 回答者数 118人）



(図表Ⅲ-5 力をいれていくところ 前回調査比較)

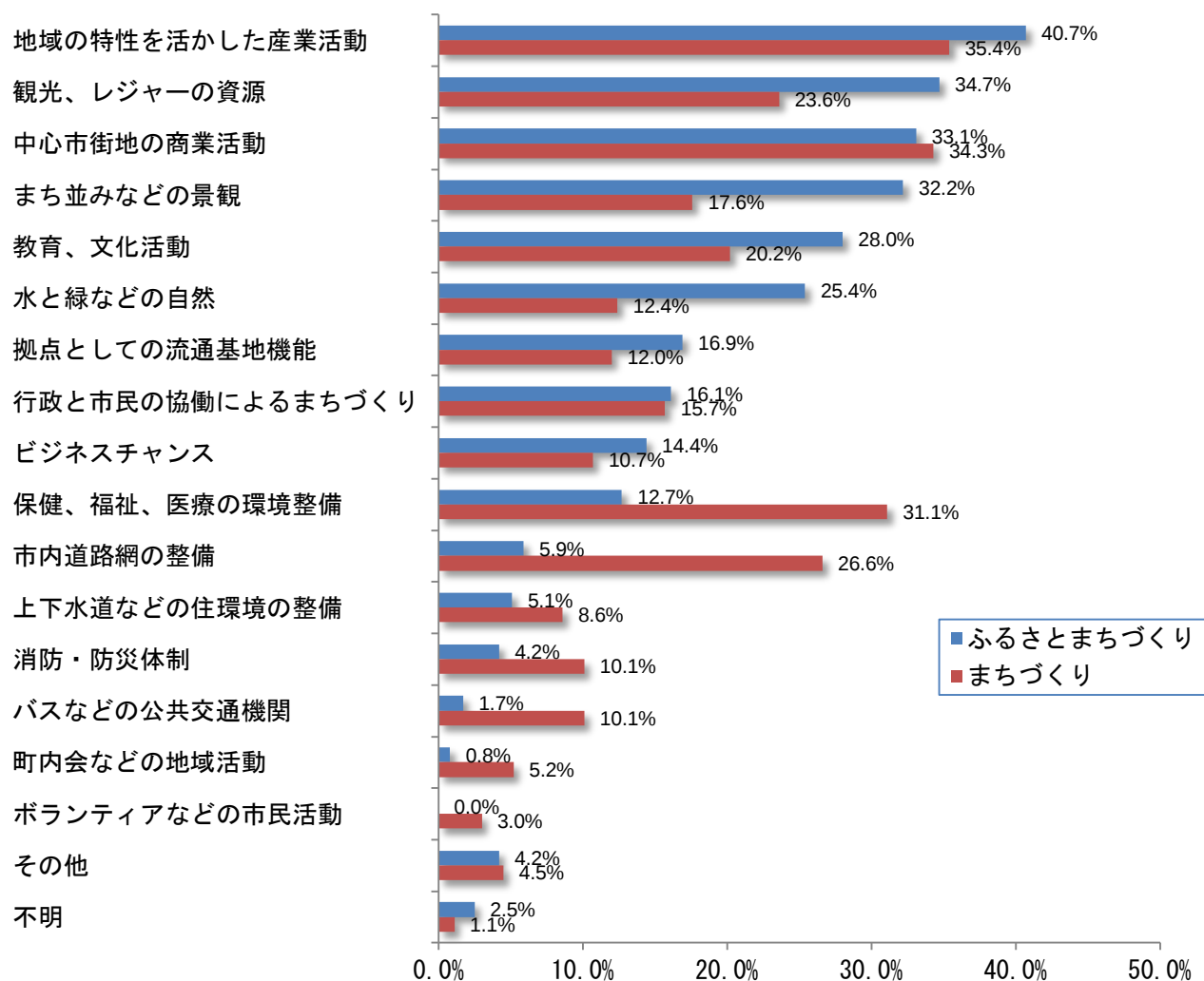
	前回（平成 15 年 7 月調査）		今回	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1 位	市内道路網の整備	45.2	地域の特性を活かした産業活動	40.7
2 位	観光、レジャーの資源	33.3	観光、レジャーの資源	34.7
3 位	まち並みなどの景観	28.6	中心市街地の商業活動	33.1
4 位	中心市街地の商業活動	26.2	まち並みなどの景観	32.2
5 位	地域の特性を活かした産業活動	25.0	教育、文化活動	28.0

■ まちづくりアンケートとの比較

・「地域の特性を活かした産業活動」、「中心市街地の商業活動」は、各アンケートで割合が30%を超えています。

・まちづくりアンケートでは、「保健、福祉、医療の環境整備」、「市内道路網の整備」などの生活に密接に関連した項目を選んだ割合が高くなっており、ふるさとまちづくりアンケートでは、「観光、レジャーの資源」、「まち並みなどの景観」、「水と緑などの自然」を選んだ割合が高くなっています。

(図表Ⅲ-6 力をいれていくところ まちづくりアンケート比較)



(2) 盛岡市の将来像について（問3）

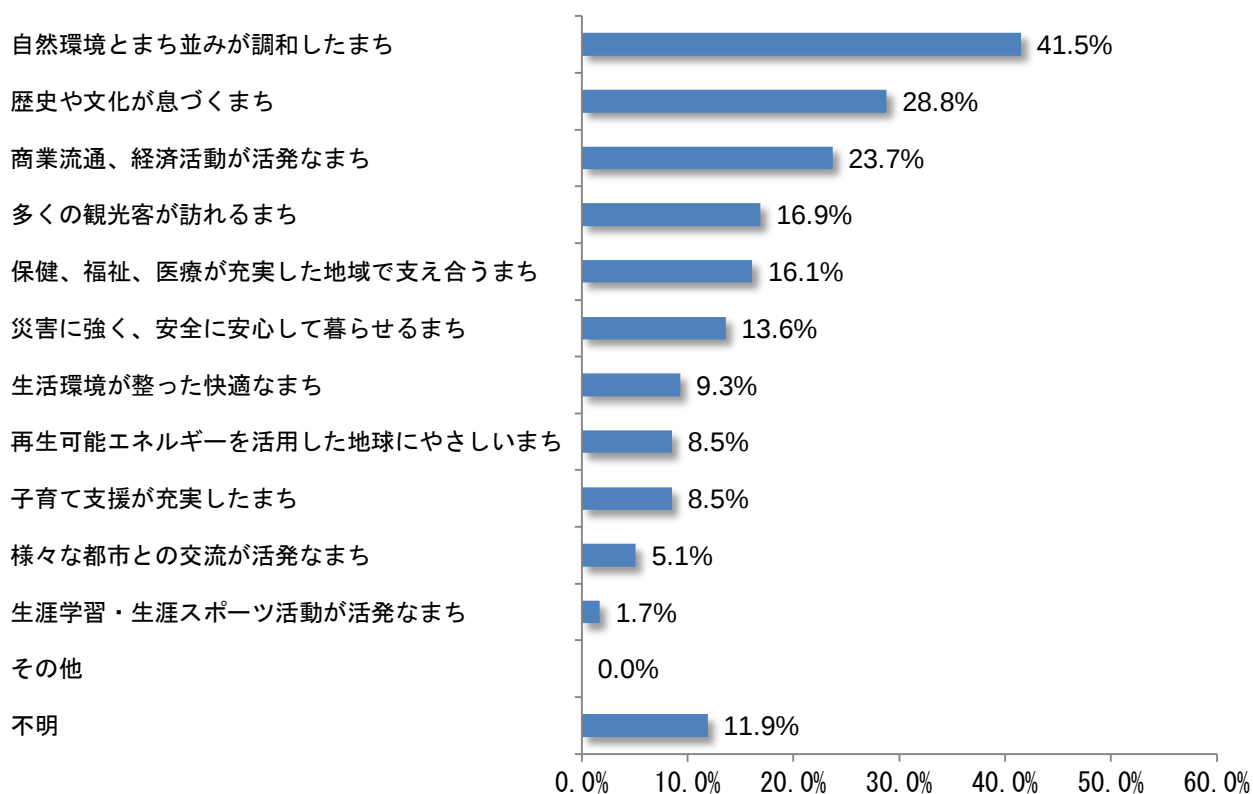
問3 盛岡市が10年後、どのようなまちであってほしいと思いますか。次の中から2つ以内をお選びください。

●「自然環境とまち並みが調和したまち」が最も多い（41.5%）

・「自然環境とまち並みが調和したまち」選んだ人が最も多く、次いで「歴史や文化が息づくまち」、「商業流通、経済活動が活発なまち」となっています（図表Ⅲ-7）。

・今回の調査で「災害に強く、安全に安心して暮らせるまち」などの選択肢を新たに追加しているため、全体的に各項目の割合が減少していますが、前回調査と比較すると、上位項目は今回の調査でも上位となっています（図表Ⅲ-8）。

（図表Ⅲ-7 盛岡市の将来像 回答者数 118人）



（図表Ⅲ-8 盛岡市の将来像 前回調査比較）

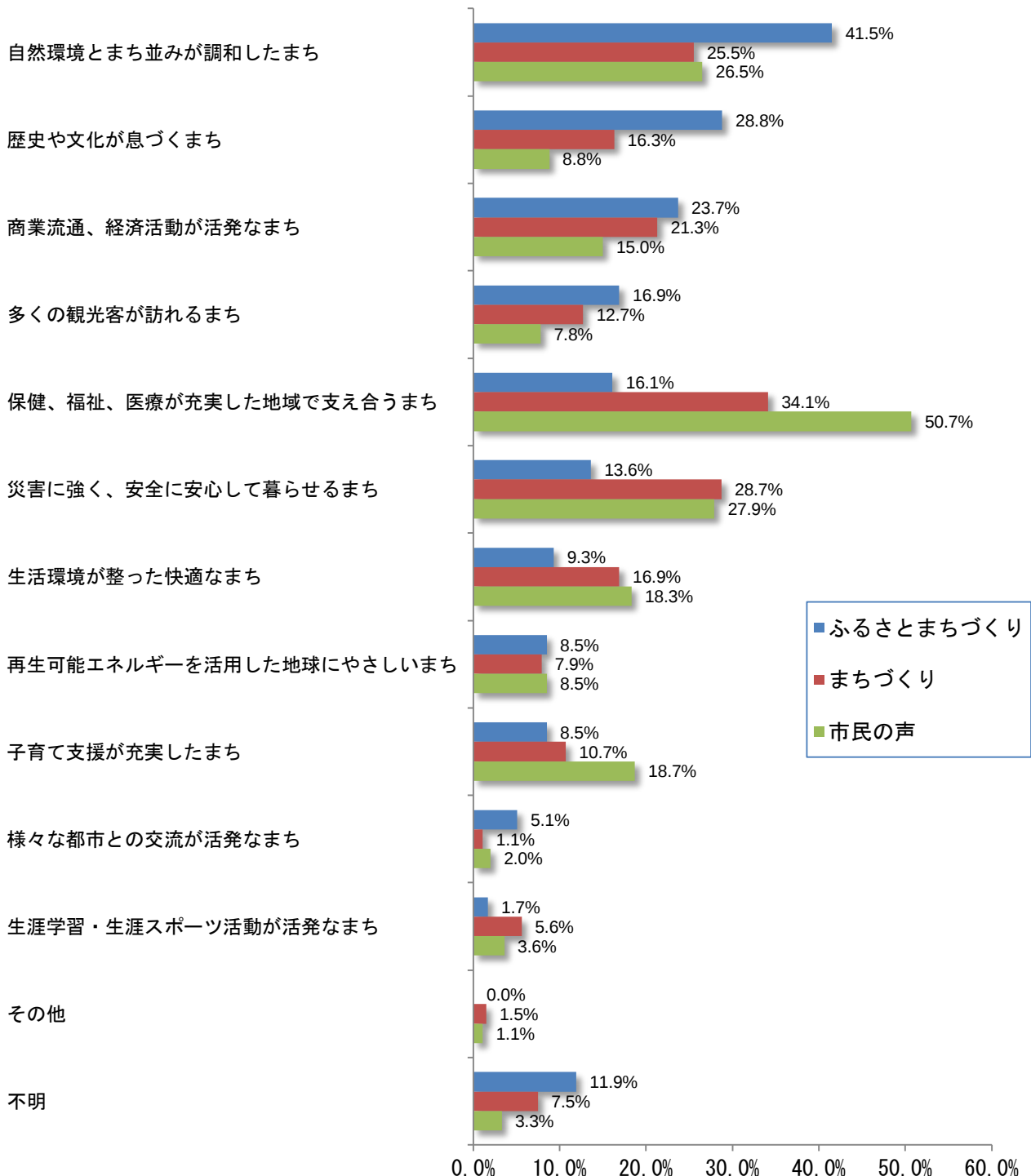
	前回（平成15年7月調査）		今回	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1位	自然環境とまち並みが調和したまち	46.4	自然環境とまち並みが調和したまち	41.5
2位	観光資源や交通の拠点性をいかしたまち	33.3	歴史や文化が息づくまち	28.8
3位	歴史や文化が息づくまち	32.1	商業流通、経済活動が活発なまち	23.7
4位	生活環境が整った快適なまち	25.0	多くの観光客が訪れるまち	16.9
5位	商業流通、経済活動が活発なまち	25.0	保健、福祉、医療が充実した地域で支え合うまち	16.1

■ 市民の声アンケート、まちづくりアンケートとの比較（図表Ⅲ-9）

・市民の声アンケートとまちづくりアンケートでは、上位3項目が同様の傾向となっていますが、市民の声アンケートでは、生活に密接に関連している「保健、福祉、医療が充実した地域で支え合うまち」、「子育て支援が充実したまち」を選んだ割合が非常に高くなっています。

・一方で、ふるさとまちづくりアンケートでは、「自然環境とまち並みが調和したまち」、「歴史や文化が息づくまち」、「商業流通、経済活動が活発なまち」など、外から見た盛岡の魅力、盛岡らしさに関する項目選んだ割合が高くなっています。

（図表Ⅲ-9 盛岡市の将来像 市民の声アンケート、まちづくりアンケート比較）



(3) 考慮すべき社会の動向について（問4）

問4 盛岡の将来像を考える場合、最も考慮しなければならない社会の動向は何だとお考えですか。次の中から2つ以内をお選びください。

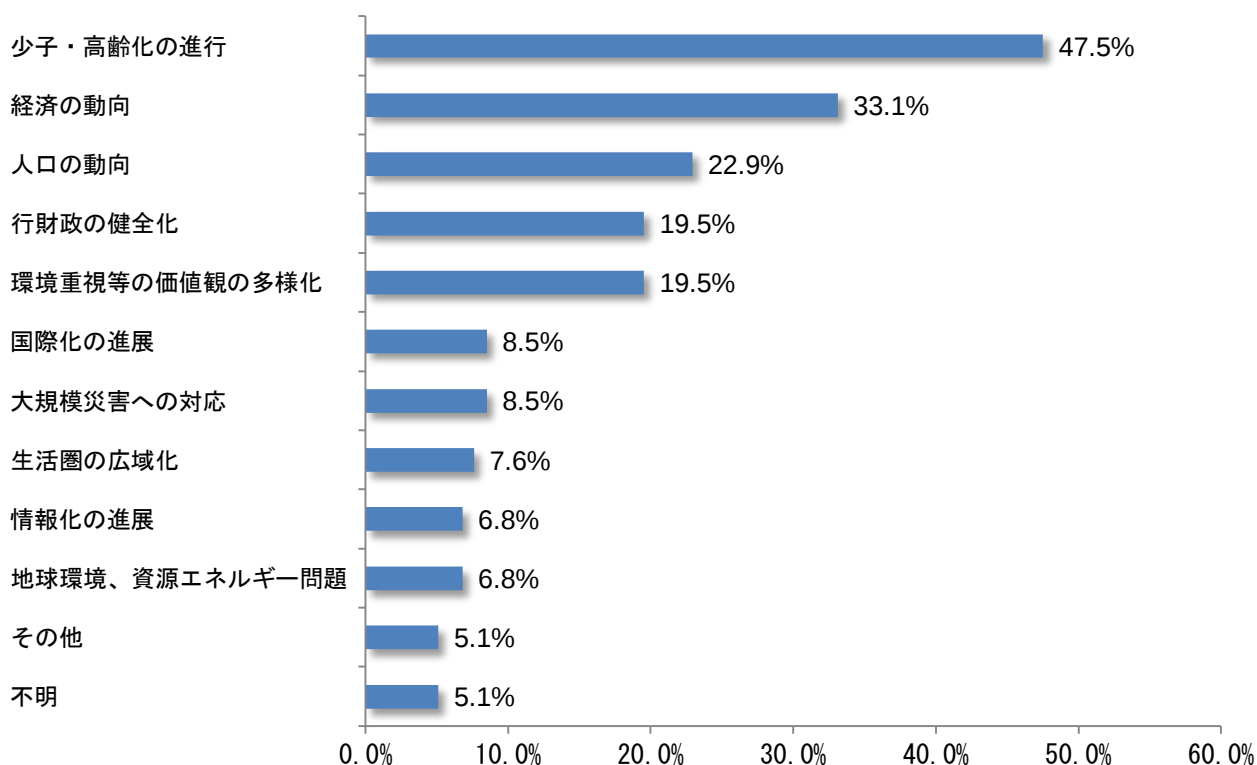
●「少子・高齢化の進行」が最も多い（47.5%）

・「少子・高齢化の進行」を選んだ人が最も多く、次いで「経済の動向」、「人口の動向」となっています（図表Ⅲ-10）

・前回調査と比較すると、上位項目は今回の調査でも上位となっていますが、中でも「少子・高齢化の進行」は11.2%上昇しています。

・一方で、「行財政の健全化」は12.6%減少しており、平成16年度から6年間にわたり取り組んできた行財政構造改革の成果が要因の一つとして考えられます（図表Ⅲ-11）。

（図表Ⅲ-10 考慮すべき社会の動向 回答者数 118人）



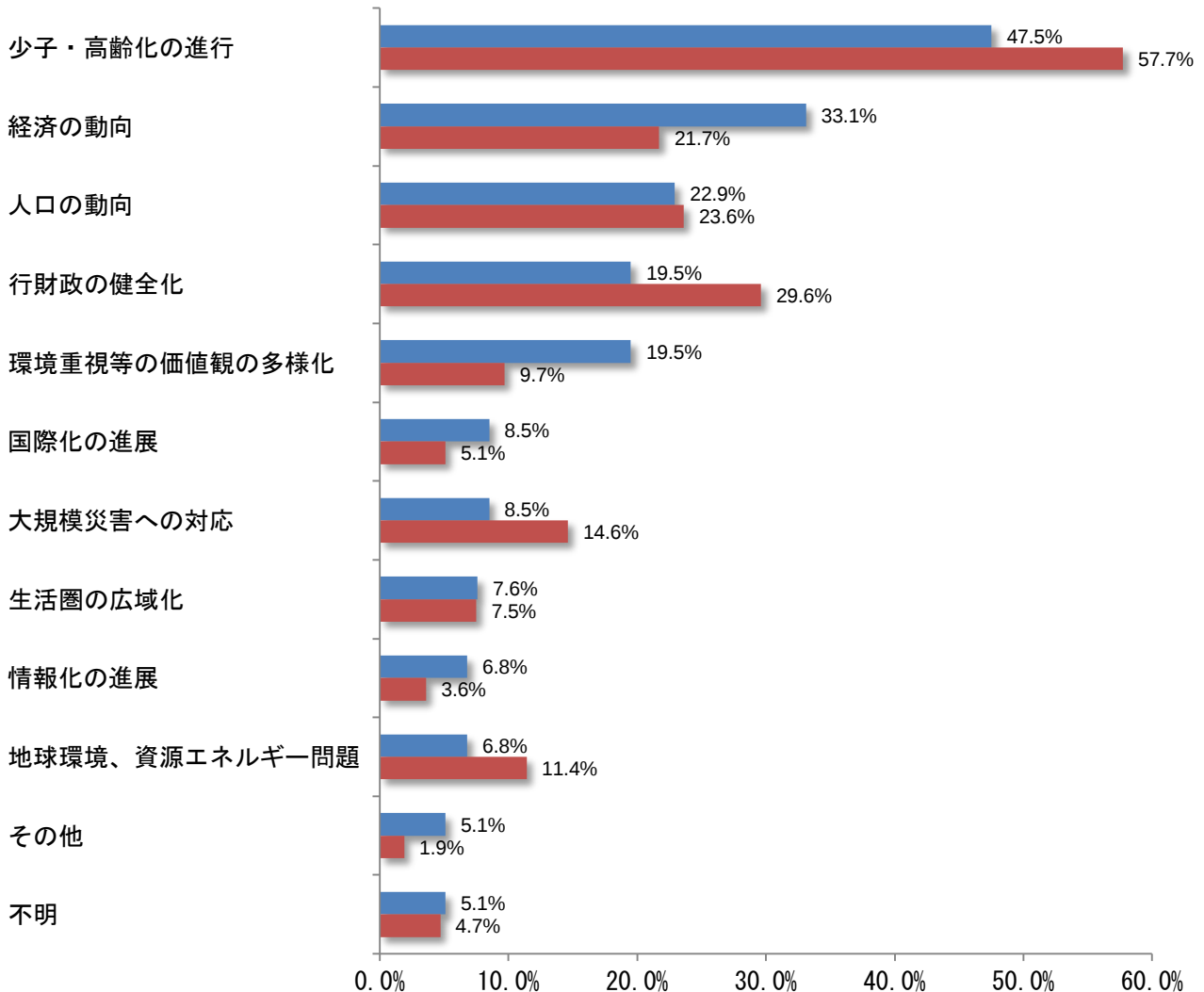
（図表Ⅲ-11 考慮すべき社会の動向 前回調査比較）

	前回（平成15年7月調査）		今回	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1位	少子・高齢化の進行	35.7	少子・高齢化の進行	47.5
2位	経済の動向	34.5	経済の動向	33.1
3位	行財政の健全化	32.1	人口の動向	22.9
4位	人口の動向	22.6	行財政の健全化	19.5
5位	生活圏の広域化	21.4	環境重視等の価値観の多様化	19.5

■ まちづくりアンケートとの比較

- ・「少子・高齢化の進行」は、各アンケートで最も割合が高くなっています。
- ・ふるさとまちづくりアンケートでは、「経済の動向」を選んだ割合が30%を超えていますが、まちづくりアンケートでは約20%となっています。

(図表Ⅲ-12 考慮すべき社会の動向 まちづくりアンケート比較)



(4) まちづくりへの提言について(問5 記述式)

問5 市内外の人から「住みたい」、「訪れたい」、「住んでみたい」、「事業活動したい」などと思われるようなまちとなるには、どのような魅力を市内外にPRしていくべきだとお考えですか。自由に提言をお聞かせください。

① 提言件数

231件(回答者数87人)

提言の件数は複数回答の取扱いとしています。

② 提言の概要

提言の内容を整理するため、現在の盛岡市総合計画の施策の柱(8)と施策(41)ごとに分類したところ、以下のようになりました。

■ 施策の柱

「5 活力ある産業の振興」に関する提言が最も多く、次いで「7 快適な都市機能」、「4 共に生き未来を創る教育・文化」に関する提言が多くなっています。

施策の柱	件数(件)	割合(%)
1 いきいきとして安心できる暮らし	9	3.9
2 安全な暮らし	2	0.9
3 心がつながる相互理解	2	0.9
4 共に生き未来を創る教育・文化	29	12.6
5 活力ある産業の振興	63	27.3
6 環境との共生	26	11.3
7 快適な都市機能	48	20.8
8 信頼される質の高い行政	20	8.7
9 その他(市政関連、アンケートに関する意見など)	32	13.9
合 計	231	100.0

■ 施策

施策の柱	施策	件数(件)
1 きらきら いきいき として 安心で る暮らし	1 健やかに暮らせる健康づくりの推進	0
	2 地域をリードする医療体制の確立	5
	3 共に歩む障がい者福祉の実現	0
	4 高齢社会に適応した高齢者福祉の充実	2
	5 暮らしを支える制度の充実と自立支援	0
	6 みんなで支える子育て支援の展開	2
	7 ふれあいが広がる地域福祉の実現	0
	小 計	9
2 ら 安全な 暮らし	1 自然災害対策の推進	2
	2 火災に強い消防体制の構築	0
	3 市民生活を守る安全対策の充実	0
	小 計	2

施策の柱	施策	件数（件）
3 相互理解 心が つなが る	1 元気な地域コミュニティ活動の推進	0
	2 人権を尊重する地域社会の形成	0
	3 多様な国際交流・地域間交流の推進	2
	4 快適な情報ネットワークの実現	0
	小 計	2
4 共に 教育・文 化を 創る	1 将来を担う次世代の育成	14
	2 いつでもどこでも学ぶことができる環境の構築	0
	3 生涯にわたり楽しめるスポーツ・レクリエーションライフの実現	1
	4 豊かな心を育む芸術文化活動の支援	2
	5 歴史を受け継ぐ文化遺産の保護・活用	12
	小 計	29
5 振興 活力 ある 産業の	1 活力ある農林業の振興	3
	2 まちに活力を与える工業の振興	10
	3 多様で活発な商業・サービス業の振興	13
	4 地域資源をいかした観光・物産の振興	27
	5 安定した雇用の創出と良好な労働環境の促進	10
	小 計	63
6 共生 環境 との	1 生活環境の保全	0
	2 かけがえのない自然との共生	21
	3 地球環境への貢献	5
	小 計	26
7 快適 な 都市 機能	1 適正な土地利用計画の推進	2
	2 魅力ある都市景観の形成	21
	3 快適な居住環境の実現	1
	4 うるおいのある公園・街路樹の確保	3
	5 いつでも信頼される上水道事業の推進	0
	6 健全な水環境・良好な水循環の創出	0
	7 にぎわいのある市街地の形成	6
	8 都市活動を支える交通環境の構築	15
	小 計	48
8 行政 信頼 され る 質の 高い	1 健全な財政運営の実現	1
	2 計画的で効率的な行政運営の推進	1
	3 市民とともに作る行政の実現	15
	4 市民の負託に応える組織の構築・人材の育成	0
	5 より便利な行政サービスの構築	0
	6 自治の確立を目指す取組みの強化	3
	小 計	20
9	その他（市政関連、アンケートに関する意見など）	32
合 計		231

■ 施策の柱ごとの主な内容

個々の提言については、「施策ごとの内容（P147～）」に掲載しています。

1 いきいきとして安心できる暮らし

医療体制の確立や高齢者福祉に関する提言などがありました。医療体制の確立については、市内外の子育てを行う若い人たちや第二の人生を考える高齢者に、医療環境やその他生活環境が良好であることをPRしていくべきなどの提言がありました。高齢者福祉については、医療と福祉（老人ホーム）を一体として捉え、高齢社会に対応した未来のモデル都市を目指すべきなどの提言がありました。

2 安全な暮らし

東日本大震災において倒壊等の被害を出さなかった実績をPRし、更に防災体制に磨きをかけるべきなどの自然災害対策に関する提言がありました。

3 心がつながる相互理解

外国人が気軽に訪れる、住むことができる国際都市としてPRしていくべきなどの国際交流に関する提言がありました。

4 共に生き未来を創る教育・文化

人材の育成や歴史・文化の活用に関する提言が多くありました。人材の育成については、石川啄木などを輩出した文教のまちであることをPRしていくべき、もっと教育環境の整備や人材育成に力をいれるべきなどの提言がありました。歴史・文化の活用については、「みちのく」という他の地域と異なるユニークな歴史、それをつくった自然や人々を生かし、さらに磨き上げてPRしていくべきなどの提言がありました。

5 活力ある産業の振興

観光・物産の振興に関する提言が多くありました。観光・物産の振興については、さんさ踊りなどの祭りイベントでは市民総出で盛り上がる、パワーを秘めたまちであることをPRしていくべきなどの提言がありました。また、産業振興に力を入れ、新しい産業や企業が芽生えた活気が感じられるまちであることをPRしていくべき、岩手大学等の学術技術の活用や連携を強化していくべきなどの提言がありました。

6 環境との共生

自然との共生に関する提言が多くありました。自然とまち並みの共存のPRに当たり、インパクトのある映像やキャッチコピーを効率的に露出するべきなどの提言がありました。また、エコなまちづくりのモデル都市になることをPRしていくべきなどの提言がありました。

7 快適な都市機能

景観形成や交通環境の整備に関する提言が多くありました。景観形成については、盛岡の景観の良さをしたたかに前面にPRしていくべきなどの提言がありました。交通環境の整備については、市がレンタル自転車を用意したり、100円バスの路線の拡充をするべき、車に頼らない公共バスと歩行者に優しい道路を整備するべきなどの提言がありました。

8 信頼される質の高い行政

まちづくりに関する提言が多くありました。市の強みを強くPRし、企業ブランチの誘導や安全な観光地としての集客を行い、これらをブランド化して「盛岡ファン」を作り、税収増と人口増を達成する、近隣市町村と連携し、シナジー効果を生み出すまちづくりをするべきなどの提言がありました。

9 その他

ふるさと納税について、一度納税した人に市長が一文を添えて毎年納付書を送付するなど、もっと積極的に進展させるべき、岩手県の北上山地がILCの候補地になったことをPRしていくべき、何か一つ「盛岡といえば〇〇」、「日本一〇〇な都市」という特定分野に集中投資して、市内外に広くPRできるものを育ててほしいなどの提言がありました。

■ 施策ごとの内容

- ・現在の盛岡市総合計画の施策ごとにまとめて掲載しています。
- ・施策番号に対応する施策名については、P 143, 144を参照してください。
- ・趣旨を変えない程度に要約したものもあります。
- ・同趣旨と思われ、割愛したものもあります。

●施策の柱 I いきいきとして安心できる暮らし

施策	内容
1	
2	病院，施設等の医療環境を整備し，高齢者対策を充実させ，高齢者の不安の解消を図る。 内外の子育てを行う若い人たちや第二の人生を考える高齢者に，医療環境やその他生活環境が良好であることをPRする。
3	
4	幼稚園と保育園に高齢者が利用できる施設を併設する。 医療と福祉（老人ホーム）を一体と捉え，高齢社会に対応した未来のモデル都市を目指す。行政の発想ではなく，北欧，ベルギー，オランダのような常に穏やかな生活と安心の都市を目指す。
5	
6	若い夫婦が安心して子育てできるまち（例えば，20～30代夫婦の家賃無料化，子どもの医療費無料化）。
7	

●施策の柱 II 安全な暮らし

施策	内容
1	東日本大震災において倒壊等の被害を出さなかった実績をPRし、さらに防災体制に磨きをかけるべき。
2	
3	

●施策の柱 III 心がつながる相互理解

施策	内容
1	
2	
3	2020年の東京オリンピックに向け、外国人が気軽に訪れたり住むことができる国際都市をPRする（例：施設の場所が外国人に分かりやすい表示や市内マップを整備する。「盛岡マイスター制度」を作り、市内各所外国語説明員をボランティアで育成する。外国語を話せる人を集め、市民を計画的に教育する。）。 先住住民や交流人口を大切に、具体的施策を打ち出すことを期待する。
4	

●施策の柱 IV 共に生き未来を創る教育・文化

施策	内容
1	教育に力を入れ、自信と誇りを持った人材育成を。
	県立美術館や先人記念館等でみられる文化を守り、PRしてほしい。多くの有名な先人をもっと全面に出して、PRしてほしい。
	子どもと大人両方の教育。税金を投入し、将来の指導者育成を重点的に行う。世界に通用する人材の宝庫を作り上げてほしい。
	学校教育にもっと力を入れ、盛岡ならではのあたたかな人間性が感じられるまちになってほしい。
	教育を充実させ、有能な人材を輩出するまちになってほしい。
	教育環境（人）、自然環境を打ち出す（物）、情報発信（金）により、「人が寄り合い集まり魅力あるまち」に。
	中学生、高校生の頃からお金の大事さ、アイディアや事業を育てる情熱を育成するプログラムを作る。
	偉人輩出の街だが、地元人が知らないのも困る。
	新渡戸稲造、石川啄木、宮沢賢治等を輩出した「文教のまち」としてPRする。
	第3次産業が80%以上という盛岡の特色を考えると、通訳ガイドなど人を集められる人材を育成することがキーポイントになる。
2	
3	「自然豊かな」の表看板では、市民の自主的なまちの発展への活動にブレーキをかけてしまう。「活発なまち」の印象づくりに方向転換してはどうか。子ども、行政人も思考転換の再教育セミナーが必要。力ある若者を育てることやスポーツの振興は、魅力のPRには欠かせぬ努力かと思う。
4	これぞ盛岡という求心的な文化行事や特徴ある産業が必要。
	アート・芸術の香りがするまちづくりを提案する。
5	歴史・文化の根付いたまちとしてPRする。
	「人がやさしい、歴史がある、自然に恵まれていること」等を活かし、「のどかな都会」になってほしい。
	自然・文化が生き生きと感じられる温かいまちであることをPRしてほしい。
	盛岡であればこそという文化、食べ物、街並み、風景などを徹底して守るべき（医療や教育など基本的なことは言うに及ばずの上）。
	潜在的に持っている文化、歴史等の遺産を観光資源として活かす。
	「みちのく」という他の地域と異なるユニークな歴史、それをつくった自然や人々を生かした地域の良いところをさらに磨き上げPRする。
	大自然に囲まれた都市を破壊せず、歴史遺産や景観を大切に、訪れた人がほっとする空気が流れる街を残してほしい。高齢者の視点としては、来訪者をやさしく迎えてくれるまちの発展を希望する。
	自然と歴史・文化の観光は重視しても、レジャー（スポーツ）は限界あり。
	文化・景観都市にしたいならば、新撰組同様に天皇と幕府を共に大事にした南部藩の誇りを持つこと。天守閣を作り、旧町名に戻す。不来方のお城から岩手山が見えるようにする。啄木・賢治が讃えた岩手山の景観を残す工夫と努力が足りない。

●施策の柱 IV 共に生き未来を創る教育・文化

施策	内容
5	盛岡城跡公園の台座だけで、像がないのは寂しい。きちんとできれば多くの観光客が訪れ、歴史や文化が息づくと思う。
	盛岡八幡宮の祭典等、地域のお祭りの賑わいを大切に、様々な世代が交流するコミュニティがあるまちづくりを。豊かな自然景観の誘導路の整備、エリアの拡大が必要。観光客も安心して立ち寄れるように、地区ごとの歴史・文化資産を街の風土や地域資源として活かし、商店街の集中や緑豊かな公園などを整備する。盛岡駅西側の公共駐車場を来訪者にPRする。広域圏の幹線道路の案内と名所旧跡や温泉保養地をPR。

●施策の柱 V 活力ある産業の振興

施策	内容
1	地場産業・特産品の育成強化とPR（例：野菜、果物の開発、ITを活用したデザインと販売戦略（南部鉄器など））。
	1次産業をベースに6次産業推進のまちづくりを行うことが大切。
	食とエネルギーの地産地消を目指す。
2	これぞ盛岡という求心的な文化行事や特徴ある産業が必要。
	大学の研究成果の活用は地元密着型だけではなく、全国や世界に発信できる革新的なものがほしい。
	岩手大学等の学術技術の活用，連携強化。
	経済活動・産業活動が活発であれば，世界各国から人が集まる。行政は起業家を育てる教育，伸びようとする産業の発信の手助けを。
	大学の技術サポートや，経理・法務のアドバイザー等，企業家として最初の段階のサポートが手厚いまちづくり。経験豊かなコーディネーターが必要。
	都心にもものづくり機能を埋め込み，生活とものづくりが共存する都市空間再生のモデルとなしてほしい。盛岡手づくり村を都心に回帰させてもよい。
	先端技術ではなく，伝統的・創造的なものづくりの場の提供。都会から若者を誘致。
	産業振興に力を入れ，新しい産業や企業が芽生え，活気が感じられるまちをアピール。
3	創業への助成。
	大通商店街活性化，中心市街地の活性化が必須。昼夜問わず大通りを沢山の人が歩く賑やかなまちづくりをする。
	「住みたい，訪れたい，住み続けたいまち」には，今後富裕層の高齢化した人口が増える想定すべきである。「エコなまちづくり」のモデル都市になることをPRする。
	①歩行者・自転車のネットワークの構築を最優先し，自動車交通に依存しない都市空間経営を発展させる（バリアフリーネットワーク，自転車ネットワークの構築，環境配慮型自動車への転換，超小型自動車・モビルへ対応した環境整備）。
	②ICTとの連携実現を将来目標にし，地域住民～隣接都市，市町村～来外者に分かりやすい都市空間の整備をする（公共サイン計画により，ユニバーサルデザイン化，位置情報を活用できる施設を配置し，市内各所に「憩える」場所の設置・連携）。
	③中心市街地では都市計画の柔軟な運用方法を導入し，地域特性を活かせる手法を研究，開発，実践していくまちであることを表明する（首都圏都市とは，全く異なる都市空間形成，都市経営手法の導入，歴史・文化を維持しつつも，快適性，回遊性，安全性の高いまちに）。
	中心市街地は単に首都圏と同じようなことは望まず，歴史と景観をいかす。文化歴史的景観の再生・創造をするべく，中心市街地の土地所有者の啓蒙と若手企業者の連携を図る。周囲の自然環境や食などの観光資源，交通の有利さを活かすべき。
	大通りに品性がない。新宿歌舞伎町のほうがはるかに情緒あり。
	ビルの空き部屋を若者に活用させる。
	若者だけではなく大人もショッピングを楽しめる街並みがほしい。
	事業内容を広く宣伝活動してほしい。
	日中買い物ができる小さくても落ち着いた通りがあるとほっとする。
	市街化を推進し，商店街の再構築，街並み整備を行う。

●施策の柱 V 活力ある産業の振興

施策	内容
3	生活環境（日常の買い物）が整ったまちとしてPRする。 「啄木・賢治のまち」として観光施設の充実を図り、市民の意識が高まるような施策を期待する。 震災で実証された強固な地盤の上に建設された都市、整備されたインフラ・交通網等を強くPRし、企業ブランチの誘導や安全な観光地としての集客を行う。これらをブランド化して「盛岡ファン」を作り、税収、人口増を達成する。 隠れた魅力のある自然環境のPR強化と観光資源の発掘、開発（例：姫神山麓の休暇村整備、天峰山、大山桜のキャンペーン）。 何をベースにし、ポイントにするか、テーマを絞り込むこと。単に「岩手公園があります」ではなく、「東北三大名城であり石垣の組み方の美しさ」をPRする事が大事。パンフレットやポスターを各都道府県のもっと人目に触れる場所へ貼ってほしい。 高松の池、石割桜に観光バスの駐車スペースを確保するなど観光への配慮を具体化。 帰省客のためにもさんさ踊りをもっとPRしてほしい。 玉山日戸での花見を計画してほしい。 北上川とロマンチック街道をキャッチフレーズに観光資源を活かせる整備とPR活動。 北欧の「森と湖」に似たまちづくりで、観光客を呼ぶ活動。 市内の人が「住みたい」というためには、快適な生活環境の整備が必須であるが、市外の人が「訪れたい」というためには、景観や短時間で観光できる利便性が必要になる。そのギャップを埋めることが両者の並存に繋がり、息の長い「まちづくり」に必要なのではないかな。
4	様々な県産品の優れた点をPR。 市内のいたるところで、毎週のように祭りやイベントなどが催されており、素晴らしい。 観光客・市民が散歩しながら買い物ができる所、生きた名所づくり（例1：埼玉の川越通り、金沢の東茶屋街、奈良の奈良井宿など、盛岡といえば「〇〇通り、●●街」というところを作る。例2：盛岡城の復元、整備）。 観光客を案内しやすい観光ルートの整備。 東京で行われている他都市のイベントに参加するが、他都市に比べ出店数や目玉商品などPR不足。積極的にPRし、「ぜひ盛岡を訪れたい」という所から入っていくのもまちづくりの一步だと思う。 観光資源の発掘（例：市内への町屋復活）。 温泉・三大麺・市内観光がスムーズに出来るようにし、リピーターが訪れる工夫を。 近隣市町村と連携したプログラムの推進（例：街めぐり、食文化の組み合わせ、繋温泉、小岩井農場などを組み合わせたプログラム、平泉や角館とのセットプログラムなど）。 「訪れたい」という観点からの魅力（自然（北上川、岩手山など）に恵まれている・温泉が近い・交通の便のよさ・食べ物（そば、海産物）がおいしい）をPRする。 「歴史文化都市」の1点に絞りPRする（例：盛岡城跡公園、桜山神社の整備。大慈寺（原敬）・円光寺（米内光政）・久昌寺（新渡戸稲造）の三寺巡回に鉾屋町を加えたルート開発。）。 さんさ踊り等、イベントでは市民総出で盛り上がる、パワーを秘めた都市としてPRする。

●施策の柱 V 活力ある産業の振興

施策	内容
4	景観の良さを前面にPR。したたかに観光PRを。県外の岩手を気に入ってくれる人は生活環境のよさをほめる。このちょうどよい環境をPRすれば人口の増加に繋がる。
	旅行者に温かみある対応で、「居場所づくり」をしてあげること。「面白い、熱い、尊敬すべき」人がいる、面白いことができる、落ち着く場所がある等、ソフト施策を打ち出す。県庁所在地として県内に点在する魅力と連携していることをPR。
	経済活動の活性化のため、宿泊を伴う国内外の観光客誘致策の検討が必要。
5	第2次産業の基盤が脆弱なため、企業誘致に力点を置く、あるいは補助金制度の充実が望まれる。
	事業活動をする人には、文教施設・土地の広さ・市民の人情の細やかさ等をPR。住むにも働くにも盛岡以外にはないことをPR。
	雇用の場を増やし、生涯現役で暮らせる、人と自然にやさしい魅力あるまちをPR。
	若者が働ける場所づくりや雇用を創出するための産業の誘致をもっと推進する。
	小岩井農場の土地を会社側と活用する。昔の様にサラブレッドを育成し、JRAを呼び、競馬場を活用する。西仙北太田地区を住宅、工場誘致用地として整備して地元の人間の固定化を図る。
	1次産業：自給自足および将来の産業に結びつくバイオテクノロジー，農業。2次産業：大手企業，本店を誘致。3次産業：接客態度，社員教育徹底。おもてなしの心。
	経済活動の活性化のため、工業団地の整備・拡充による企業誘致の強化の検討が必要。

●施策の柱 VI 環境との共生

施策	内容
1	
2	自然とまち並みの共存をPRしていくべき。そのPR方法を考える。インパクトのある映像やキャッチコピーを効率的に露出するべきである。
	自然豊かなイメージを大切にして、国内外にPRする。
	隠れた魅力のある自然環境のPR強化と観光資源の発掘、開発（例：姫神山麓の休暇村整備、天峰山、大山桜のキャンペーン）。
	自然と環境に恵まれており、首都圏との交通の便も良い。
	人がやさしい、歴史がある、自然に恵まれていること等を活かし、「のどかな都会」になってほしい。
	自然・文化が生き生きと感じられる温かいまちであることをPRしてほしい。
	開発による自然破壊が無いように。樹木伐採も慎重に。
	水・緑等の自然環境と現代的な都市機能の調和がされた住みやすいまちづくりの推進。
	盛岡市は清流と山に囲まれたまちである。他都市では見受けられない自然豊かな「緑の市」を目指す。上の橋・中の橋・下の橋区域を再開発し、まちのコアとして「経済中心」より「自然中心」の生活環境にやさしいまちづくりを。教育環境（人）、自然環境を打ち出す（物）、情報発信（金）により、「人が寄り合い集まり魅力ある街」に。
	自然豊かなまちづくりのために、人的・経済的な資源を集中投資するべき。
	他の市には無い盛岡ならではの魅力（風と緑、自然など）。
	自然環境に恵まれていること（市内を流れる川に鮭が上がるほど水がきれいであること、岩手山、姫神山、北上川、雫石川、中津川など）。
	どんな世界の人が来ても自然・水・人の心が優しい都市になってほしい。
3	「エコなまちづくり」のモデル都市になることをPRする。
	再生可能エネルギー供給基地としてPR（太陽光、風力など）。
	地球環境にやさしいまちとしてPRする。
	食とエネルギーの地産地消を目指す。

●施策の柱 VII 快適な都市機能

施策	内容
1	大型出店を抑えてドーナツ化現象を防いでほしい。 病院，学校，商業施設がコンパクトにまとまった生活しやすい都市であることをPR。
2	自然とまち並みの共存をPRしていくべき。そのPR方法を考える。インパクトのある映像やキャッチコピーを効率的に露出するべきである。 美しく穏やかな盛岡のまちを残してほしい。 古いまち並み，歴史的建造物を保存・整備する。 中心部には，人通りが少ないが，お洒落な店や地場産の食材を使ったレストラン等があり，「足を運びたいまち」の要素がたくさんある。古い街並みを生かしながら，周辺の整備（交通を含め）も行っていくほうが良い。 市内の雰囲気，街並み景観，人情などを盛岡全体となって考えることが必要。 歴史あるまちだと思うが，市内を歩いても歴史あるイメージが伝わってこない。明治・大正期の建物が点と点ではなく，線として繋がるようなまちづくり。 清潔で綺麗な街並みづくりと管理。 緑が多く落ち着いた街並み，歴史と文化の調和しているまちをアピール。 文化・景観都市にしたいならば，新撰組同様に天皇と幕府を共に大事にした南部藩の誇りを持つこと。天守閣を作り，旧町名に戻す。不来方のお城から岩手山が見えるようにする（教育会館は不要）。啄木・賢治が讃えた岩手山の景観を残す工夫と努力が足りない。 大自然に囲まれた都市を破壊せず，歴史遺産や景観を大切に，訪れた人がほっとする空気が流れるまちを残してほしい。高齢者の視点としては，来訪者をやさしく迎えてくれるまちの発展を希望する。 景観の良さを前面にPR。したたかに観光PRを。県外の岩手を気に入ってくれる人は，生活環境のよさをほめる。このちょうどよい環境をPRすれば人口の増加に繋がる。
3	生活の上では冬の寒さ・雪対策を整え，「盛岡の寒さでも充分対応できるのだ」ということをアピール。
4	不来方城の天守閣再現を希望。東京方面からの新幹線から右手に見えたら素晴らしい景観となり，観光客へのインパクトも大きく，訪れたい観光スポットとなると思う。 盛岡城構想の実現はインパクトになるだろう（例：季節折々のイベントと城めぐりを組み合わせる）。将来的には外国人の集客も増え，若い人のガイドや語学学校の設立などにも繋がり，若手労働力の定着にも繋がる。
5	
6	
7	盛岡のPR素材が思い当たらないが，今後は古い街区と新しい街区，賑やかな（ごちゃごちゃした）通りと整然とした通りを計画的に整備することとし，その街づくりプロセスを内外にPRしていくべき。今あるもの，完成したもののばかりがPR素材ではないと思う。街並みの整備以外でも過程から完成（完結）までを見せていくことで，住民は期待感を持って住み続けるのと思うし，観光にしてもリピーターができると思う。何よりも行政としての取り組む姿勢と成果が分かりやすいと思う。

●施策の柱 VII 快適な都市機能

施策	内容
7	「住みたい、訪れたい、住み続けたいまち」には、今後富裕層の高齢化した人口が増える と想定すべきである。「エコなまちづくり」のモデル都市になることをPRする。 ①歩行者・自転車のネットワークの構築を最優先し、自動車交通に依存しない都市空間経 営を発展させる（バリアフリーネットワーク、自転車ネットワークの構築、環境配慮型自 動車への転換、超小型自動車・モビリティへ対応した環境整備）。 ②ICTとの連携実現を将来目標にし、地域住民～隣接都市、市町村～来外者に分かりや すい都市空間の整備をする（公共サイン計画により、ユニバーサルデザイン化、位置情報 を活用できる施設を配置し、市内各所に「憩える」場所の設置・連携）。 ③中心市街地では都市計画の柔軟な運用方法を導入し、地域特性を活かせる手法を研究、 開発、実践していくまちであることを表明する（首都圏都市とは、全く異なる都市空間形 成、都市経営手法の導入、歴史・文化を維持しつつも、快適性、回遊性、安全性の高いま ちに）。 盛岡のPR素材が思い当たらないが、今後は古い街区と新しい街区、賑やかな（ごちゃご ちゃした）通りと整然とした通りを計画的に整備することとし、その街づくりプロセスを 内外にPRしていくべき。今あるもの、完成したものばかりがPR素材ではないと思う。 街並みの整備以外でも過程から完成（完結）までを見せていくことで、住民は期待感 を持って住み続けるのと思うし、観光にしてもリピーターができると思う。何よりも行政と しての取り組む姿勢と成果が分かりやすいと思う。 市街化を推進し、商店街の再構築、街並み整備を行う。 小岩井農場の土地を会社側と活用する。昔の様にサラブレッドを育成し、JRAを呼び、 競馬場を活用する。西仙北太田地区を住宅、工場誘致用地として整備して地元の人間の固 定化を図る。
8	首都圏と比較すると、市内のアクセスの悪さが指摘されるので市がレンタル自転車を用意 したり、100円バスの路線拡充等すれば観光客に便利でやさしいまちになると思う。 震災で実証された強固な地盤の上に建設された都市、整備されたインフラ・交通網等を強 くPRし、企業ランチの誘導や安全な観光地としての集客を行う。これらをブランド化 して「盛岡ファン」を作り、税収、人口増を達成する。 信号の間隔を短縮したほうが、歩く人や車の動きが活発になると思う。 国道バイパス以外は全て一方通行とする。自転車優先とし、自転車無料貸し出しを行う。 地域の結びつきや充実した生活を実感できるよう、車に頼らない公共バスと歩行者に優し い道路の整備を期待。 市民の足としての「でんでんむし」など公共交通の活用を推進する。 沿岸への交通網の整備等、県内の交通網を整備すれば観光客の増加に繋がる。 盛岡駅前の混雑を解消する。 幹線以外の道路整備。 盛岡駅の改札をすっきりと分かりやすくしてほしい。 交通の要衝であること（東北新幹線、東北縦貫自動車道）をPRする。 気象条件が厳しく、公共交通機関が発達していないため、高齢者には住みにくい。高齢者 が一人でも暮らしていける盛岡であれば、どんな世代にも暮らしやすくなるのでは。

●施策の柱 VIII 信頼される質の高い行政

施策	内容
1	震災で実証された強固な地盤の上に建設された都市、整備されたインフラ・交通網等を強くPRし、企業ブランチの誘導や安全な観光地としての集客を行う。これらをブランド化して「盛岡ファン」を作り、税収、人口増を達成する。
2	「住みたい、訪れたい、住み続けたいまち」には、今後富裕層の高齢化した人口が増えると思定すべきである。
3	文化伝統について全国への情報発信に力を入れる。
	広報を工夫し、歴史的な面をもっとPRしてほしい。
	他都市とは違った東北のまちのPR活動。
	目標：人口増、経済の向上。テーマ：少々お金がなくても安心安全。物欲にあまり囚われない環境、雰囲気を作りPRする。盛岡に来ると価値観が変わる気がするなど、人の心に訴えるような情報発信をする。
	他都市で活躍している盛岡出身者をバックアップし、盛岡の名を高めるようにしてはどうか。
	盛岡市は清流と山に囲まれたまちである。他都市では見受けられない自然豊かな「緑の市」を目指す。上の橋・中の橋・下の橋区域を再開発し、まちのコアとして「経済中心」より「自然中心」の生活環境にやさしいまちづくりを。教育環境（人）、自然環境を打ち出す（物）、情報発信（金）により、「人が寄り合い集まり魅力ある街」に。
	市外の人に対して住みやすい環境（都会の便利さ快適さ・自然の豊かさと心地よさ・盛岡ならではの魅力）をアピール。
	盛岡らしさ（ブランド）の創出とPR（優れたデザイナーを参加させたり、女性・若者・外国人の感性を活かし、新商品を開発・提案。異業種・業態の融合によるトータルな盛岡らしさの提案。地元・全国・海外での盛岡らしさをPRするイベントの開催。事業者・ベンチャーに対する支援等。）。
	岩手県、北東北の中心としての役割・機能の発揮とPR（震災復興におけるリーダー・サポートの役割。北東北の中心として、三県の連携をはかり、市内外からの事業者・企業・従事者の増加を目指す。）。
	中津川は、「県庁所在地を流れる日本一の清流」を目指し、全国に発信する。「全国中津川サミット」（中津川の地名、河川を有する市町村首長を集めての清流サミット）の開催、「盛岡自然遺産」の認定、よ市や神子田町朝市等の市を集めて、市をあげての大会を開催する等のイベントを企画する。城下町盛岡を市の文化を通して発信する。
	盛岡のブランド化推進の取組は素晴らしいが、関心がなければこれらの情報に触れる機会はほとんどない。情報発信の名案がほしい。
	歴史ある街、文化を大切にしている街、「もりおか」という響き（音）を全国に伝える。常に「もりおかの〇〇」という言葉を発信していく。
4	
5	
6	盛岡市だけではなく、広域的な地域づくりが必要。人口30万人では、やれることに限界がある。
	広域連携を進め、交通網の整備や流通基地機能の充実と、教育・医学・福祉等の面で他を大幅に上回る環境づくりが必要。

●施策の柱 Ⅷ 信頼される質の高い行政

施策	内容
6	将来に向け「目玉を作ること」。既成概念に捉われず、総花的な施策ではなく大胆な取組をすべき。例えば、近隣市町村と連携し、シナジー効果を生み出すまちづくり、安心して子育てができるまちづくりなど。

●その他（市政関連、アンケートに関する意見など）

内容
近隣町村との友好政策を進め、「合併推進」に努めるべき。庁内に対策チームを新設するくらいの覚悟が必要。
岩手がふるさとで良かったと思っています。
東北ではなく日本全体，世界を比較基準にすべき。
人情に厚い一方で，他県には排他的な感がある。
広く協力を得る体制作りが必須。
各県に比べ物価が高い。品質は優れているが消費力，宣伝力に期待します。
オープンで明るい盛岡市に。
ふるさと納税をもっと積極的に進展させるべき。一度納税した人に市長が一文を添えて毎年納付書を送付する。
岩手のイメージは「温かい人」。その温かい人間継承こそまちづくりの土台となる。
第三者であるたとえば著名な作家や芸能人に依頼して新聞や雑誌で紀行文を書いてもらい，市の魅力をPRする。
経済特区の申請を検討する。
国際化を目指し，イベント等を誘致，開催する。
盛岡市内に中心となり得る街並みがなく，活気がない。
岩手県交通のバスが環境，観光，見た目すべてによくない。
アンケートが実筆や無記名というのが，市役所としての形骸的な意味を感じる。また，意図が不明。
他人に対し，優しい気持ちで接する態度を奨励する。
大手都市銀行の攻略（支店を盛岡にも）も必要。
地価・家賃の高さが経済活動・企業誘致の足を引っ張っている。
中心部の小売店舗は閉店し，飲食店（特に飲み屋）ばかり目立つのは残念。街並みは民度を反映する。PRを考える前に，PRできるものを創造したり守るべきことをまずは考えるべき。
昭和の人情を残す穏やかな都市。
人情味あふれる人柄（まじめ，親切）。
岩手県の北上山地が，ILCの候補地になったことをPRする。
新たに企業を誘致することは厳しい。
滝沢市の実現は無駄で逆行。
盛岡人の仕事に対する態度がたるんでいると思う。改善が必要。観光客をがっかりさせていることも多いのではと思い，周囲の人に盛岡観光を勧めるのをやめている。
何か一つ「盛岡といえば〇〇」，「日本一〇〇な都市」という特定分野に集中投資して，市内外に広くPRできるものを育ててほしい。
北東北の拠点都市を充実・実現するため，他にはない特色を強化する必要がある。
ターゲットを明確に。それぞれのターゲットにとって「メリット」となるものを打ち出す。
土地柄を熟知した人に，一足先を見せることが大切。盛岡の地盤の良さ。

●その他（市政関連，アンケートに関する意見など）

内容
県の企業誘致委員を務めたが，総合計画を推進するときは，良き方を協力者として招くこともよい。
古くても良いものを大事にしていくという気持ちは大切に（なぜ，城下町としての町名を変更してしまったのか。）。中津川等自然環境のよさ，アクセスのよさを活用・アピールしたい。